

福祉に関するアンケート 調査結果報告書

令和5年10月
羽曳野市

目 次

I アンケート調査の概要.....	1
1 調査の目的.....	1
2 調査概要.....	1
3 報告書の見方.....	1
II 当事者用アンケート調査結果.....	2
1. あなた自身と介助をする人のことについて.....	2
2. あなたの障害の状況について.....	9
3. あなたが利用しているサービス.....	20
4. 権利擁護について.....	27
5. 災害時の避難等について.....	32
6. 地域活動への参加について.....	38
7. 住まいや暮らしについて.....	40
8. 悩みや相談相手について.....	44
9. 日中活動や就労について.....	50
10. 学校のこと、将来のことについて.....	60
11. 障害福祉行政について.....	70
III 事業所用アンケート調査結果.....	72
1. 事業所の概要について.....	72
2. 障害福祉の各分野について.....	83
IV 団体アンケート調査結果.....	100
1. 貴団体の概要について.....	100
2. 福祉サービス等について.....	101
3. 発達支援、保育、教育（学校生活など）について.....	102
4. 就労や社会参加について.....	103
5. 地域住民組織による地域福祉活動への参加や協力関係について.....	103
6. 相談支援体制について.....	103
7. 住まいや生活環境について.....	104
8. 配慮を必要とする子どもの現状と支援について.....	104
9. 総合的な推進について.....	105
10. 今後について.....	105

I アンケート調査の概要

1 調査の目的

本調査は、「第7期羽曳野市障害福祉計画・第3期羽曳野市障害児福祉計画」を策定するにあたり、当事者やそのご家族が抱える課題やサービスに対するニーズ等を把握し、円滑な計画策定に必要な基礎資料とすることを目的に実施しました。

2 調査概要

	当事者対象調査	事業所対象調査	団体対象調査
調査対象	障害者手帳を所持している市民または自立支援医療を受給している市民	市内で障害福祉サービスを提供する事業所	市内で活動をしている当事者・家族団体や支援団体
対象者数	2,811件	60件	6件
調査方法	郵送による配布・回収 (WEB回答を併用)	郵送による配布・回収	
調査期間	令和5年9月4日～9月20日		
回収数	1,260件	42件	3件
回収率	44.8%	70.0%	50.0%

3 報告書の見方

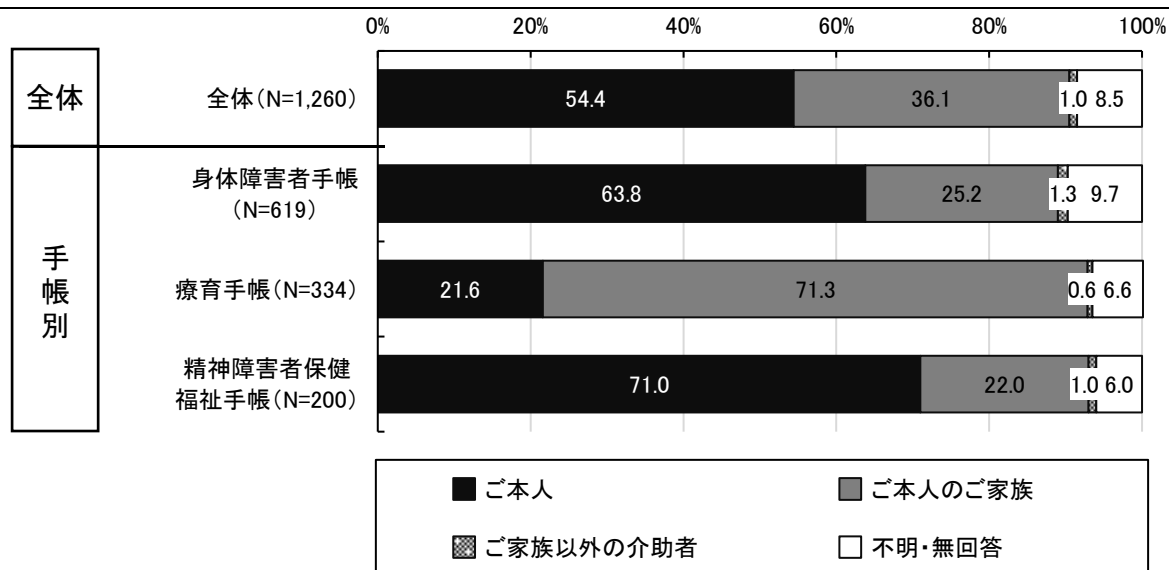
- ◇回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- ◇複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ◇図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ◇図表中の「N (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- ◇本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。

Ⅱ 当事者用アンケート調査結果

1. あなた自身と介助をする人のことについて

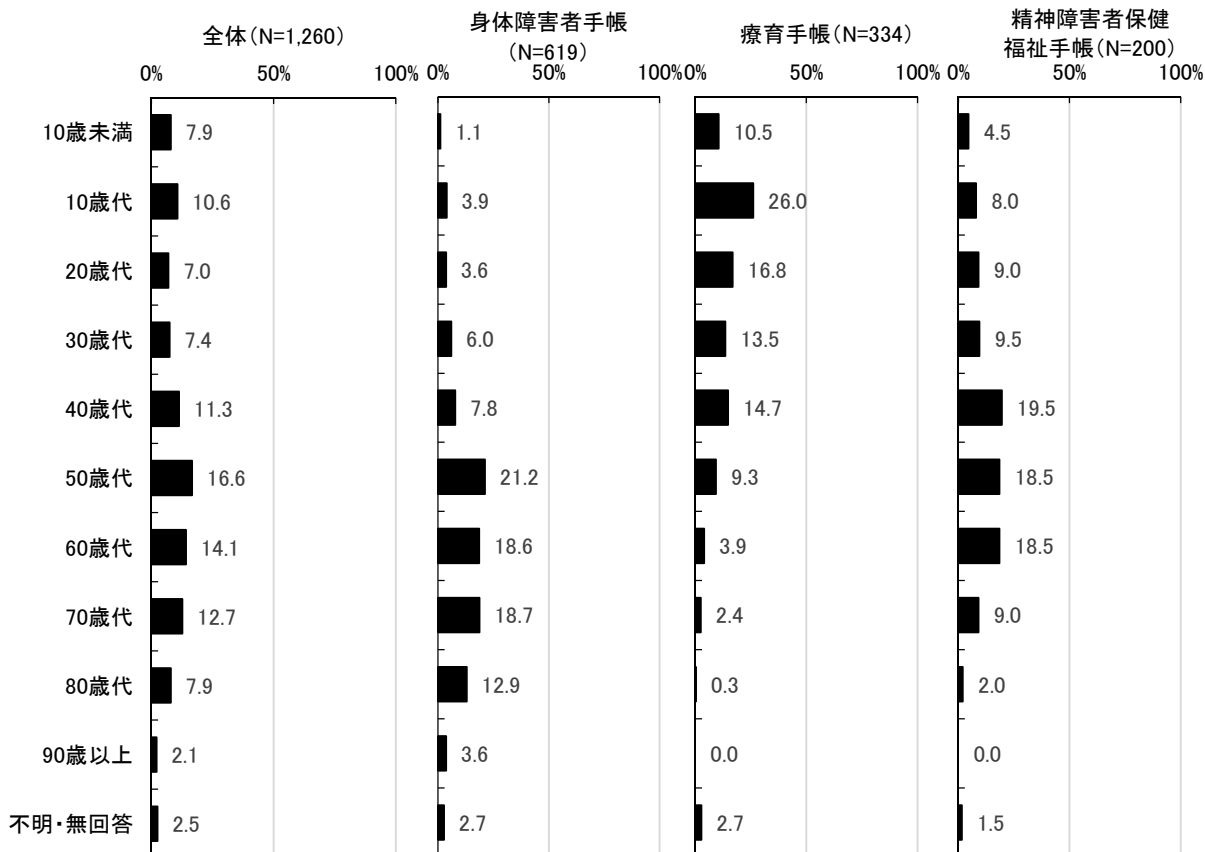
1 (1) このアンケートにご回答していただくのはどなたですか。(〇は1つだけ)

回答者についてみると、全体では「ご本人」が54.4%と最も高く、次いで「ご本人のご家族」が36.1%、「ご家族以外の介助者」が1.0%となっています。所持手帳別でみると、[身体障害者手帳]では「ご本人」が63.8%となっています。[療育手帳]では「ご本人のご家族」が71.3%となっています。[精神障害者保健福祉手帳]では「ご本人」が71.0%となっています。



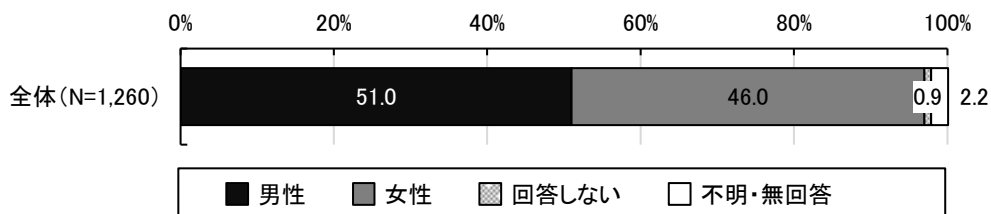
1 (2) あなたの年齢（令和5年8月1日現在）をお答えください。（数量）

年齢についてみると、全体では「50歳代」が16.6%と最も高く、次いで「60歳代」が14.1%、「70歳代」が12.7%となっています。所持手帳別でみると、[身体障害者手帳]では「50歳代」が21.2%となっています。[療育手帳]では「10歳代」が26.0%となっています。[精神障害者保健福祉手帳]では「40歳代」が19.5%となっています。



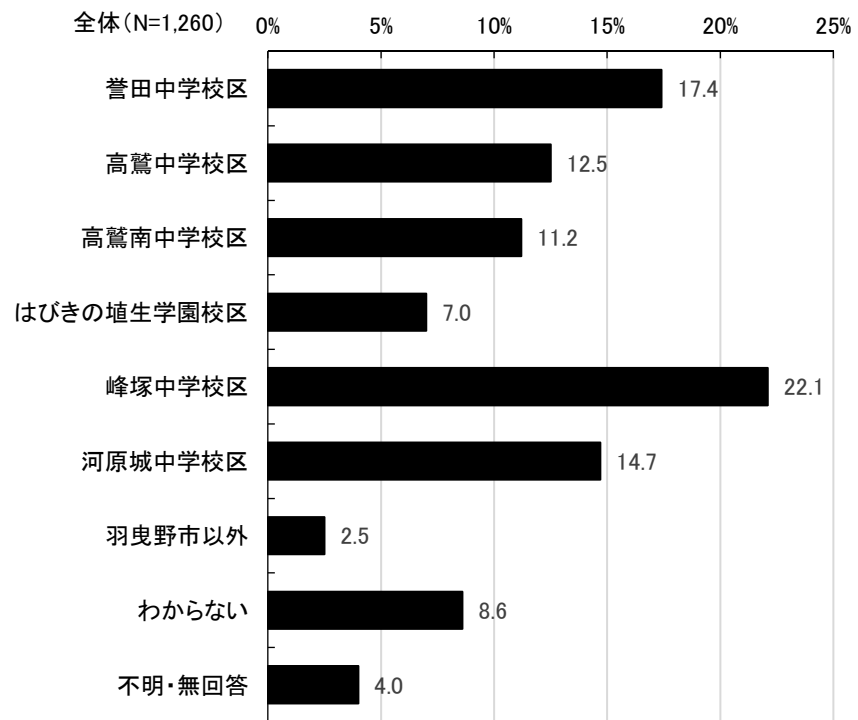
1 (3) あなたの性別をお答えください。（○は1つだけ）

性別についてみると、全体では「男性」が51.0%と最も高く、次いで「女性」が46.0%、「回答しない」が0.9%となっています。



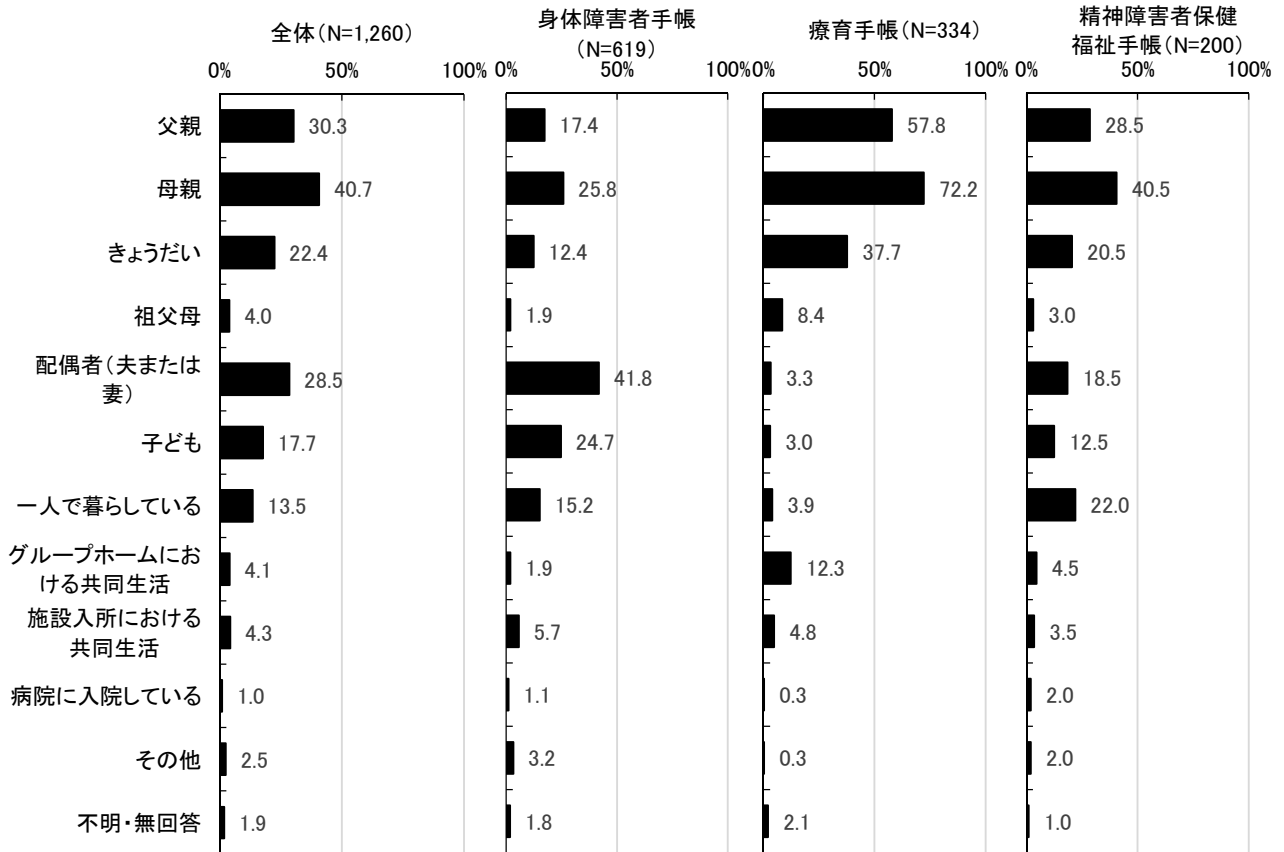
1 (4) あなたがお住まいの地域はどの中学校の校区ですか。(〇は1つだけ)

お住まいの地域(中学校区)についてみると、全体では「峰塚中学校区」が22.1%と最も高く、次いで「誉田中学校区」が17.4%、「河原城中学校区」が14.7%となっています。



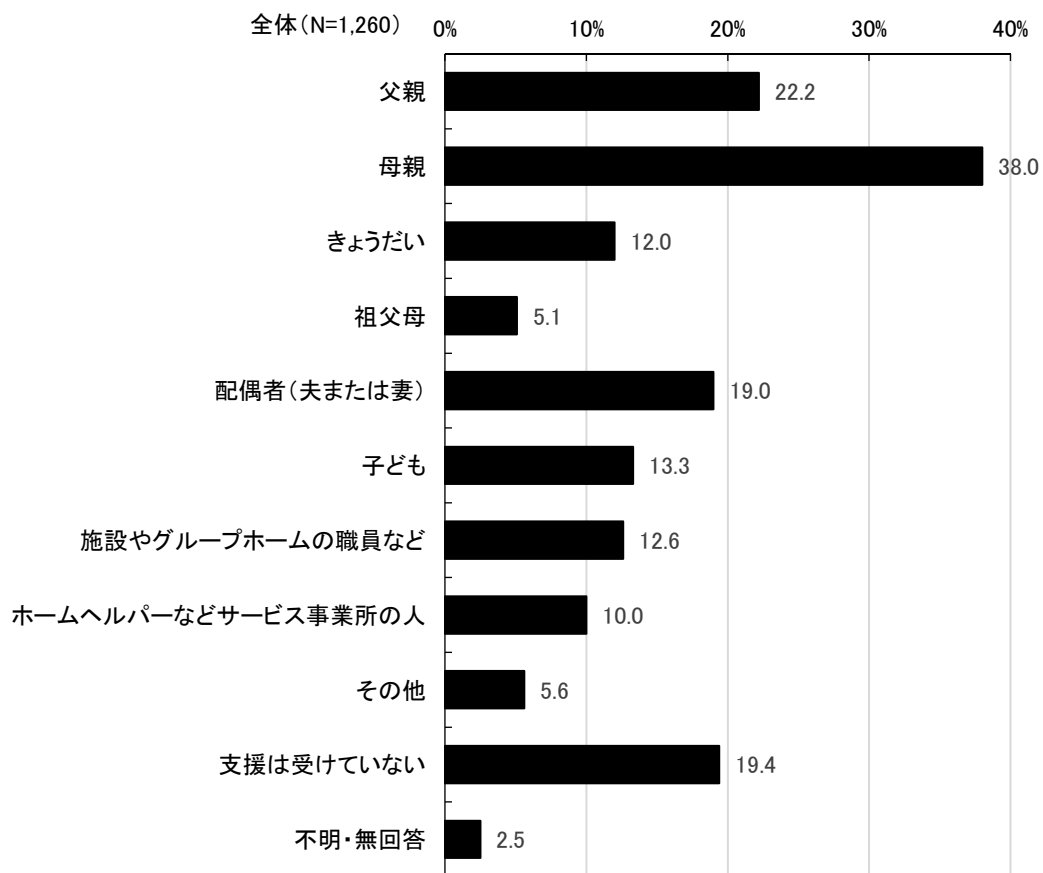
1 (5) 現在、あなたが一緒に暮らしている人は、どなたですか。(あてはまるものすべてに○)

一緒に暮らしている人についてみると、全体では「母親」が 40.7%と最も高く、次いで「父親」が 30.3%、「配偶者(夫または妻)」が 28.5%となっています。所持手帳別でみると、[身体障害者手帳]では「配偶者(夫または妻)」が 41.8%となっています。[療育手帳]では「母親」が 72.2%となっています。[精神障害者保健福祉手帳]では「母親」が 40.5%となっています。



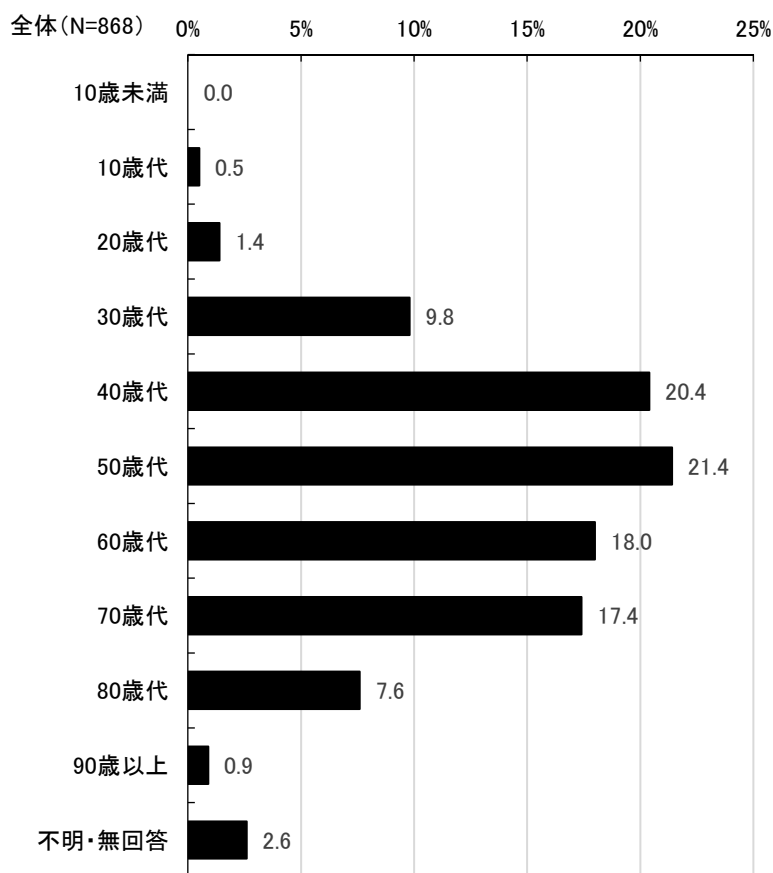
1(6) あなたが一人でできないことを支援している方は主にどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

主な支援者についてみると、全体では「母親」が38.0%と最も高く、次いで「父親」が22.2%、「支援は受けていない」が19.4%となっています。



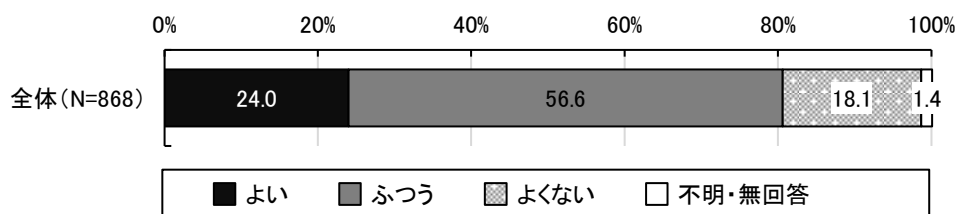
1 (7) あなたを支援している家族で、特に中心となっている方の年齢をお答えください。(令和5年8月1日現在) (数量)

主な支援者の年齢についてみると、全体では「50歳代」が21.4%と最も高く、次いで「40歳代」が20.4%、「60歳代」が18.0%となっています。



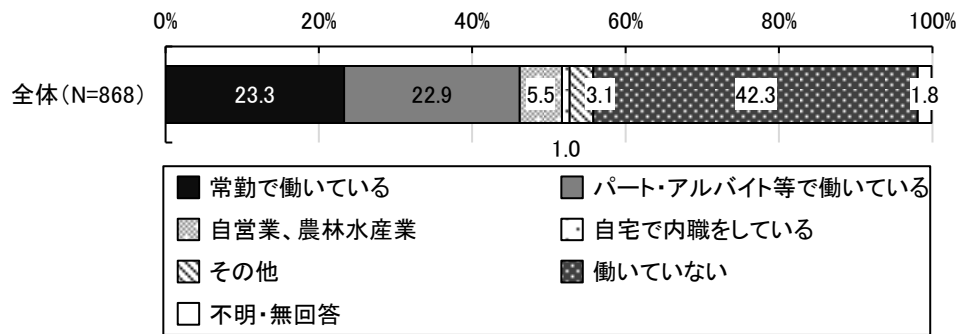
1 (8) あなたを支援している家族で、特に中心となっている方の健康状態をお答えください。(○は1つだけ)

主な支援者の健康状態についてみると、全体では「ふつう」が56.6%と最も高く、次いで「よい」が24.0%、「よくない」が18.1%となっています。



1 (9) あなたを主に介助・支援している方は働いていますか。(○は1つだけ)

主に介助・支援している方の就労状況についてみると、全体では「働いていない」が42.3%と最も高く、次いで「常勤で働いている」が23.3%、「パート・アルバイト等で働いている」が22.9%となっています。

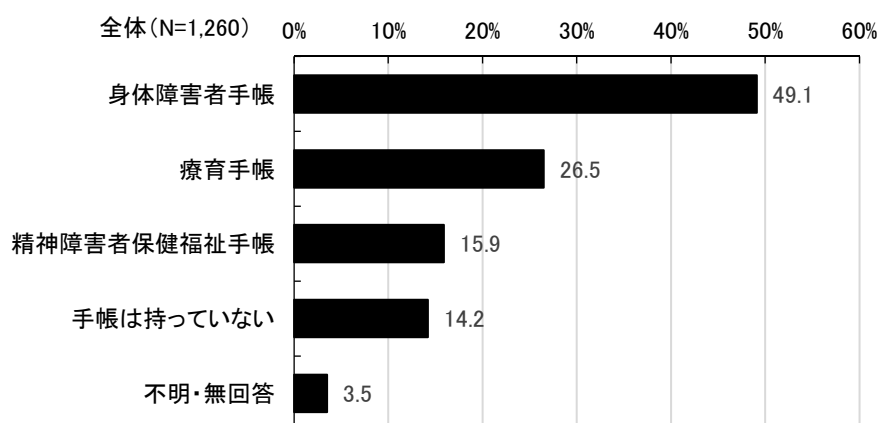


2. あなたの障害の状況について

2 (1) あなたは、次の手帳を持っていますか。持っている場合は、その内容についてお答えください。(《手帳の種類》《障害の程度》《障害の内容》それぞれあてはまるものすべてに○)

所持している手帳についてみると、全体では「身体障害者手帳」が49.1%と最も高く、次いで「療育手帳」が26.5%、「精神障害者保健福祉手帳」が15.9%となっています。

年代別でみると、[10歳未満]では「手帳は持っていない」が53.5%となっています。[10歳代]では「療育手帳」が65.4%となっています。[20歳代]では「療育手帳」が63.6%となっています。[30歳代]では「療育手帳」が48.4%となっています。[40歳代]では「療育手帳」が34.3%となっています。[50歳代]では「身体障害者手帳」が62.7%となっています。[60歳代]では「身体障害者手帳」が64.6%となっています。[70歳代]では「身体障害者手帳」が72.5%となっています。[80歳代]では「身体障害者手帳」が80.8%となっています。[90歳以上]では「身体障害者手帳」が84.6%となっています。

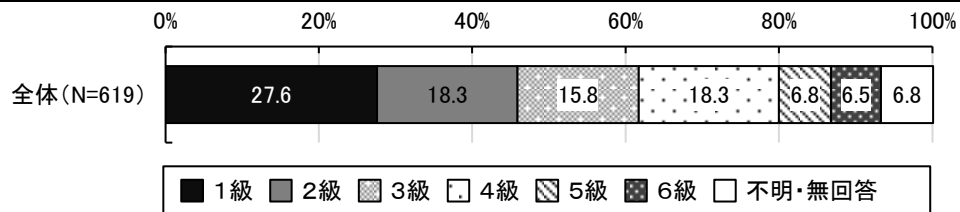


		身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者保健福祉手帳	手帳は持っていない	不明・無回答
全体	全体(N=1,260)	49.1	26.5	15.9	14.2	3.5
年代別	10歳未満(N=99)	7.1	35.4	9.1	53.5	2.0
	10歳代(N=133)	18.0	65.4	12.0	16.5	2.3
	20歳代(N=88)	25.0	63.6	20.5	9.1	1.1
	30歳代(N=93)	39.8	48.4	20.4	9.7	3.2
	40歳代(N=143)	33.6	34.3	27.3	14.0	2.1
	50歳代(N=209)	62.7	14.8	17.7	11.0	1.0
	60歳代(N=178)	64.6	7.3	20.8	10.7	4.5
	70歳代(N=160)	72.5	5.0	11.3	8.8	6.3
	80歳代(N=99)	80.8	1.0	4.0	7.1	7.1
	90歳以上(N=26)	84.6	0.0	0.0	11.5	3.8

身体障害者手帳の等級（○は1つだけ）

身体障害者手帳の等級についてみると、全体では「1級」が27.6%と最も高く、次いで「2級」および「4級」がそれぞれ18.3%となっています。

年代別でみると、[10歳未満]では「1級」が28.6%となっています。[10歳代]では「1級」が33.3%となっています。[20歳代]では「1級」が27.3%となっています。[30歳代]では「2級」が29.7%となっています。[40歳代]では「1級」が25.0%となっています。[50歳代]では「2級」が26.0%となっています。[60歳代]では「1級」が30.4%となっています。[70歳代]では「1級」が28.4%となっています。[80歳代]では「4級」が25.0%となっています。[90歳以上]では「1級」が40.9%となっています。

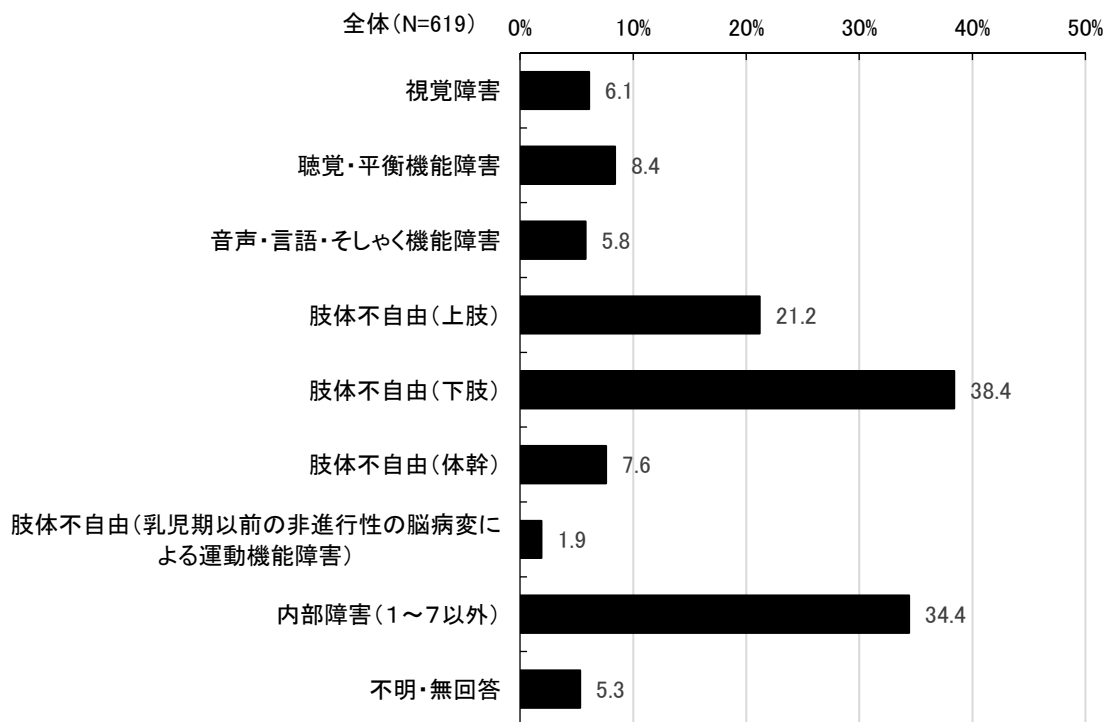


		1級	2級	3級	4級	5級	6級	不明・無回答
全体	全体(N=619)	27.6	18.3	15.8	18.3	6.8	6.5	6.8
	10歳未満(N=7)	28.6	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0	42.9
年代別	10歳代(N=24)	33.3	0.0	12.5	12.5	4.2	4.2	33.3
	20歳代(N=22)	27.3	22.7	9.1	22.7	4.5	0.0	13.6
	30歳代(N=37)	24.3	29.7	18.9	5.4	2.7	8.1	10.8
	40歳代(N=48)	25.0	16.7	20.8	14.6	10.4	2.1	10.4
	50歳代(N=131)	25.2	26.0	16.0	16.8	6.9	6.9	2.3
	60歳代(N=115)	30.4	19.1	17.4	16.5	8.7	6.1	1.7
	70歳代(N=116)	28.4	10.3	17.2	21.6	6.0	9.5	6.9
	80歳代(N=80)	22.5	13.8	15.0	25.0	8.8	10.0	5.0
	90歳以上(N=22)	40.9	18.2	4.5	27.3	4.5	0.0	4.5

身体障害者手帳所持者の障害の内容（あてはまるものすべてに○）

身体障害者手帳所持者の障害の内容についてみると、全体では「肢体不自由（下肢）」が38.4%と最も高く、次いで「内部障害（1～7以外）」が34.4%、「肢体不自由（上肢）」が21.2%となっています。

年代別でみると、[10歳未満]では「内部障害（1～7以外）」が42.9%となっています。[10歳代]では「内部障害（1～7以外）」が50.0%となっています。[20歳代]では「内部障害（1～7以外）」が36.4%となっています。[30歳代]では「肢体不自由（下肢）」が35.1%となっています。[40歳代]では「内部障害（1～7以外）」が50.0%となっています。[50歳代]では「肢体不自由（下肢）」が43.5%となっています。[60歳代]では「肢体不自由（下肢）」が41.7%となっています。[70歳代]では「肢体不自由（下肢）」が45.7%となっています。[80歳代]では「肢体不自由（下肢）」が33.8%となっています。[90歳以上]では「内部障害（1～7以外）」が45.5%となっています。

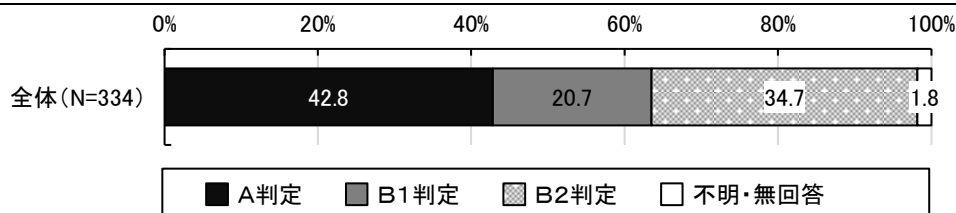


		視覚障害	聴覚・平衡機能障害	音声・言語・そしゃく機能障害	肢体不自由(上肢)	肢体不自由(下肢)	肢体不自由(体幹)	肢体不自由	内部障害(1～7以外)	不明・無回答
全体	全体(N=619)	6.1	8.4	5.8	21.2	38.4	7.6	1.9	34.4	5.3
年代別	10歳未満(N=7)	0.0	14.3	0.0	28.6	14.3	28.6	0.0	42.9	0.0
	10歳代(N=24)	0.0	8.3	16.7	29.2	33.3	12.5	8.3	50.0	0.0
	20歳代(N=22)	4.5	9.1	13.6	22.7	31.8	9.1	9.1	36.4	4.5
	30歳代(N=37)	8.1	8.1	2.7	29.7	35.1	8.1	8.1	27.0	2.7
	40歳代(N=48)	6.3	4.2	6.3	16.7	27.1	14.6	0.0	50.0	2.1
	50歳代(N=131)	4.6	10.7	6.1	26.7	43.5	6.9	0.8	26.7	3.8
	60歳代(N=115)	7.0	4.3	4.3	24.3	41.7	6.1	2.6	33.9	4.3
	70歳代(N=116)	6.0	4.3	6.0	19.0	45.7	9.5	0.0	33.6	7.8
	80歳代(N=80)	8.8	20.0	3.8	12.5	33.8	1.3	1.3	30.0	10.0
	90歳以上(N=22)	4.5	4.5	4.5	9.1	27.3	9.1	0.0	45.5	4.5

療育手帳の等級（○は1つだけ）

療育手帳の等級についてみると、全体では「A判定」が42.8%と最も高く、次いで「B2判定」が34.7%、「B1判定」が20.7%となっています。

年代別でみると、[10歳未満]では「B2判定」が42.9%となっています。[10歳代]では「B2判定」が46.0%となっています。[20歳代]では「B2判定」が44.6%となっています。[30歳代]では「A判定」が60.0%となっています。[40歳代]では「A判定」が55.1%となっています。[50歳代]では「A判定」が45.2%となっています。[60歳代]では「B1判定」が46.2%となっています。[70歳代]では「A判定」「B1判定」がそれぞれ37.5%となっています。[80歳代]では「B1判定」が100.0%となっています。[90歳以上]は対象者がいませんでした。

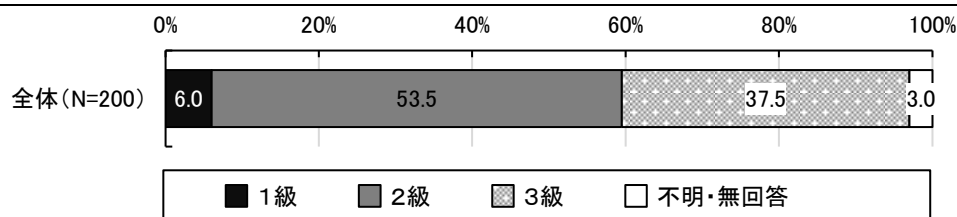


		A判定	B1判定	B2判定	不明・無回答
全体	全体(N=334)	42.8	20.7	34.7	1.8
	10歳未満(N=35)	22.9	28.6	42.9	5.7
年代別	10歳代(N=87)	36.8	14.9	46.0	2.3
	20歳代(N=56)	37.5	17.9	44.6	0.0
	30歳代(N=45)	60.0	15.6	24.4	0.0
	40歳代(N=49)	55.1	20.4	22.4	2.0
	50歳代(N=31)	45.2	29.0	22.6	3.2
	60歳代(N=13)	38.5	46.2	15.4	0.0
	70歳代(N=8)	37.5	37.5	25.0	0.0
	80歳代(N=1)	0.0	100.0	0.0	0.0
	90歳以上(N=0)	0.0	0.0	0.0	0.0

精神障害者保健福祉手帳の等級（○は1つだけ）

精神等級についてみると、全体では「2級」が53.5%と最も高く、次いで「3級」が37.5%、「1級」が6.0%となっています。

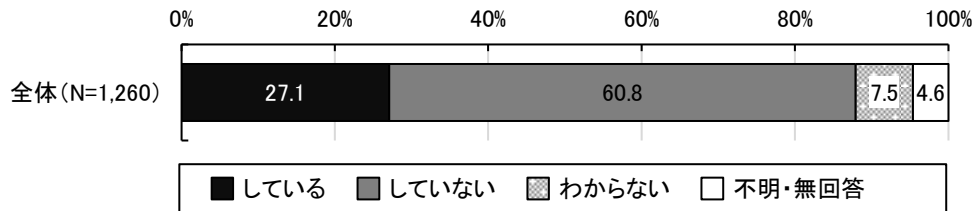
年代別で見ると、[10歳未満]では「3級」が88.9%となっています。[10歳代]では「3級」が100.0%となっています。[20歳代]では「2級」が61.1%となっています。[30歳代]では「2級」が57.9%となっています。[40歳代]では「2級」が64.1%となっています。[50歳代]では「2級」が56.8%となっています。[60歳代]では「2級」が64.9%となっています。[70歳代]では「2級」が61.1%となっています。[80歳代]では「2級」が50.0%となっています。[90歳以上]は対象者がいませんでした。



		1級	2級	3級	不明・無回答
全体	全体(N=200)	6.0	53.5	37.5	3.0
年代別	10歳未満(N=9)	0.0	11.1	88.9	0.0
	10歳代(N=16)	0.0	0.0	100.0	0.0
	20歳代(N=18)	0.0	61.1	38.9	0.0
	30歳代(N=19)	5.3	57.9	36.8	0.0
	40歳代(N=39)	2.6	64.1	33.3	0.0
	50歳代(N=37)	2.7	56.8	35.1	5.4
	60歳代(N=37)	13.5	64.9	13.5	8.1
	70歳代(N=18)	16.7	61.1	22.2	0.0
	80歳代(N=4)	25.0	50.0	0.0	25.0
	90歳以上(N=0)	0.0	0.0	0.0	0.0

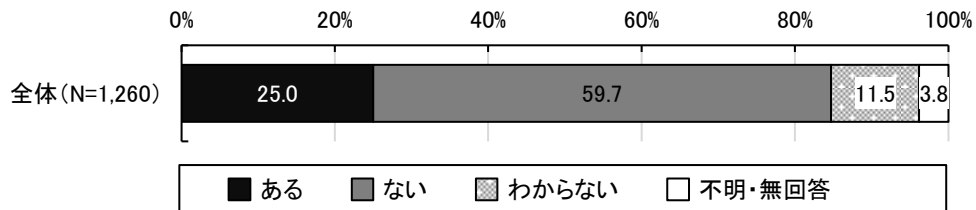
2 (2) あなたは、自立支援医療（精神通院医療）を受給していますか。（○は1つだけ）

自立支援医療（精神通院医療）を受給しているかについてみると、全体では「していない」が60.8%と最も高く、次いで「している」が27.1%、「わからない」が7.5%となっています。



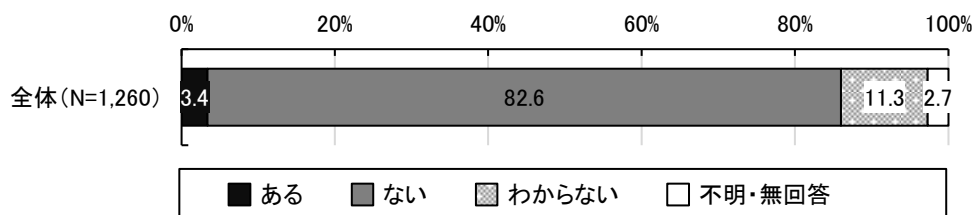
2 (3) あなたは、手帳の有無にかかわらず、発達障害と診断されたことはありますか。（○は1つだけ）

発達障害と診断されたことはあるかについてみると、全体では「ない」が59.7%と最も高く、次いで「ある」が25.0%、「わからない」が11.5%となっています。



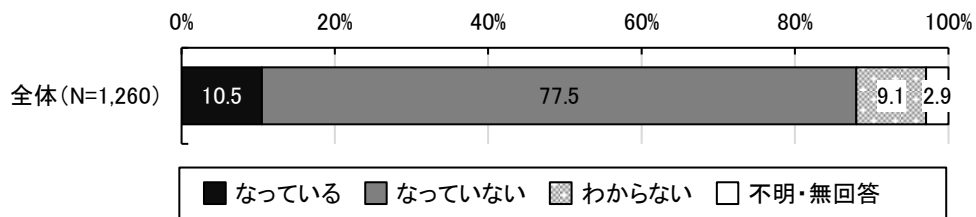
2 (4) あなたは、手帳の有無にかかわらず、高次脳機能障害と診断されたことはありますか。（○は1つだけ）

高次脳機能障害と診断されたことについてみると、全体では「ない」が82.6%と最も高く、次いで「わからない」が11.3%、「ある」が3.4%となっています。



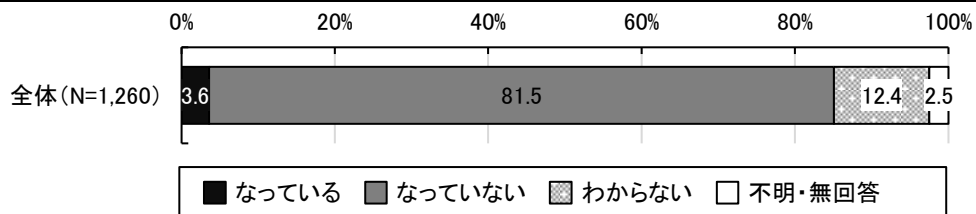
2 (5) あなたは、国が定める難病の対象となっていますか。(〇は1つだけ)

国が定める難病の対象となっているかについてみると、全体では「なっていない」が77.5%と最も高く、次いで「なっている」が10.5%、「わからない」が9.1%となっています。



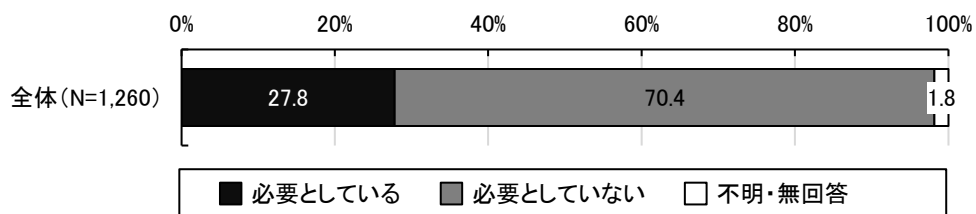
2 (6) あなたは、強度行動障害の対象となっていますか。(〇は1つだけ)

強度行動障害の対象となっているかについてみると、全体では「なっていない」が81.5%と最も高く、次いで「わからない」が12.4%、「なっている」が3.6%となっています。



2 (7) あなたは、日常的に医療的ケアを必要としていますか。(〇は1つだけ)

日常的に医療的ケアを必要としているかについてみると、全体では「必要としない」が70.4%、「必要としている」が27.8%となっています。

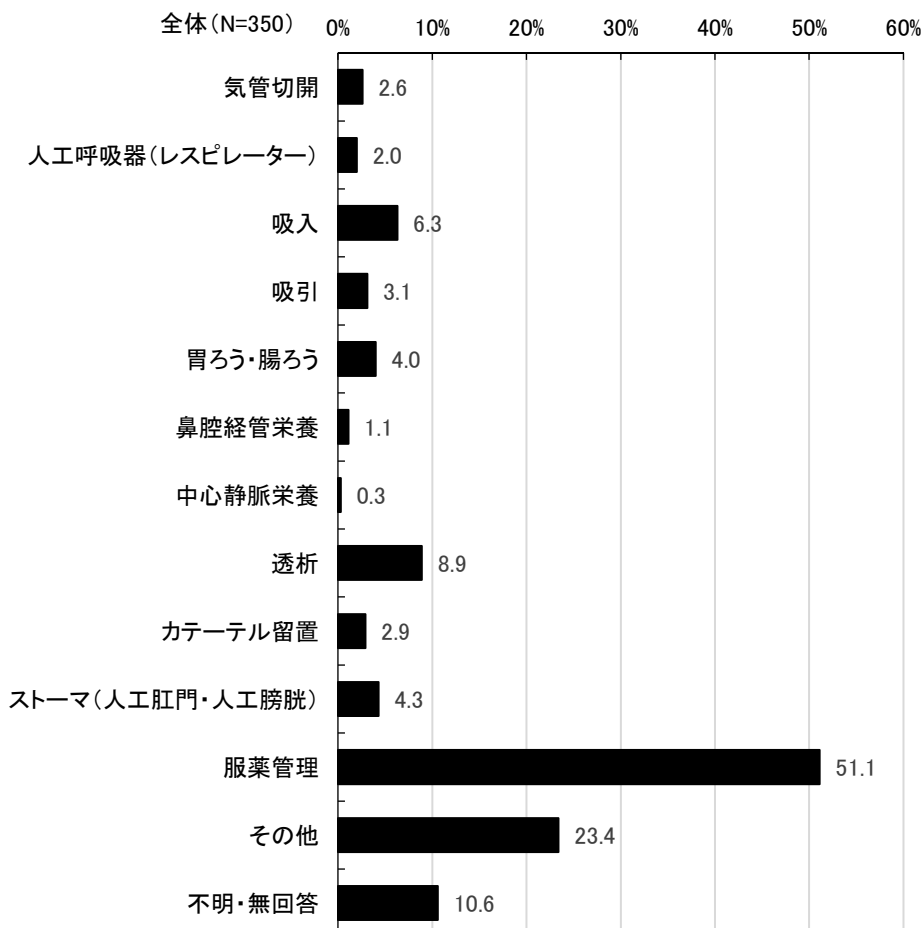


(7) で「1 必要としている」を選択した方

2 (8) あなたが現在受けている医療的ケアを教えてください。(あてはまるものすべてに○)

現在受けている医療的ケアについてみると、全体では「服薬管理」が 51.1%と最も高く、次いで「その他」が 23.4%、「透析」が 8.9%となっています。

医療的ケアが必要な方別でみると、[必要 (18 歳未満)]では「服薬管理」が 60.0%となっています。[必要 (18 歳以上)]では「服薬管理」が 50.6%となっています。



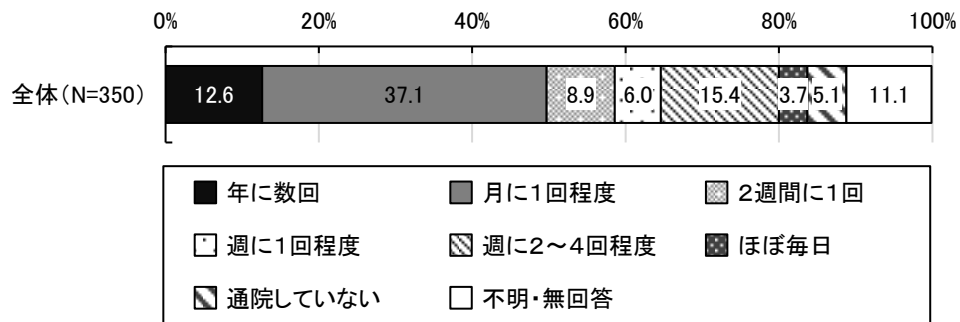
		気管切開	人工呼吸器(レスピレーター)	吸入	吸引	胃ろう・腸ろう	鼻腔経管栄養	中心静脈栄養	透析
全体	全体(N=350)	2.6	2.0	6.3	3.1	4.0	1.1	0.3	8.9
医療的ケア	必要(18歳未満)(N=20)	10.0	10.0	15.0	10.0	15.0	0.0	0.0	0.0
	必要(18歳以上)(N=330)	2.1	1.5	5.8	2.7	3.3	1.2	0.3	9.4
		カテーテル留置	ストーマ(人工肛門・人工膀胱)	服薬管理	その他	不明・無回答			
全体	全体(N=350)	2.9	4.3	51.1	23.4	10.6			
医療的ケア	必要(18歳未満)(N=20)	0.0	0.0	60.0	25.0	5.0			
	必要(18歳以上)(N=330)	3.0	4.5	50.6	23.3	10.9			

(7) で「1 必要としている」を選択した方

2 (9) あなたの現在の通院状況（リハビリを含む）は、次のうちどれですか。（○は1つだけ）

現在の通院状況（リハビリを含む）についてみると、全体では「月に1回程度」が37.1%と最も高く、次いで「週に2～4回程度」が15.4%、「年に数回」が12.6%となっています。

医療的ケアが必要な方別でみると、[必要（18歳未満）]では「月に1回程度」が50.0%となっています。[必要（18歳以上）]では「月に1回程度」が36.4%となっています。



		年に数回	月に1回程度	2週間に1回	週に1回程度	週に2～4回程度	ほぼ毎日	通院していない	不明・無回答
全体	全体(N=350)	12.6	37.1	8.9	6.0	15.4	3.7	5.1	11.1
医療的ケア	必要(18歳未満)(N=20)	20.0	50.0	10.0	0.0	10.0	0.0	0.0	10.0
	必要(18歳以上)(N=330)	12.1	36.4	8.8	6.4	15.8	3.9	5.5	11.2

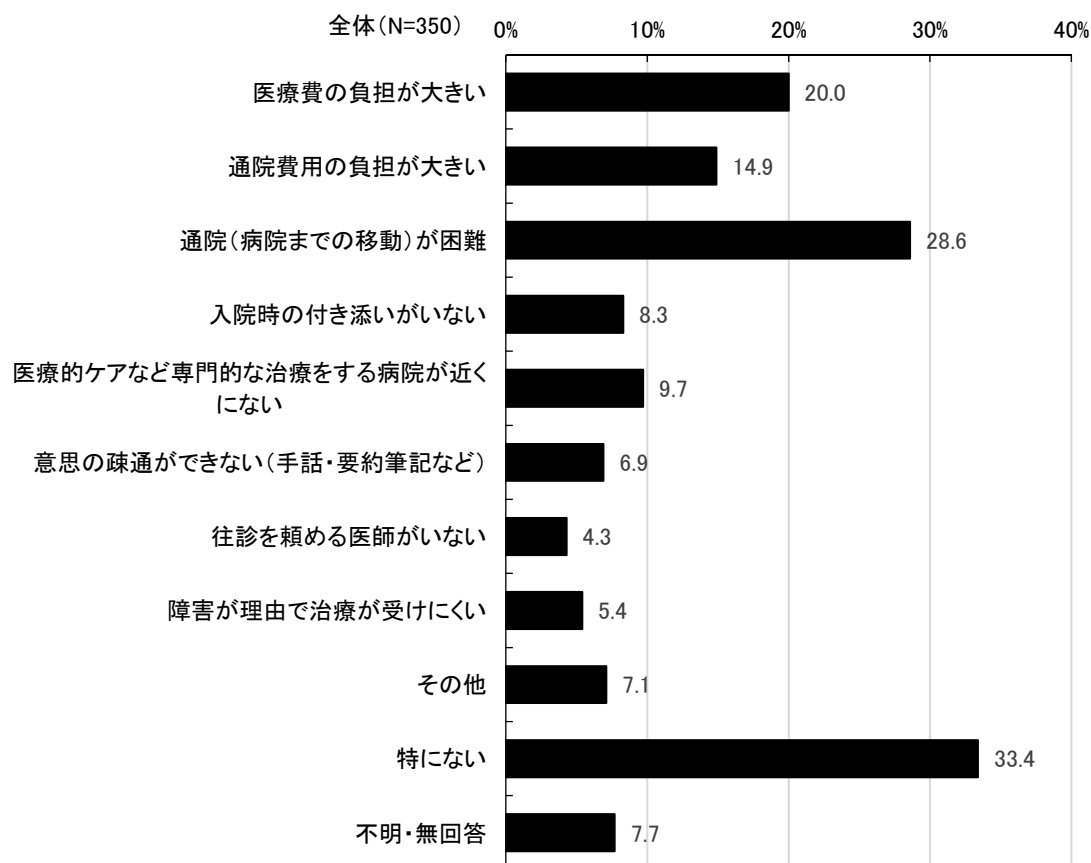
(7) で「1 必要としている」を選択した方

2 (10) あなたが病院などで医療を受けるうえで、特に困っていることについて教えてください。

(○は3つまで)

病院などで医療を受けるうえで、特に困っていることについてみると、全体では「特にない」が33.4%と最も高く、次いで「通院（病院までの移動）が困難」が28.6%、「医療費の負担が大きい」が20.0%となっています。

医療的ケアが必要な方別でみると、「特にない」を除くと、[必要（18歳未満）]では「通院（病院までの移動）が困難」が35.0%となっています。[必要（18歳以上）]では「通院（病院までの移動）が困難」が28.2%となっています。



		医療費の負担が大きい	通院費用の負担が大きい	通院(病院までの移動)が困難	入院時の付き添いがいない	医療的ケアなど専門的な治療をする病院が近くにない	意思の疎通ができない(手話・要約筆記など)	往診を頼める医師がいない	障害が理由で治療が受けにくい
全体	全体(N=350)	20.0	14.9	28.6	8.3	9.7	6.9	4.3	5.4
医療的ケア	必要(18歳未満)(N=20)	10.0	10.0	35.0	10.0	15.0	5.0	5.0	10.0
	必要(18歳以上)(N=330)	20.6	15.2	28.2	8.2	9.4	7.0	4.2	5.2

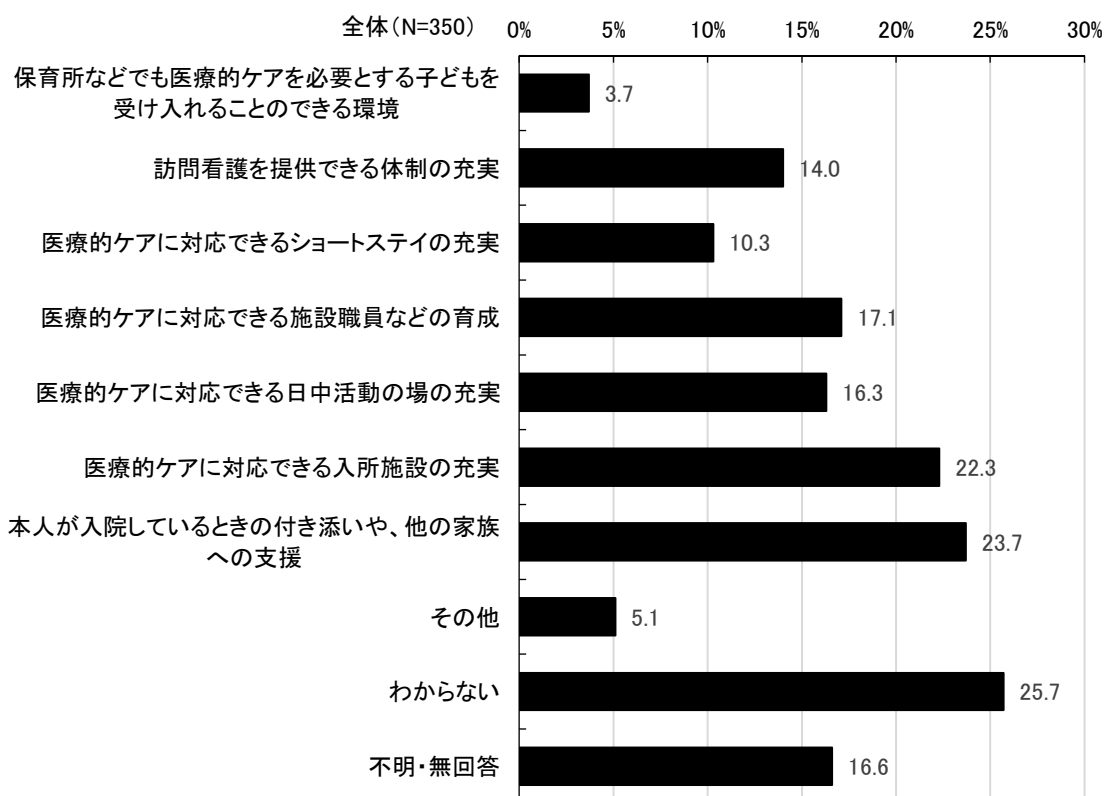
		その他	特にない	不明・無回答
全体	全体(N=350)	7.1	33.4	7.7
医療的ケア	必要(18歳未満)(N=20)	10.0	45.0	0.0
	必要(18歳以上)(N=330)	7.0	32.7	8.2

(7)で「1 必要としている」を選択した方

2 (11) あなたが、医療的ケアを必要とする人やその家族が安心して生活するために、特に充実すべきだと思うことは何ですか。(〇は3つまで)

医療的ケアを必要とする人やその家族が安心して生活するために、特に充実すべきだと思うことについてみると、全体では「わからない」が25.7%と最も高く、次いで「本人が入院しているときの付き添いや、他の家族への支援」が23.7%、「医療的ケアに対応できる入所施設の充実」が22.3%となっています。

医療的ケアが必要な方別でみると、[必要(18歳未満)]では「本人が入院しているときの付き添いや、他の家族への支援」が40.0%となっています。[必要(18歳以上)]では「わからない」が25.8%となっています。



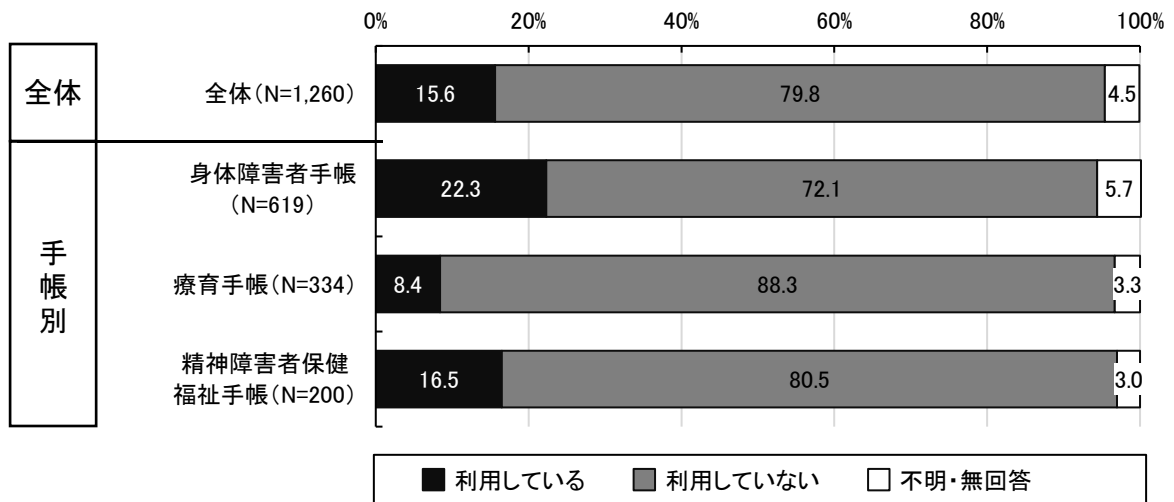
	保育所などでも医療的ケアを必要とする子どもを受け入れることのできる環境	訪問看護を提供できる体制の充実	医療的ケアに対応できるショートステイの充実	医療的ケアに対応できる施設職員などの育成	医療的ケアに対応できる日中活動の場の充実	医療的ケアに対応できる入所施設の充実	本人が入院しているときの付き添いや、他の家族への支援	その他	わからない	不明・無回答	
全体	全体(N=350)	3.7	14.0	10.3	17.1	16.3	22.3	23.7	5.1	25.7	16.6
医療的ケア	必要(18歳未満)(N=20)	30.0	5.0	25.0	15.0	30.0	20.0	40.0	0.0	25.0	10.0
	必要(18歳以上)(N=330)	2.1	14.5	9.4	17.3	15.5	22.4	22.7	5.5	25.8	17.0

3. あなたが利用しているサービス

3（1）あなたは介護保険によるサービスを利用していますか。（○は1つだけ）

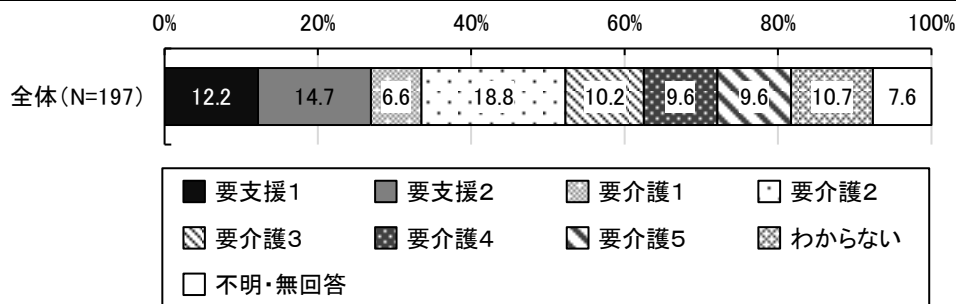
介護保険によるサービスを利用しているかについてみると、全体では「利用していない」が79.8%、「利用している」が15.6%となっています。

所持手帳別でみると、[身体障害者手帳]では「利用していない」が72.1%となっています。[療育手帳]では「利用していない」が88.3%となっています。[精神障害者保健福祉手帳]では「利用していない」が80.5%となっています。



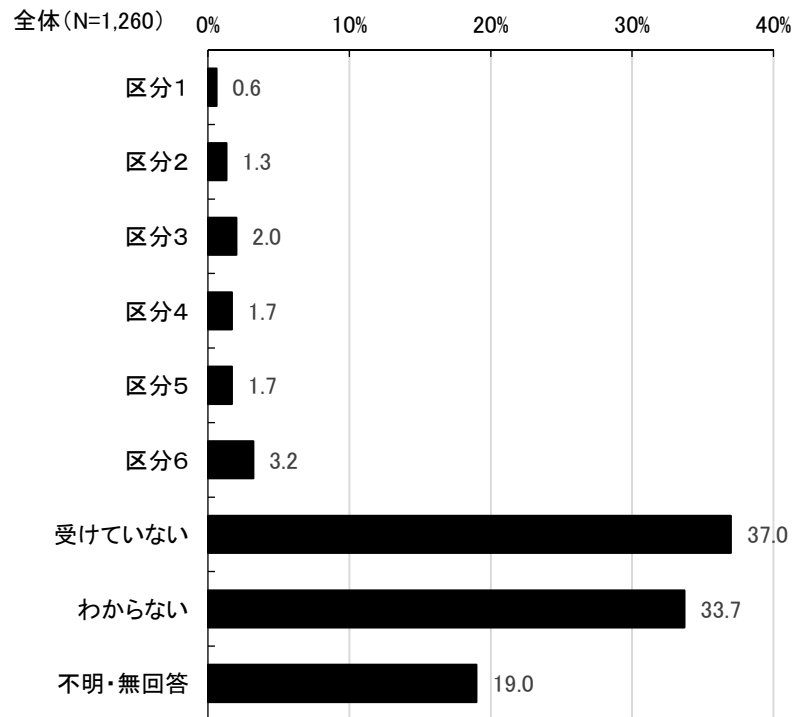
3（2）該当する要介護度はどれですか。（○は1つだけ）

該当する要介護度についてみると、全体では「要介護2」が18.8%と最も高く、次いで「要支援2」が14.7%、「要支援1」が12.2%となっています。



3 (3) あなたは障害支援区分の認定を受けていますか。(○は1つだけ)

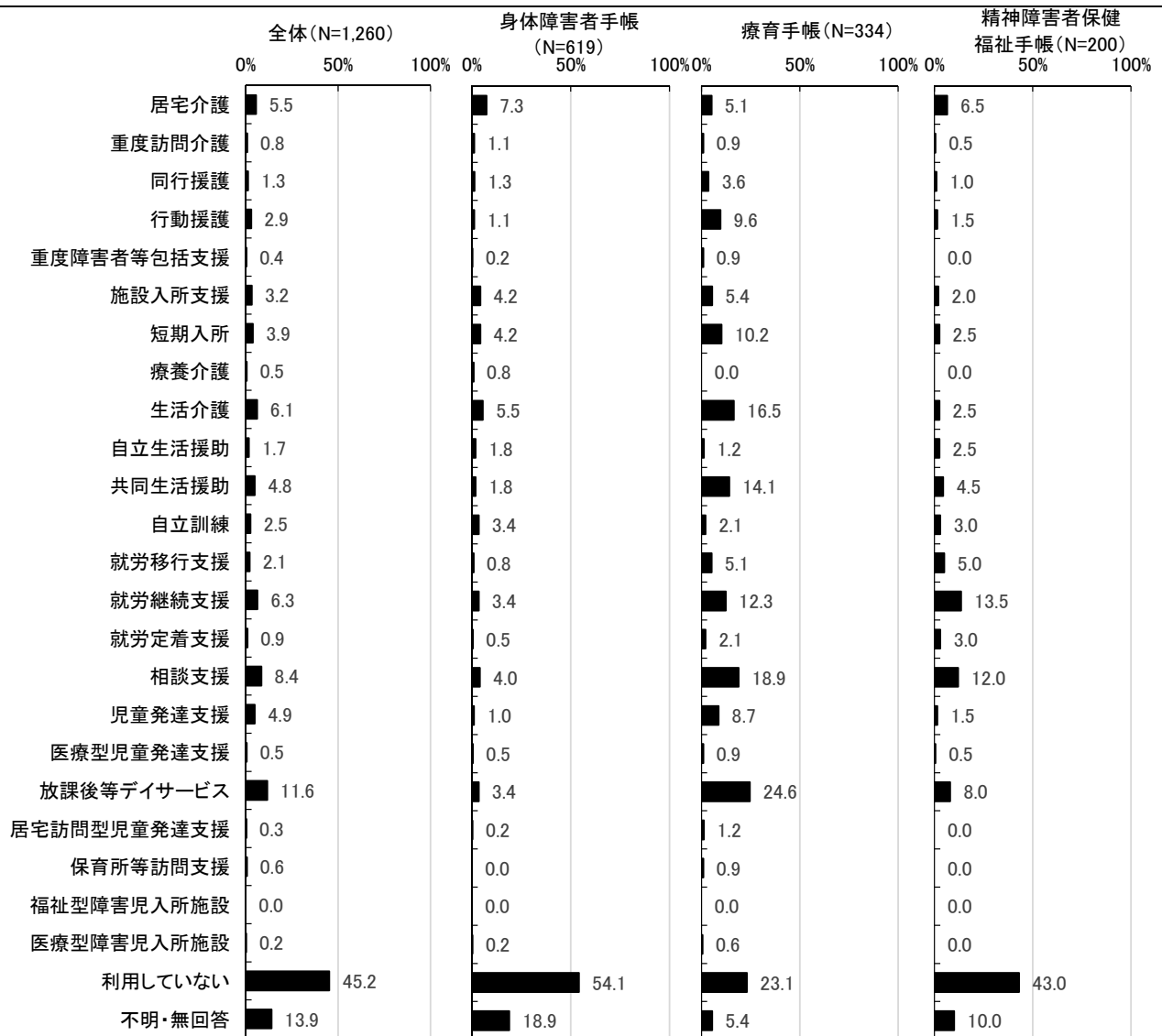
障害支援区分の認定を受けているかについてみると、全体では「受けていない」が37.0%と最も高く、次いで「わからない」が33.7%、「区分6」が3.2%となっています。



3 (4) あなたは以下の福祉サービスを利用していますか。過去1年以内に利用したことのあるサービスすべてに○をしてください。(あてはまるものすべてに○)

過去1年以内に利用したことのあるサービスについてみると、「利用していない」を除くと、全体では「放課後等デイサービス」が11.6%と最も高く、次いで「相談支援」が8.4%、「就労継続支援」が6.3%となっています。

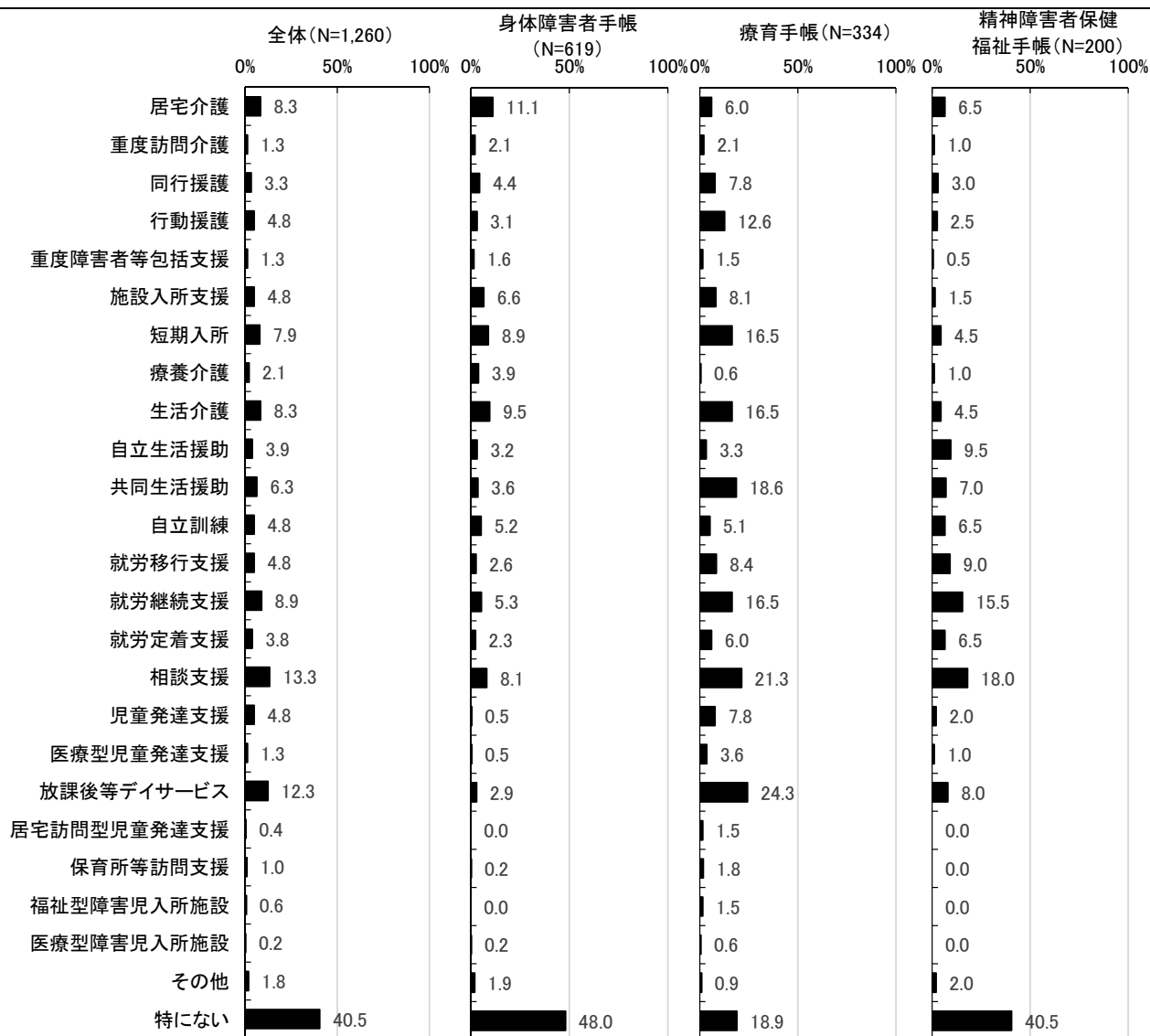
所持手帳別でみると、[身体障害者手帳]では「居宅介護」が7.3%となっています。[療育手帳]では「放課後等デイサービス」が24.6%となっています。[精神障害者保健福祉手帳]では「就労継続支援」が13.5%となっています。



3 (5) あなたは以下のサービスを今後3年間で利用したいと思いますか。現在利用しているサービスも含め、これから利用したいと思うサービスすべてに○をしてください。(あてはまるものすべてに○)

現在利用しているサービスも含め、今後3年間の間で利用したいと思うサービスについてみると、「特にない」を除くと、全体では「相談支援」が13.3%と最も高く、次いで「放課後等デイサービス」が12.3%、「就労継続支援」が8.9%となっています。所持手帳別でみると、[身体障害者手帳]では「居宅介護」が11.1%となっています。[療育手帳]では「放課後等デイサービス」が24.3%となっています。[精神障害者保健福祉手帳]では「相談支援」が18.0%となっています。

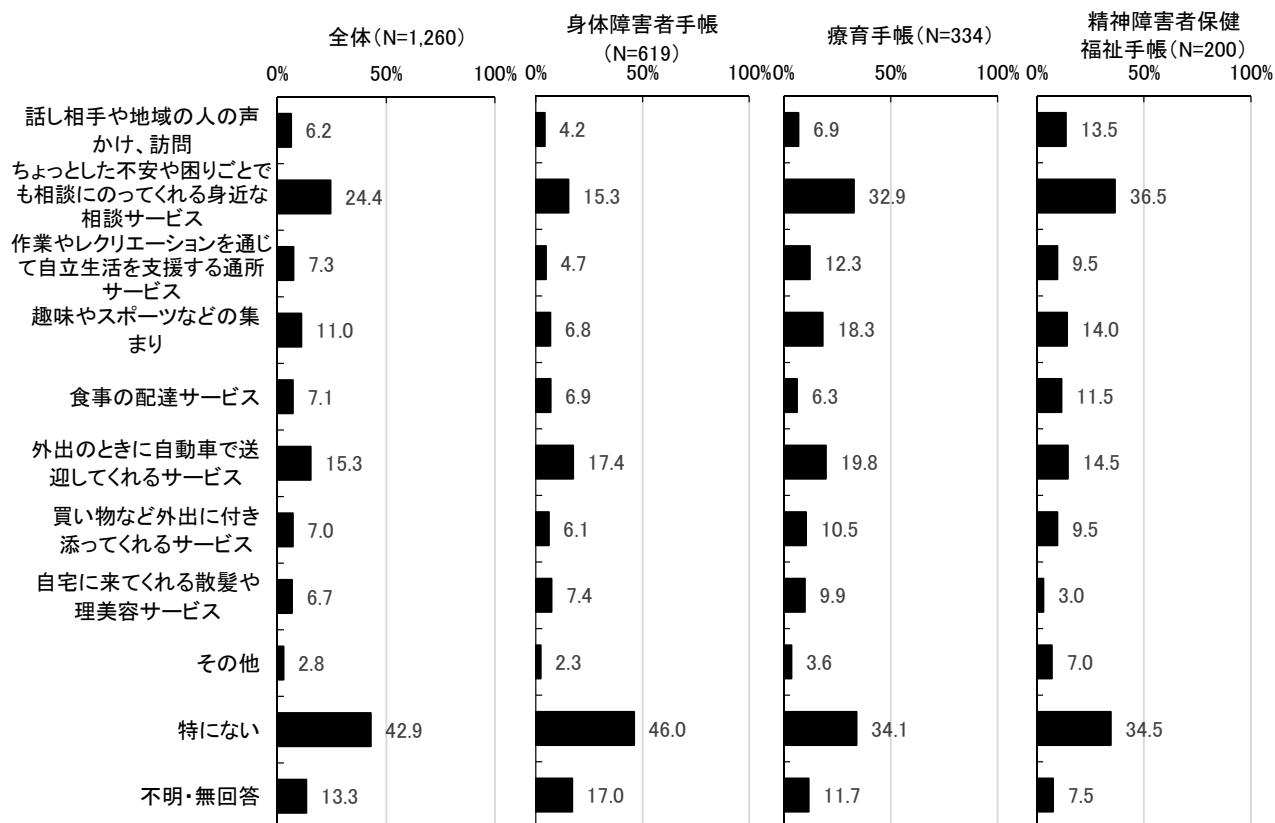
支援者別でみると、[家族]では「放課後等デイサービス」が17.3%となっています。[施設やGHの職員]では「共同生活援助」が25.5%となっています。[サービス事業所の職員]では「居宅介護」が44.0%となっています。[家族+施設やGHの職員]では「共同生活援助」が31.1%となっています。[家族+サービス事業所の職員]では「居宅介護」が32.8%となっています。[家族+施設やGHの職員+サービス事業所の職員]では「生活介護」が52.9%となっています。



		居宅介護	重度訪問介護	同行援護	行動援護	重度障害者等包括支援	施設入所支援	短期入所	療養介護	生活介護
全体	全体(N=1,260)	8.3	1.3	3.3	4.8	1.3	4.8	7.9	2.1	8.3
支援者	家族(N=681)	6.3	1.3	3.4	3.8	0.7	3.1	8.5	1.6	6.6
	施設やGHの職員(N=55)	12.7	1.8	3.6	7.3	5.5	20.0	1.8	9.1	14.5
	サービス事業所の職員(N=25)	44.0	4.0	0.0	4.0	4.0	4.0	0.0	4.0	16.0
	家族+施設やGHの職員(N=61)	8.2	1.6	11.5	16.4	3.3	21.3	14.8	3.3	19.7
	家族+サービス事業所の職員(N=58)	32.8	3.4	5.2	1.7	1.7	3.4	20.7	5.2	12.1
	家族+施設やGHの職員+サービス事業所の職員(N=34)	14.7	2.9	8.8	41.2	8.8	17.6	29.4	2.9	52.9
		自立生活援助	共同生活援助	自立訓練	就労移行支援	就労継続支援	就労定着支援	相談支援	児童発達支援	医療型児童発達支援
全体	全体(N=1,260)	3.9	6.3	4.8	4.8	8.9	3.8	13.3	4.8	1.3
支援者	家族(N=681)	3.5	3.1	6.2	5.4	7.6	3.4	14.2	6.9	1.8
	施設やGHの職員(N=55)	1.8	25.5	1.8	1.8	10.9	9.1	16.4	0.0	0.0
	サービス事業所の職員(N=25)	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	4.0	8.0	0.0	0.0
	家族+施設やGHの職員(N=61)	1.6	31.1	4.9	3.3	14.8	1.6	23.0	6.6	0.0
	家族+サービス事業所の職員(N=58)	8.6	1.7	3.4	3.4	8.6	3.4	19.0	8.6	5.2
	家族+施設やGHの職員+サービス事業所の職員(N=34)	8.8	44.1	8.8	2.9	20.6	0.0	29.4	2.9	0.0
		放課後等デイサービス	居宅訪問型児童発達支援	保育所等訪問支援	福祉型障害児入所施設	医療型障害児入所施設	その他	特になし	不明・無回答	
全体	全体(N=1,260)	12.3	0.4	1.0	0.6	0.2	1.8	40.5	9.0	
支援者	家族(N=681)	17.3	0.3	1.2	0.4	0.1	2.2	38.0	9.3	
	施設やGHの職員(N=55)	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0	3.6	25.5	9.1	
	サービス事業所の職員(N=25)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	32.0	8.0	
	家族+施設やGHの職員(N=61)	21.3	0.0	0.0	3.3	0.0	0.0	13.1	3.3	
	家族+サービス事業所の職員(N=58)	22.4	3.4	5.2	0.0	0.0	1.7	8.6	8.6	
	家族+施設やGHの職員+サービス事業所の職員(N=34)	5.9	0.0	2.9	0.0	0.0	2.9	5.9	5.9	

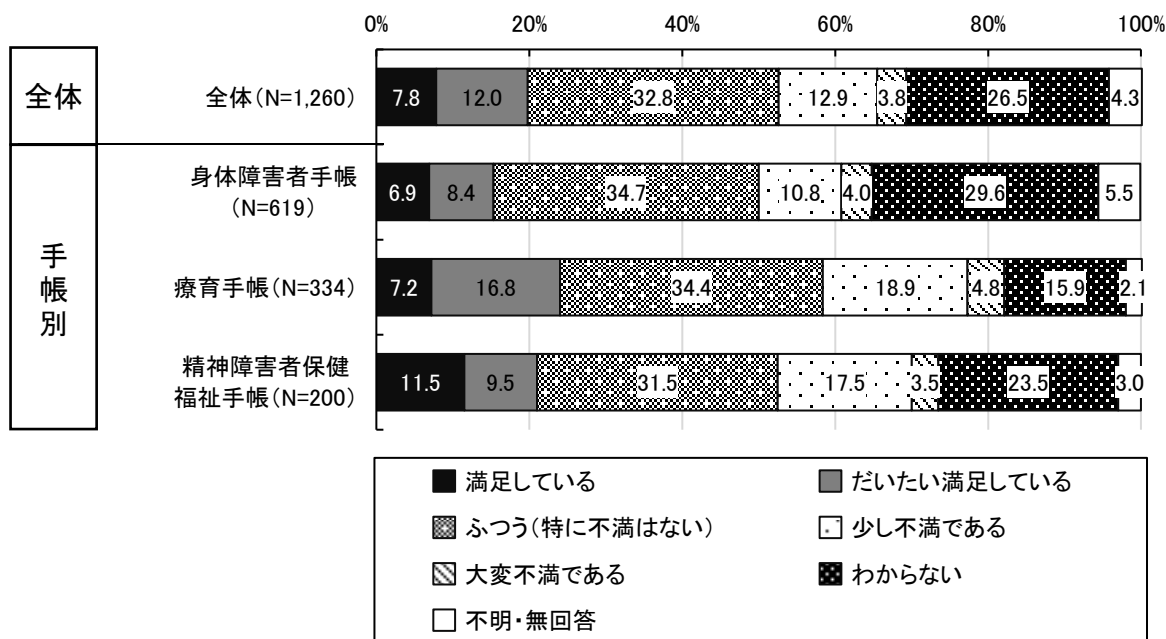
3 (6) (5) のサービス以外で、必要な支援はありますか。(あてはまるものすべてに○)

障害福祉サービス以外で、必要な支援についてみると、「特にない」を除くと、全体では「ちょっとした不安や困りごとでも相談にのってくれる身近な相談サービス」が24.4%と最も高く、次いで「外出のときに自動車で送迎してくれるサービス」が15.3%、「趣味やスポーツなどの集まり」が11.0%となっています。所持手帳別でみると、[身体障害者手帳]では「外出のときに自動車で送迎してくれるサービス」が17.4%となっています。[療育手帳]では「ちょっとした不安や困りごとでも相談にのってくれる身近な相談サービス」が32.9%となっています。[精神障害者保健福祉手帳]では「ちょっとした不安や困りごとでも相談にのってくれる身近な相談サービス」が36.5%となっています。”



3 (7) あなたは、羽曳野市の福祉サービスについて、全体としてどのように感じていますか。(○は1つだけ)

羽曳野市の福祉サービスについて、どのように感じているかについてみると、全体では「ふつう（特に不満はない）」が32.8%と最も高く、次いで「わからない」が26.5%、「少し不満である」が12.9%となっています。所持手帳別でみると、[身体障害者手帳]では「ふつう（特に不満はない）」が34.7%となっています。[療育手帳]では「ふつう（特に不満はない）」が34.4%となっています。[精神障害者保健福祉手帳]では「ふつう（特に不満はない）」が31.5%となっています。



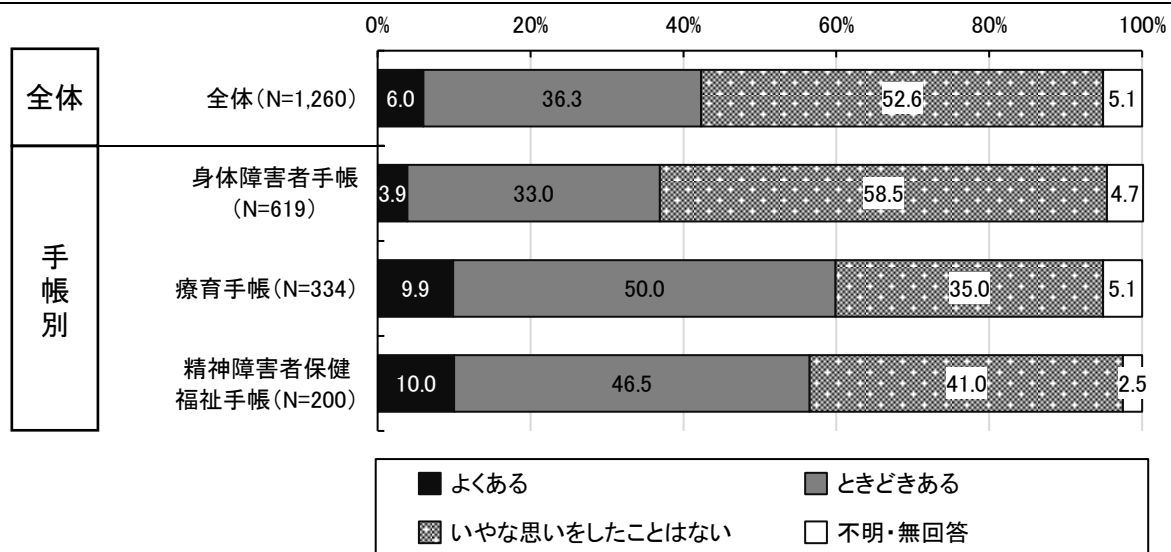
		満足している	だいたい満足している	ふつう(特に不満はない)	少し不満である	大変不満である	わからない	不明・無回答
全体	全体 (N=1,260)	7.8	12.0	32.8	12.9	3.8	26.5	4.3
支援者	家族 (N=681)	7.0	12.5	30.4	13.2	4.7	28.3	3.8
	施設やGHの職員 (N=55)	10.9	12.7	38.2	5.5	3.6	21.8	7.3
	サービス事業所の職員 (N=25)	20.0	16.0	40.0	4.0	4.0	16.0	0.0
	家族+施設やGHの職員 (N=61)	6.6	27.9	44.3	11.5	1.6	6.6	1.6
	家族+サービス事業所の職員 (N=58)	10.3	13.8	34.5	19.0	8.6	8.6	5.2
	家族+施設やGHの職員+サービス事業所の職員 (N=34)	17.6	8.8	29.4	29.4	2.9	5.9	5.9

4. 権利擁護について

4（1）あなたは、障害等があることで、ふだんの生活の中で差別を受けたり、いやな思いをしたことがありますか。（○は1つだけ）

障害等があることで、日常生活の中で差別を受けたり、いやな思いをしたことについてみると、全体では「いやな思いをしたことはない」が52.6%と最も高く、次いで「ときどきある」が36.3%、「よくある」が6.0%となっています。

所持手帳別でみると、[身体障害者手帳]では「いやな思いをしたことはない」が58.5%となっています。[療育手帳]では「ときどきある」が50.0%となっています。[精神障害者保健福祉手帳]では「ときどきある」が46.5%となっています。

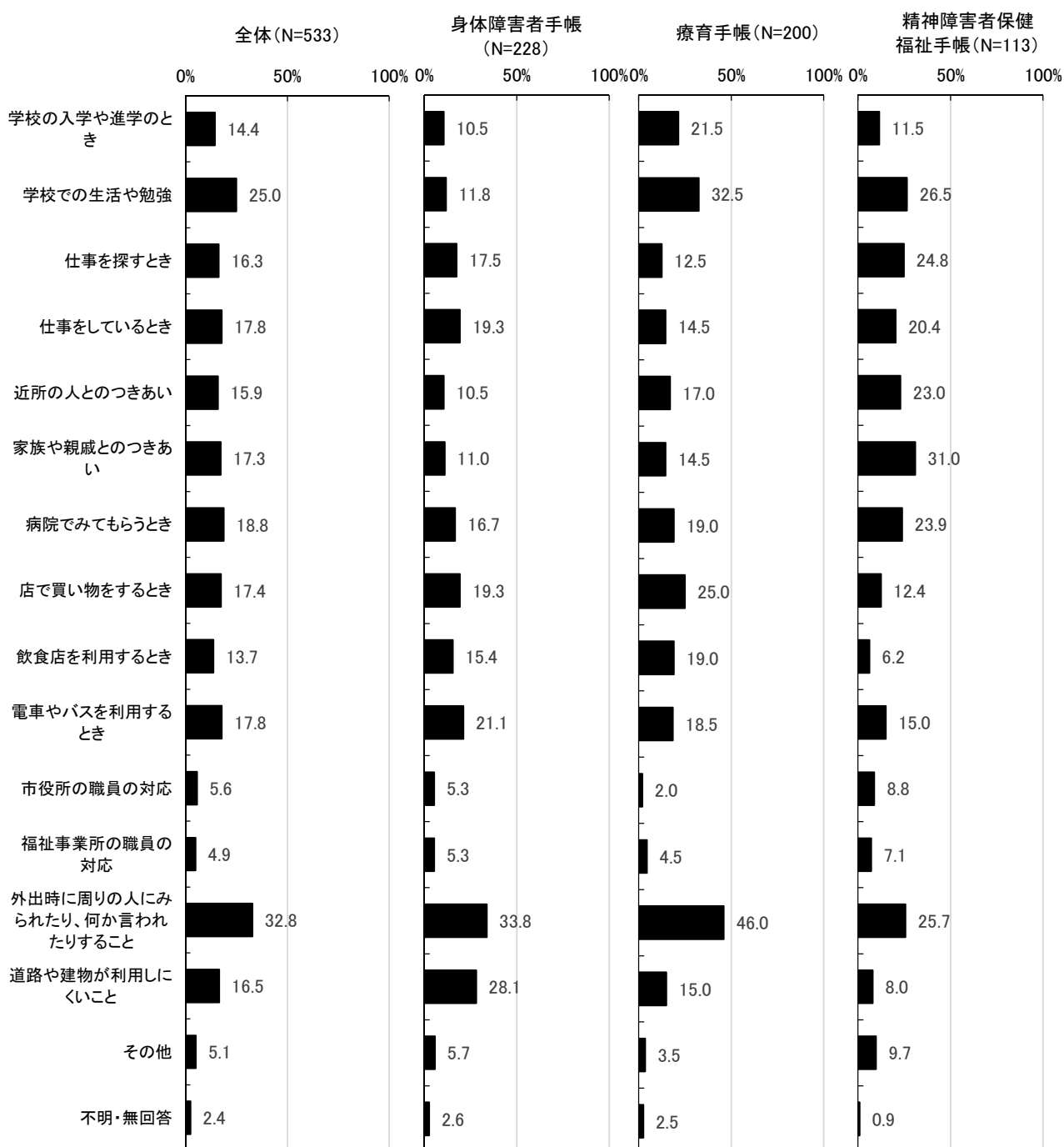


(1) で「1 よくある」「2 ときどきある」を選択した方

4 (2) 障害等があることで、どのような場面で差別を受けたり、いやな思いをしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

差別を受けたり、いやな思いをした場面についてみると、全体では「外出時に周りの人にみられたり、何か言われたりすること」が32.8%と最も高く、次いで「学校での生活や勉強」が25.0%、「病院でみてもらうとき」が18.8%となっています。

所持手帳別でみると、[身体障害者手帳]では「外出時に周りの人にみられたり、何か言われたりすること」が33.8%となっています。[療育手帳]では「外出時に周りの人にみられたり、何か言われたりすること」が46.0%となっています。[精神障害者保健福祉手帳]では「家族や親戚とのつきあい」が31.0%となっています。

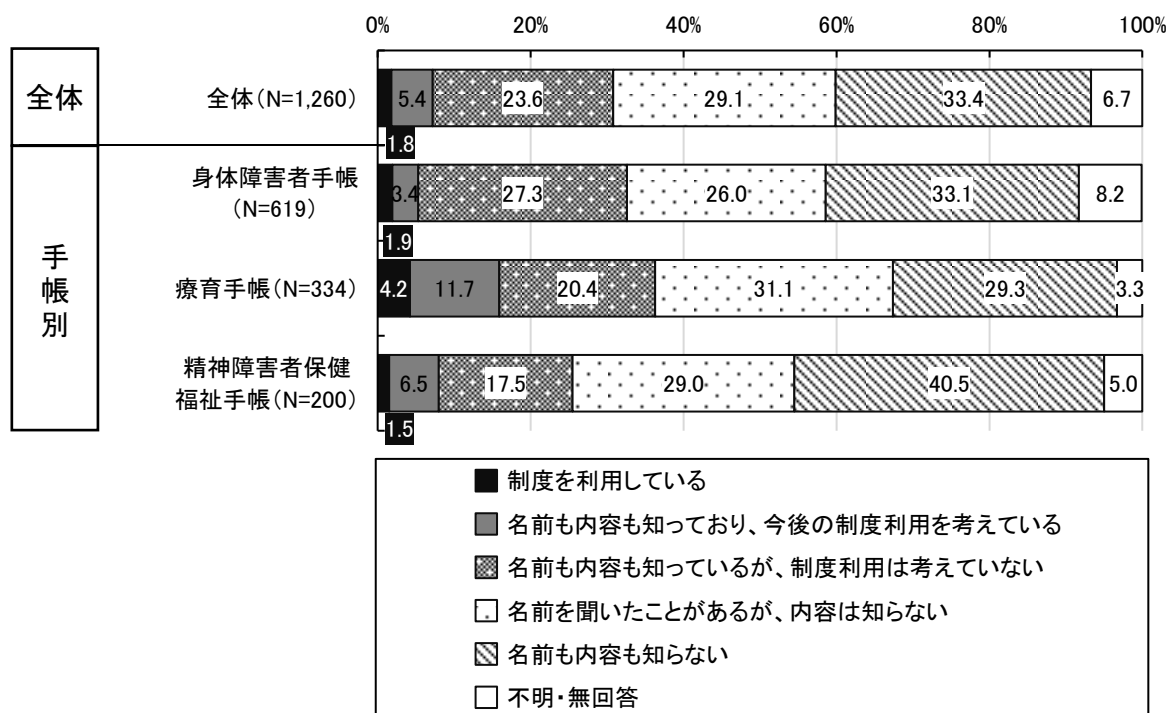


4 (3) 成年後見制度についてご存知ですか。(〇は1つだけ)

成年後見制度の認知度についてみると、全体では「名前も内容も知らない」が33.4%と最も高く、次いで「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が29.1%、「名前も内容も知っているが、制度利用は考えていない」が23.6%となっています。

所持手帳別でみると、[身体障害者手帳]では「名前も内容も知らない」が33.1%となっています。[療育手帳]では「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が31.1%となっています。[精神障害者保健福祉手帳]では「名前も内容も知らない」が40.5%となっています。

年代別でみると、[10歳未満]では「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が45.5%となっています。[10歳代]では「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が40.6%となっています。[20歳代]では「名前も内容も知らない」が43.2%となっています。[30歳代]では「名前も内容も知らない」が34.4%となっています。[40歳代]では「名前も内容も知らない」が33.6%となっています。[50歳代]では「名前も内容も知らない」が36.4%となっています。[60歳代]では「名前も内容も知っているが、制度利用は考えていない」が30.3%となっています。[70歳代]では「名前も内容も知らない」が35.6%となっています。[80歳代]では「名前も内容も知らない」が27.3%となっています。[90歳以上]では「名前も内容も知っているが、制度利用は考えていない」が34.6%となっています。

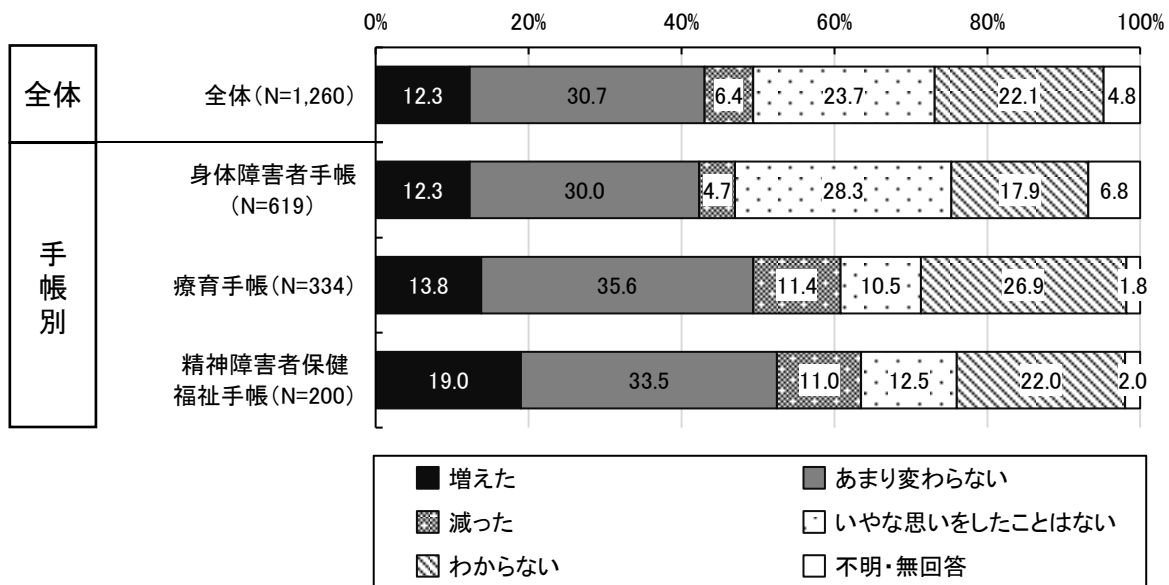


		制度を利用している	名前も内容も知っており、今後の制度利用を考えている	名前も内容も知っているが、制度利用は考えていない	名前を聞いたことがあるが、内容は知らない	名前も内容も知らない	不明・無回答
全体	全体 (N=1,260)	1.8	5.4	23.6	29.1	33.4	6.7
年代別	10歳未満 (N=99)	0.0	7.1	20.2	45.5	27.3	0.0
	10歳代 (N=133)	0.0	9.0	11.3	40.6	37.6	1.5
	20歳代 (N=88)	2.3	6.8	20.5	26.1	43.2	1.1
	30歳代 (N=93)	5.4	7.5	19.4	32.3	34.4	1.1
	40歳代 (N=143)	2.8	6.3	21.0	31.5	33.6	4.9
	50歳代 (N=209)	1.4	4.3	28.7	23.0	36.4	6.2
	60歳代 (N=178)	2.2	5.1	30.3	25.3	28.1	9.0
	70歳代 (N=160)	1.3	1.9	27.5	24.4	35.6	9.4
	80歳代 (N=99)	0.0	5.1	20.2	25.3	27.3	22.2
	90歳以上 (N=26)	7.7	0.0	34.6	23.1	30.8	3.8

4 (4) 障害があることで、あなたがふだんの生活の中でいやな思いをすることは、この5年程度の間が増えましたか、減りましたか。(〇は1つだけ)

日常生活の中でいやな思いをすることの増減についてみると、全体では「あまり変わらない」が30.7%と最も高く、次いで「いやな思いをしたことはない」が23.7%、「わからない」が22.1%となっています。

所持手帳別でみると、[身体障害者手帳]では「あまり変わらない」が30.0%となっています。[療育手帳]では「あまり変わらない」が35.6%となっています。[精神障害者保健福祉手帳]では「あまり変わらない」が33.5%となっています。



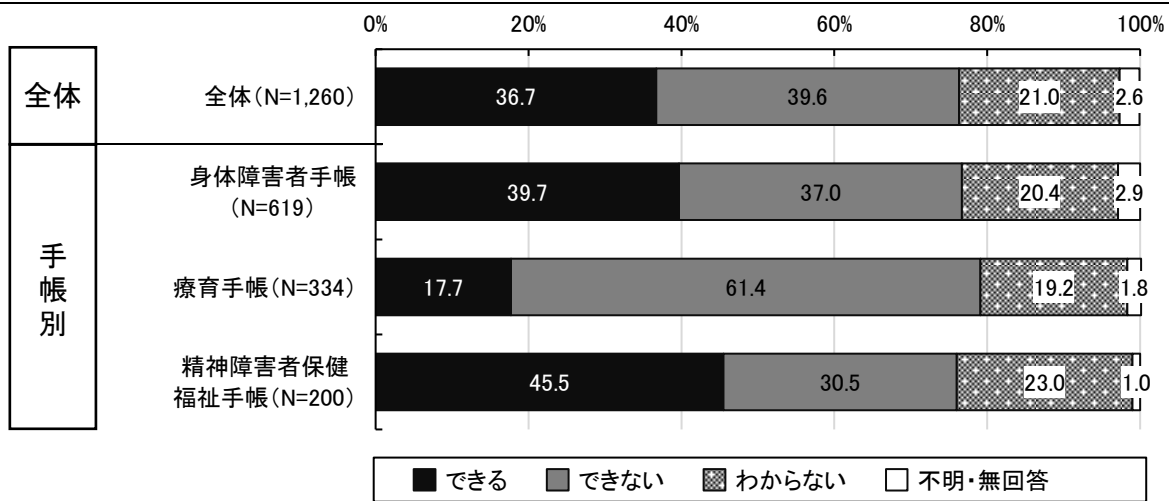
5. 災害時の避難等について

5（1）あなたは、地震や台風等の災害時に一人で避難できますか。（○は1つだけ）

災害時に一人で避難できるかについてみると、全体では「できない」が39.6%と最も高く、次いで「できる」が36.7%、「わからない」が21.0%となっています。所持手帳別でみると、[身体障害者手帳]では「できる」が39.7%となっています。[療育手帳]では「できない」が61.4%となっています。[精神障害者保健福祉手帳]では「できる」が45.5%となっています。

世帯構成別でみると、[家族と暮らしている]では「できない」が38.9%となっています。[一人暮らし]では「できる」が51.8%となっています。[施設やGHでの共同生活]では「できない」が78.3%となっています。[入院している]では「できない」が53.8%となっています。

親亡き後のリスク該当者別でみると、[該当]では「できない」が36.6%となっています。[非該当]では「できない」が39.8%となっています。

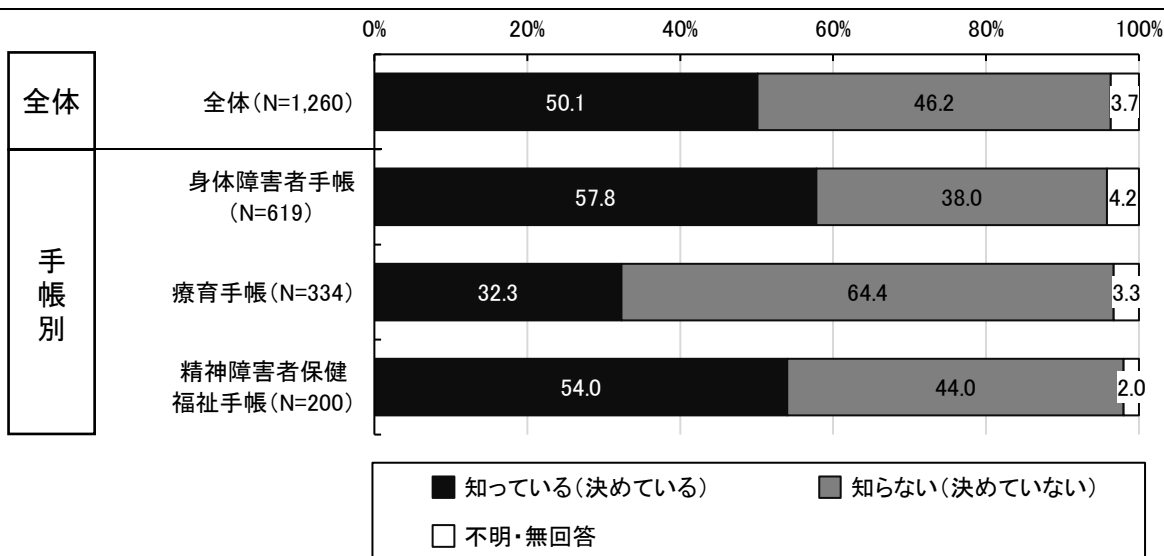


		できる	できない	わからない	不明・無回答
全体	全体(N=1,260)	36.7	39.6	21.0	2.6
	世帯構成				
	家族と暮らしている(N=916)	37.4	38.9	21.5	2.2
	一人暮らし(N=170)	51.8	20.6	25.3	2.4
	施設やGHでの共同生活(N=106)	13.2	78.3	5.7	2.8
	入院している(N=13)	7.7	53.8	30.8	7.7
の親 リ ス ク 後	該当(N=71)	22.5	36.6	33.8	7.0
	非該当(N=1,189)	37.6	39.8	20.3	2.4

5 (2) あなたは、地震や台風等の災害時に避難する場所を知っていますか。(〇は1つだけ)

災害時に避難する場所を知っているかについてみると、全体では「知っている(決めている)」が50.1%、「知らない(決めていない)」が46.2%となっています。所持手帳別でみると、[身体障害者手帳]では「知っている(決めている)」が57.8%となっています。[療育手帳]では「知らない(決めていない)」が64.4%となっています。[精神障害者保健福祉手帳]では「知っている(決めている)」が54.0%となっています。

世帯構成別でみると、[家族と暮らしている]では「知っている(決めている)」が53.7%となっています。[一人暮らし]では「知っている(決めている)」が50.0%となっています。[施設やGHでの共同生活]では「知らない(決めていない)」が69.8%となっています。[入院している]では「知らない(決めていない)」が61.5%となっています。



		知っている(決めている)	知らない(決めていない)	不明・無回答
全体	全体(N=1,260)	50.1	46.2	3.7
世帯構成	家族と暮らしている(N=916)	53.7	43.1	3.2
	一人暮らし(N=170)	50.0	46.5	3.5
	施設やGHでの共同生活(N=106)	25.5	69.8	4.7
	入院している(N=13)	23.1	61.5	15.4

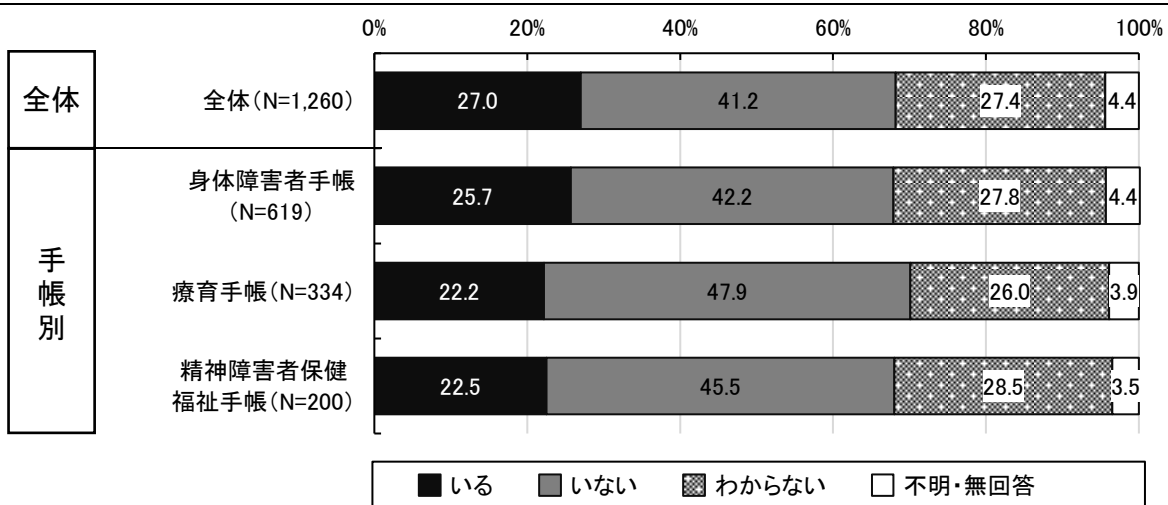
5 (3) 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなただけを助けてくれる人はいますか。(〇は1つだけ)

家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなただけを助けてくれる人の有無についてみると、全体では「いない」が41.2%と最も高く、次いで「わからない」が27.4%、「いる」が27.0%となっています。

所持手帳別でみると、[身体障害者手帳]では「いない」が42.2%となっています。[療育手帳]では「いない」が47.9%となっています。[精神障害者保健福祉手帳]では「いない」が45.5%となっています。

世帯構成別でみると、[家族と暮らしている]では「いない」が41.6%となっています。[一人暮らし]では「いない」が46.5%となっています。[施設やGHでの共同生活]では「いる」が32.1%となっています。[入院している]では「いない」が30.8%となっています。

親亡き後のリスク該当者別でみると、[該当]では「いない」が42.3%となっています。[非該当]では「いない」が41.1%となっています。



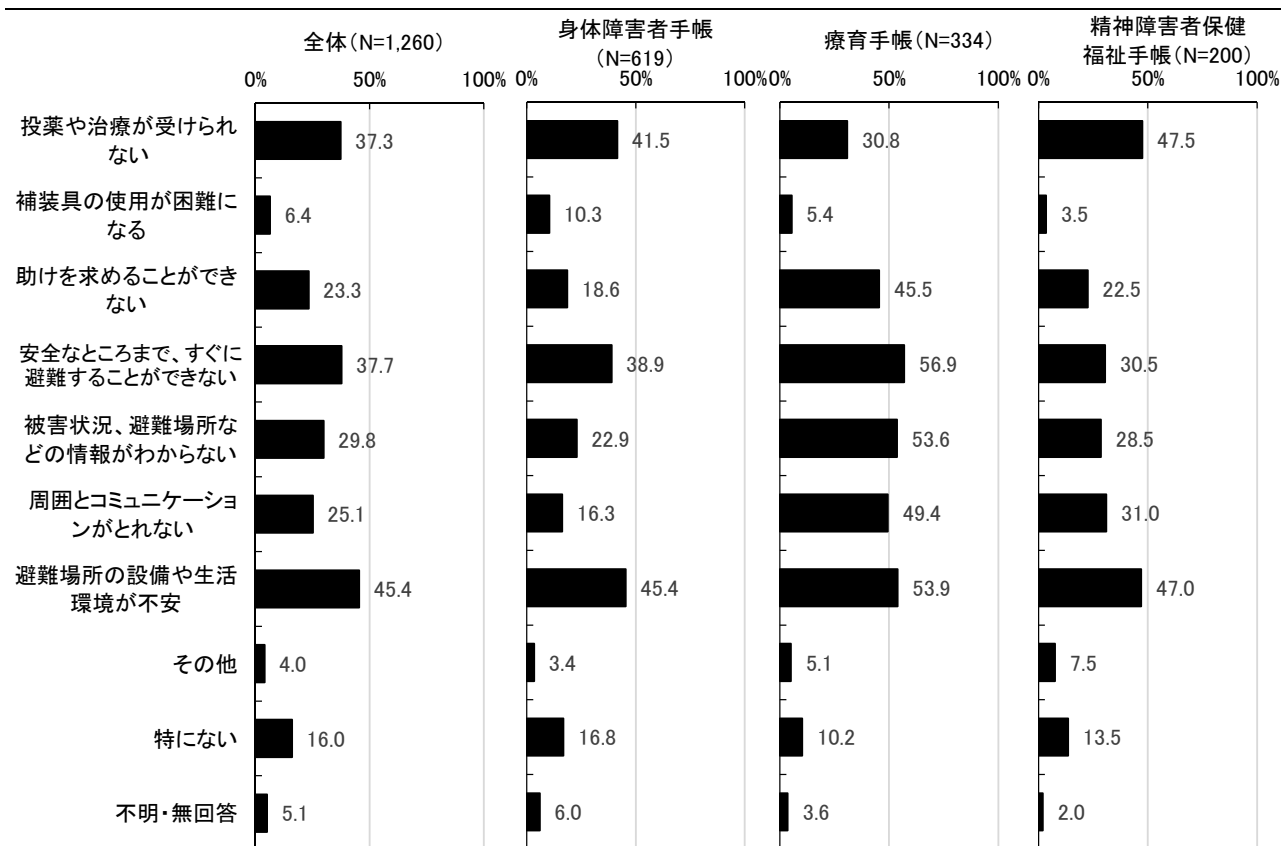
		いる	いない	わからない	不明・無回答
全体	全体 (N=1,260)	27.0	41.2	27.4	4.4
世帯構成	家族と暮らしている (N=916)	27.5	41.6	27.8	3.1
	一人暮らし (N=170)	26.5	46.5	22.4	4.7
	施設やGHでの共同生活 (N=106)	32.1	27.4	29.2	11.3
	入院している (N=13)	15.4	30.8	23.1	30.8
の親リクス後	該当 (N=71)	15.5	42.3	33.8	8.5
	非該当 (N=1,189)	27.7	41.1	27.0	4.2

5 (4) 地震や台風等の災害時に困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

地震や台風等の災害時に困ることについてみると、全体では「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」が45.4%と最も高く、次いで「安全なところまで、すぐに避難することができない」が37.7%、「投薬や治療が受けられない」が37.3%となっています。所持手帳別でみると、[身体障害者手帳]では「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」が45.4%となっています。[療育手帳]では「安全なところまで、すぐに避難することができない」が56.9%となっています。[精神障害者保健福祉手帳]では「投薬や治療が受けられない」が47.5%となっています。

世帯構成別でみると、[家族と暮らしている]では「避難場所の設備や生活環境が不安」が46.4%となっています。[一人暮らし]では「避難場所の設備や生活環境が不安」が41.8%となっています。[施設やGHでの共同生活]では「安全なところまで、すぐに避難することができない」が49.1%となっています。[入院している]では「投薬や治療が受けられない」が69.2%となっています。

親亡き後のリスク該当者別でみると、[該当]では「避難場所の設備や生活環境が不安」が50.7%となっています。[非該当]では「避難場所の設備や生活環境が不安」が45.1%となっています。



		投薬や治療が受けられない	補装具の使用が困難になる	助けを求めることができない	安全なところまで、すぐに避難することができない	被害状況、避難場所などの情報がわからない	周囲とコミュニケーションがとれない	避難場所の設備や生活環境が不安	その他	特になし	不明・無回答
全体	全体(N=1,260)	37.3	6.4	23.3	37.7	29.8	25.1	45.4	4.0	16.0	5.1
世帯構成	家族と暮らしている(N=916)	36.5	6.9	23.7	37.2	30.0	25.1	46.4	3.8	15.5	4.4
	一人暮らし(N=170)	38.8	5.3	15.3	35.3	27.1	17.1	41.8	4.1	17.1	5.3
	施設やGHでの共同生活(N=106)	38.7	3.8	37.7	49.1	36.8	40.6	46.2	5.7	18.9	8.5
	入院している(N=13)	69.2	7.7	15.4	30.8	15.4	38.5	38.5	7.7	0.0	15.4
の親リ亡スキ後	該当(N=71)	40.8	12.7	22.5	40.8	25.4	29.6	50.7	2.8	9.9	7.0
	非該当(N=1,189)	37.1	6.1	23.3	37.5	30.0	24.8	45.1	4.1	16.4	5.0

5 (5) あなたは、地震や台風等の災害時に備えて、日ごろから心がけていることや準備していることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

災害時に備えて、日ごろから心がけていることや準備していることについてみると、「特に何もしていない」を除くと、全体では「災害時や緊急時に連絡できるよう、家族や知人などの連絡先を把握している」が23.5%と最も高く、次いで「避難所で医療が受けられるよう、病気の症状や必要な薬などを記録している」が17.2%となっています。所持手帳別でみると、[身体障害者手帳]では「災害時や緊急時に連絡できるよう、家族や知人などの連絡先を把握している」が26.0%となっています。[療育手帳]では「災害時や緊急時に連絡できるよう、家族や知人などの連絡先を把握している」が18.9%となっています。[精神障害者保健福祉手帳]では「災害時や緊急時に連絡できるよう、家族や知人などの連絡先を把握している」が26.5%となっています。

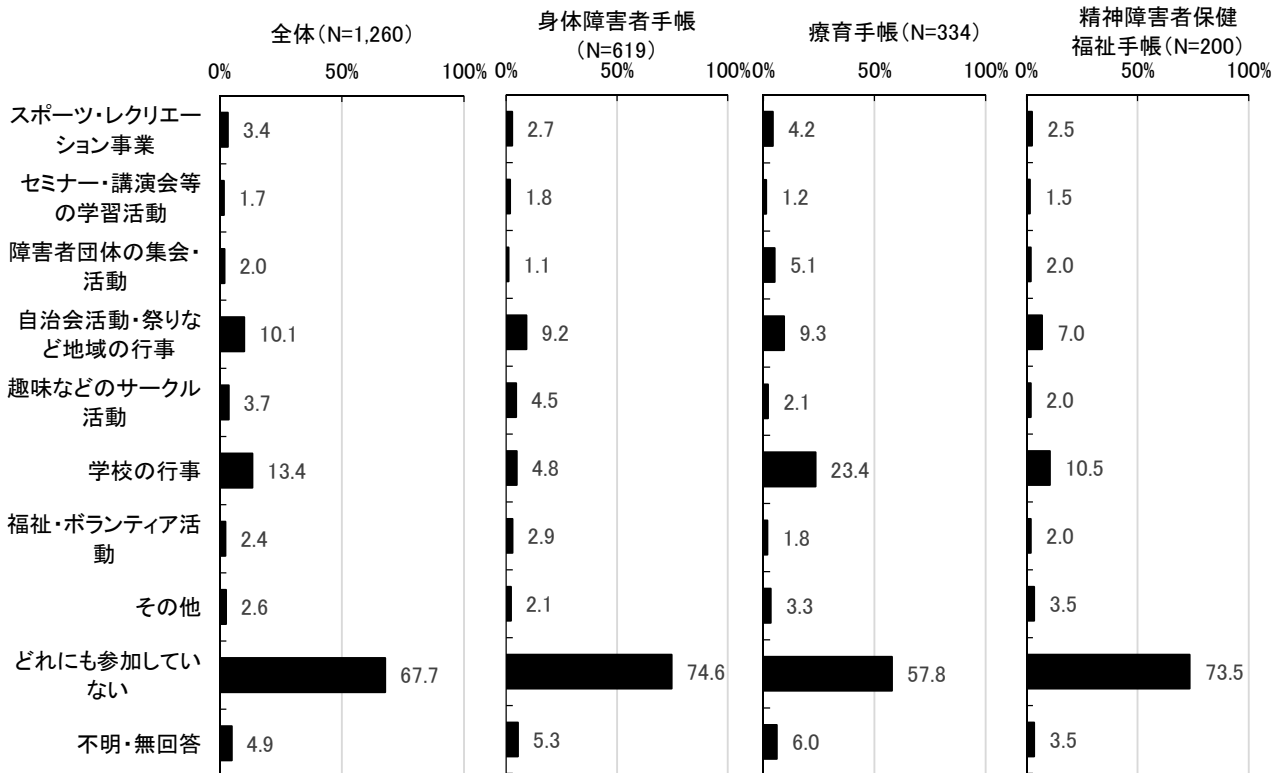
		災害時に必要な持ち物の中に、障害特性に応じた医薬品などを用意している	避難所で医療が受けられるよう、病気の症状や必要な薬などを記録している	災害時や緊急時に連絡できるよう、家族や知人などの連絡先を把握している	災害時や緊急時に助けてくれるよう、家族や知人などをお願いしている	災害時に避難する避難場所までの移動ルート・方法などを確認している	災害時に避難する避難場所の設備などを確認している	地域の避難訓練に参加している	避難行動要支援者支援制度(旧:災害時要援護者制度)に登録している
全体	全体(N=1,260)	13.7	17.2	23.5	12.5	12.7	3.9	3.0	3.0
手帳別	身体障害者手帳(N=619)	16.3	20.2	26.0	12.1	12.8	5.0	2.7	4.5
	療育手帳(N=334)	12.0	12.6	18.9	12.3	10.2	4.2	3.9	5.4
	精神障害者保健福祉手帳(N=200)	14.5	18.0	26.5	9.5	18.5	2.0	3.5	0.5
世帯構成	家族と暮らしている(N=916)	14.2	17.4	24.0	14.0	13.9	4.3	3.5	3.1
	一人暮らし(N=170)	12.9	17.6	30.6	9.4	11.2	3.5	0.6	2.9
	施設やGHでの共同生活(N=106)	13.2	16.0	11.3	8.5	5.7	0.9	4.7	3.8
	入院している(N=13)	7.7	23.1	15.4	7.7	7.7	0.0	0.0	0.0

		その他	特に何もしていない	不明・無回答
全体	全体(N=1,260)	3.7	46.1	5.2
手帳別	身体障害者手帳(N=619)	3.9	40.4	5.8
	療育手帳(N=334)	4.5	50.6	5.1
	精神障害者保健福祉手帳(N=200)	2.5	50.5	3.5
世帯構成	家族と暮らしている(N=916)	2.8	46.4	3.9
	一人暮らし(N=170)	2.4	47.1	6.5
	施設やGHでの共同生活(N=106)	12.3	46.2	7.5
	入院している(N=13)	0.0	38.5	23.1

6. 地域活動への参加について

6 (1) 最近1年間に、あなたは、地域の行事や活動に参加しましたか。(あてはまるものすべてに○)

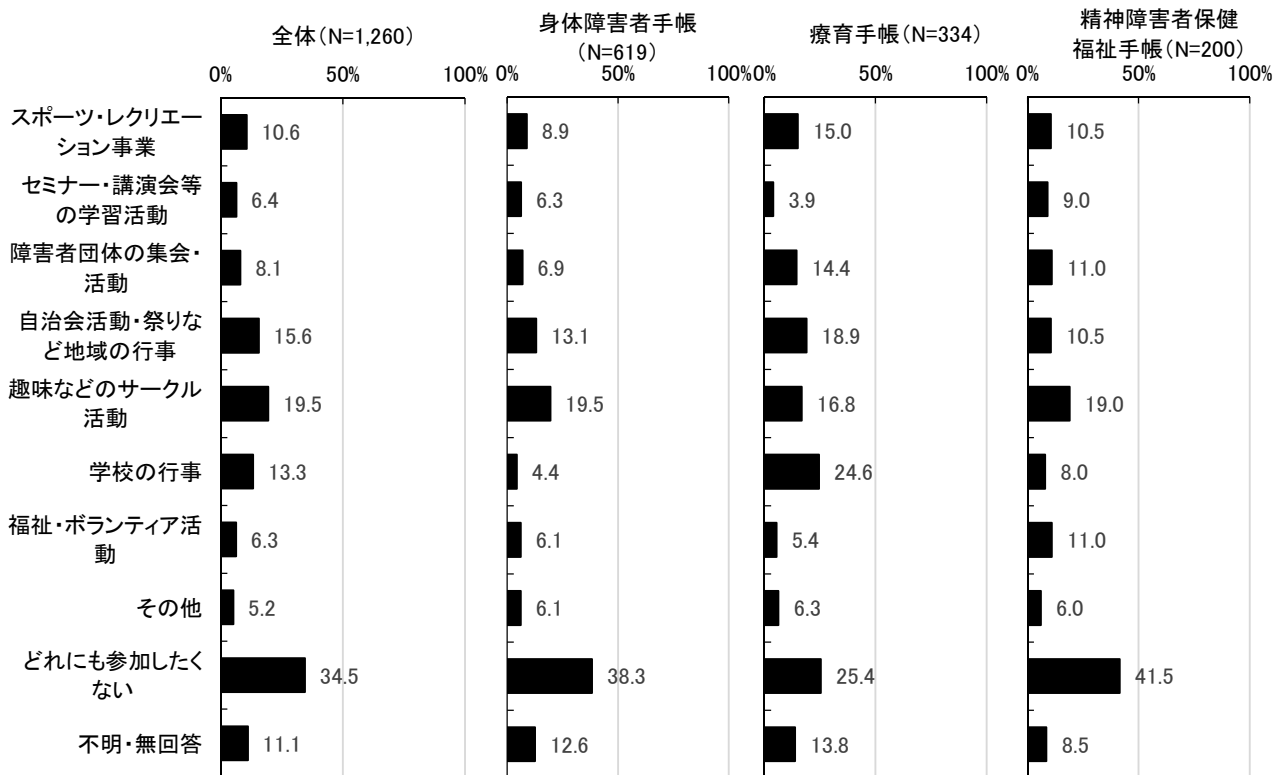
最近1年間、地域の行事や活動に参加したかについてみると、「どれにも参加していない」を除くと、全体では「学校の行事」が13.4%と最も高く、次いで「自治会活動・祭りなど地域の行事」が10.1%となっています。所持手帳別でみると、[身体障害者手帳]では「自治会活動・祭りなど地域の行事」が9.2%となっています。[療育手帳]では「学校の行事」が23.4%となっています。[精神障害者保健福祉手帳]では「学校の行事」が10.5%となっています。



	スポーツ・レクリエーション事業	セミナー・講演会等の学習活動	障害者団体の集会・活動	自治会活動・祭りなど地域の行事	趣味などのサークル活動	学校の行事	福祉・ボランティア活動	その他	どれにも参加していない	不明・無回答	
全体	全体 (N=1,260)	3.4	1.7	2.0	10.1	3.7	13.4	2.4	2.6	67.7	4.9
世帯構成	家族と暮らしている (N=916)	4.0	1.7	1.5	11.7	3.6	18.0	2.5	2.5	64.7	4.0
	一人暮らし (N=170)	2.4	2.9	2.4	6.5	5.9	1.2	3.5	1.8	77.6	4.1
	施設やGHでの共同生活 (N=106)	0.9	0.9	6.6	4.7	1.9	0.9	0.9	4.7	74.5	6.6
	入院している (N=13)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	76.9	23.1

6 (2) 今後、あなたは、どのような地域の行事や活動に参加したいですか。(あてはまるものすべてに○)

今後、どのような地域の行事や活動に参加したいかについてみると、「どれにも参加したくない」を除くと、全体では「趣味などのサークル活動」が19.5%と最も高く、次いで「自治会活動・祭りなど地域の行事」が15.6%となっています。所持手帳別でみると、[身体障害者手帳]では「趣味などのサークル」が19.5%となっています。[療育手帳]では「学校の行事」が24.6%となっています。[精神障害者保健福祉手帳]では「趣味などのサークル」が19.0%となっています。



	世帯構成	スポーツ・レクリエーション事業	セミナー・講演会等の学習活動	障害者団体の集会・活動	自治会活動・祭りなど地域の行事	趣味などのサークル活動	学校の行事	福祉・ボランティア活動	その他	どれにも参加したくない	不明・無回答
		全体 (N=1,260)	10.6	6.4	8.1	15.6	19.5	13.3	6.3	5.2	34.5
家族と暮らしている (N=916)	11.2	6.9	7.8	16.7	21.1	17.7	6.3	4.5	32.9	9.4	
一人暮らし (N=170)	9.4	8.8	9.4	12.9	15.9	0.6	9.4	4.7	41.8	14.1	
施設やGHでの共同生活 (N=106)	12.3	0.9	10.4	13.2	15.1	1.9	0.9	11.3	33.0	17.0	
入院している (N=13)	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	69.2	23.1	

7. 住まいや暮らしについて

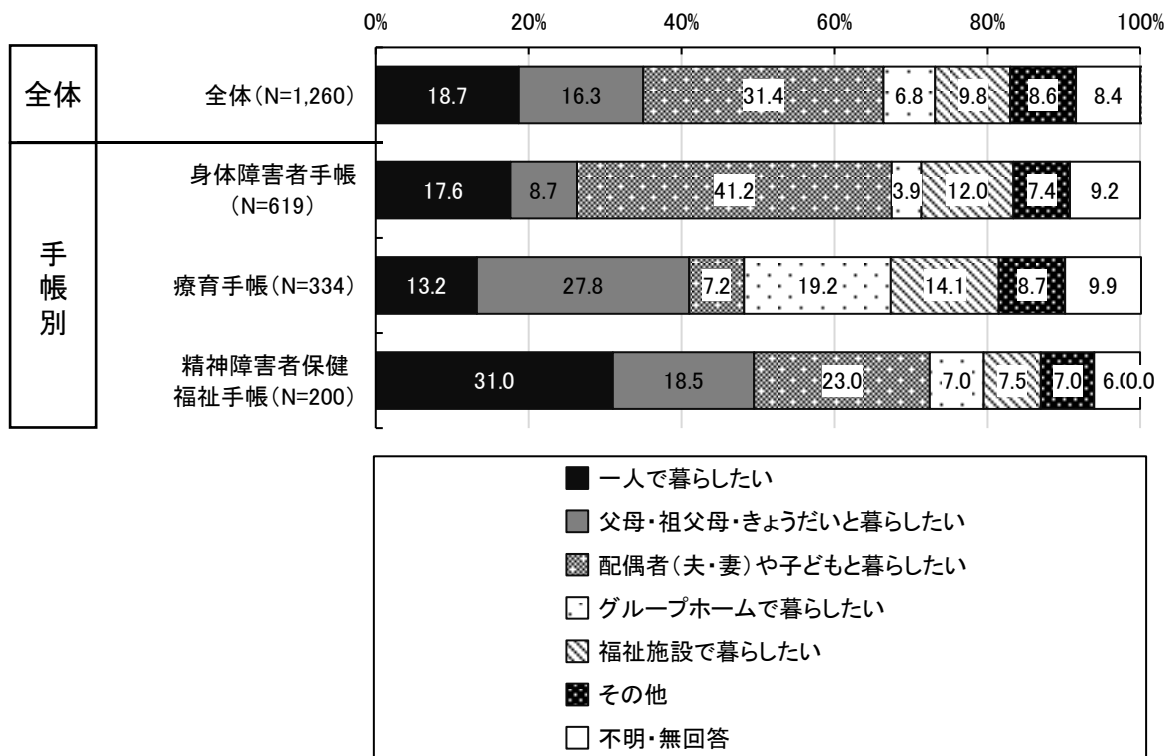
7 (1) あなたは将来どのように暮らしたいと思いますか。(〇は1つだけ)

希望する将来の暮らし方についてみると、全体では「配偶者(夫・妻)や子どもと暮らしたい」が31.4%と最も高く、次いで「一人で暮らしたい」が18.7%、「父母・祖父母・きょうだいと暮らしたい」が16.3%となっています。

手帳別でみると、所持手帳別でみると、[身体障害者手帳]では「配偶者(夫・妻)や子どもと暮らしたい」が41.2%となっています。[療育手帳]では「父母・祖父母・きょうだいと暮らしたい」が27.8%となっています。[精神障害者保健福祉手帳]では「一人で暮らしたい」が31.0%となっています。

世帯構成別でみると、[家族と暮らしている]では「配偶者(夫・妻)や子どもと暮らしたい」が38.9%となっています。[一人暮らし]では「一人で暮らしたい」が55.9%となっています。[施設やGHでの共同生活]では「福祉施設で暮らしたい」が38.7%となっています。[入院している]では「一人で暮らしたい」「配偶者(夫・妻)や子どもと暮らしたい」がそれぞれ15.4%となっています。

親亡き後のリスク該当者別でみると、[該当]では「父母・祖父母・きょうだいと暮らしたい」が36.6%となっています。[非該当]では「配偶者(夫・妻)や子どもと暮らしたい」が33.2%となっています。



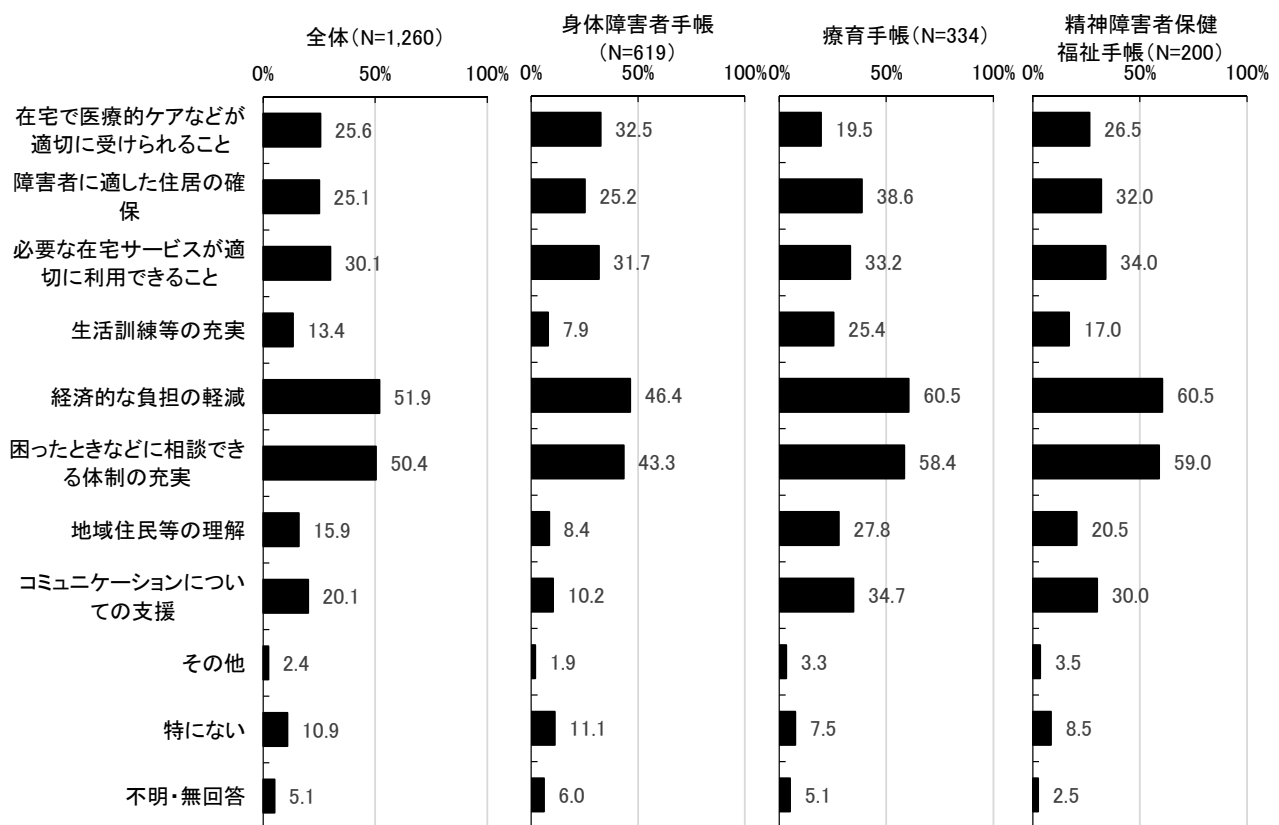
		一人で暮ら したい	父母・祖父 母・きょうだ いと暮らし たい	配偶者 (夫・妻)や 子どもと暮 らしたい	グループ ホームで暮 らしたい	福祉施設で 暮らしたい	その他	不明・無回 答
全体	全体(N=1,260)	18.7	16.3	31.4	6.8	9.8	8.6	8.4
世帯 構成	家族と暮らしている (N=916)	14.2	21.1	38.9	4.8	5.7	8.0	7.4
	一人暮らし (N=170)	55.9	1.8	9.4	0.6	12.4	8.8	11.2
	施設やGHでの共 同生活(N=106)	2.8	1.9	4.7	35.8	38.7	8.5	7.5
	入院している (N=13)	15.4	7.7	15.4	0.0	15.4	7.7	38.5
の親 リ亡 スキ 後	該当(N=71)	18.3	36.6	1.4	16.9	9.9	5.6	11.3
	非該当(N=1,189)	18.8	15.1	33.2	6.2	9.8	8.7	8.2

7 (2) 地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

地域で生活するためには、あればよいと思う支援についてみると、全体では「経済的な負担の軽減」が51.9%と最も高く、次いで「困ったときなどに相談できる体制の充実」が50.4%、「必要な在宅サービスが適切に利用できること」が30.1%となっています。所持手帳別でみると、[身体障害者手帳]では「経済的な負担の軽減」が46.4%となっています。[療育手帳]では「経済的な負担の軽減」が60.5%となっています。[精神障害者保健福祉手帳]では「経済的な負担の軽減」が60.5%となっています。

世帯構成別でみると、[家族と暮らしている]では「経済的な負担の軽減」が54.3%となっています。[一人暮らし]では「困ったときなどに相談できる体制の充実」が49.4%となっています。[施設やGHでの共同生活]では「経済的な負担の軽減」が40.6%となっています。[入院している]では「困ったときなどに相談できる体制の充実」が53.8%となっています。

親亡き後のリスク該当者別でみると、[該当]では「経済的な負担の軽減」が53.5%となっています。[非該当]では「経済的な負担の軽減」が51.8%となっています。



		在宅で医療的ケアなどが適切に受けられること	障害者に適した住居の確保	必要な在宅サービスが適切に利用できること	生活訓練等の充実	経済的な負担の軽減	困ったときに相談などができる体制の充実	地域住民等の理解	コミュニケーションについての支援
全体	全体 (N=1,260)	25.6	25.1	30.1	13.4	51.9	50.4	15.9	20.1
世帯構成	家族と暮らしている (N=916)	25.2	25.3	31.1	15.9	54.3	52.3	17.5	22.4
	一人暮らし (N=170)	27.1	21.2	28.2	3.5	47.6	49.4	8.8	10.0
	施設やGHでの共同生活 (N=106)	25.5	29.2	21.7	9.4	40.6	39.6	17.0	21.7
	入院している (N=13)	38.5	46.2	46.2	23.1	23.1	53.8	7.7	15.4
の親リタスキ後	該当 (N=71)	22.5	42.3	21.1	9.9	53.5	46.5	18.3	19.7
	非該当 (N=1,189)	25.8	24.1	30.6	13.6	51.8	50.6	15.7	20.1

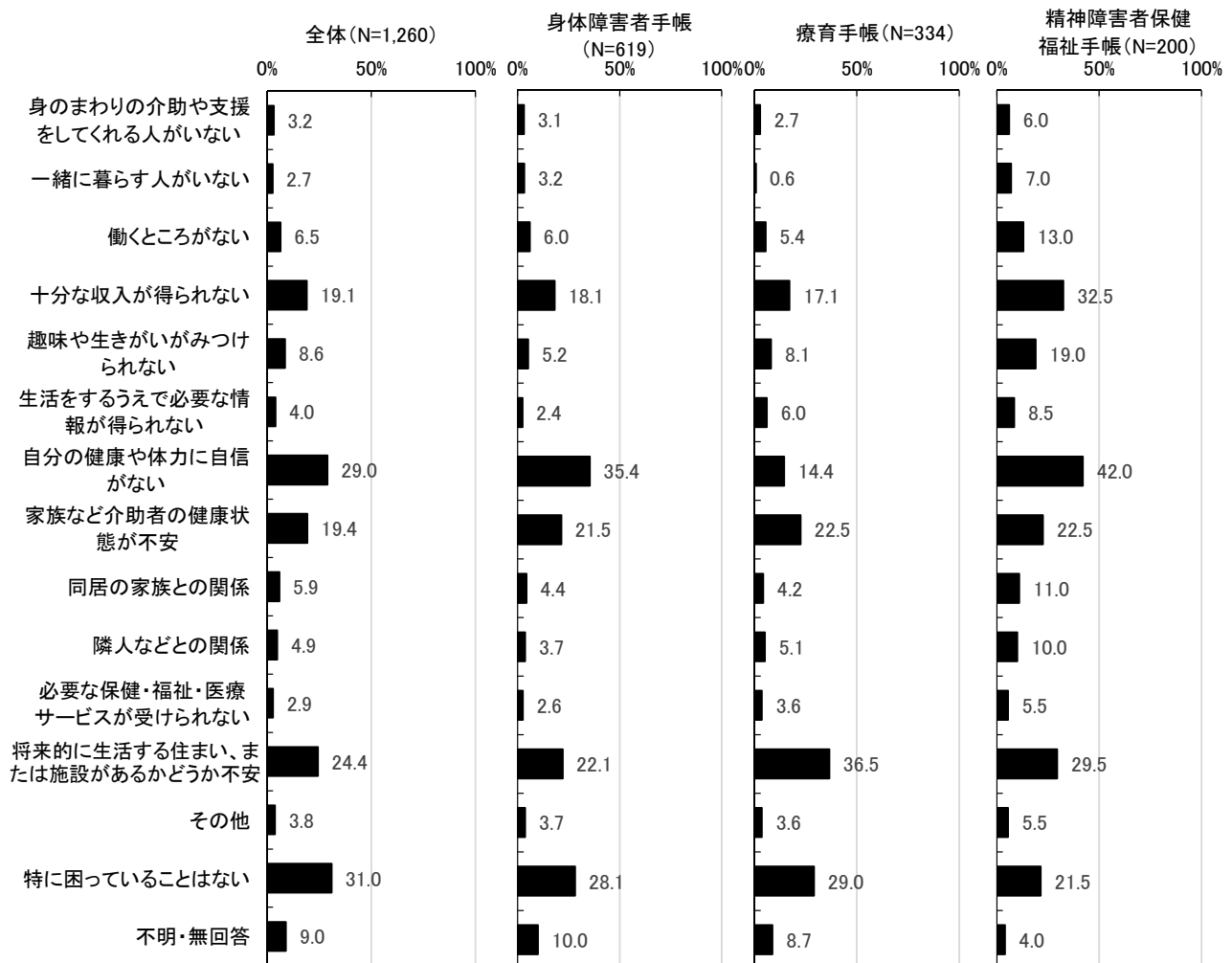
		その他	特にない	不明・無回答
全体	全体 (N=1,260)	2.4	10.9	5.1
世帯構成	家族と暮らしている (N=916)	2.2	9.7	3.8
	一人暮らし (N=170)	1.8	14.1	5.9
	施設やGHでの共同生活 (N=106)	6.6	18.9	9.4
	入院している (N=13)	0.0	7.7	23.1
の親リタスキ後	該当 (N=71)	1.4	9.9	9.9
	非該当 (N=1,189)	2.4	10.9	4.8

8. 悩みや相談相手について

8 (1) あなたは、現在の生活で困っていることや不安に思っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

現在の生活で困っていることや不安に思っていることについてみると、全体では「特に困っていることはない」が31.0%と最も高く、次いで「自分の健康や体力に自信がない」が29.0%、「将来的に生活する住まい、または施設があるかどうか不安」が24.4%となっています。所持手帳別でみると、[身体障害者手帳]では「自分の健康や体力に自信がない」が35.4%となっています。[療育手帳]では「将来的に生活する住まい、または施設があるかどうか不安」が36.5%となっています。[精神障害者保健福祉手帳]では「自分の健康や体力に自信がない」が42.0%となっています。

親亡き後のリスク該当者別でみると、[該当]では「家族など介助者の健康状態が不安」が47.9%となっています。[非該当]では「特に困っていることはない」が32.4%となっています。



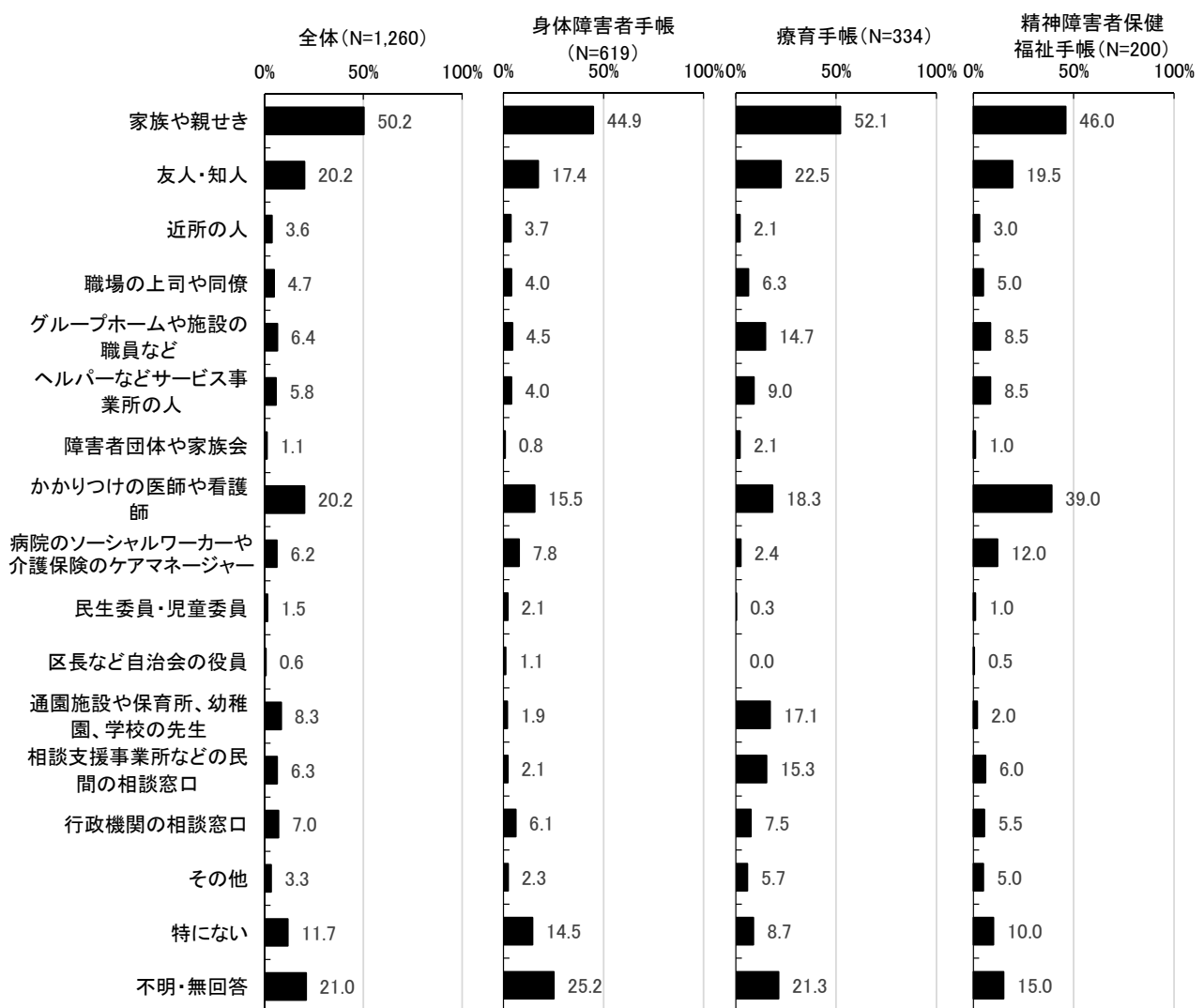
		身のまわりの介助や支援をしてくれる人がいない	一緒に暮らす人がいない	働くところがない	十分な収入が得られない	趣味や生きがいが見つけれない	生活をするうえで必要な情報が得られない	自分の健康や体力に自信がない	家族など介護者の健康状態が不安
全体	全体(N=1,260)	3.2	2.7	6.5	19.1	8.6	4.0	29.0	19.4
の親 リ 亡 ス キ 後	該当(N=71)	5.6	1.4	12.7	35.2	9.9	4.2	36.6	47.9
	非該当(N=1,189)	3.0	2.8	6.1	18.2	8.5	4.0	28.5	17.7
		同居の家族との関係	隣人などとの関係	必要な保健・福祉・医療サービスが受けられない	将来的に生活する住まい、または施設があるかどうか不安	その他	特に困っていることはない	不明・無回答	
全体	全体(N=1,260)	5.9	4.9	2.9	24.4	3.8	31.0	9.0	
の親 リ 亡 ス キ 後	該当(N=71)	5.6	9.9	4.2	39.4	2.8	7.0	14.1	
	非該当(N=1,189)	5.9	4.6	2.9	23.5	3.9	32.4	8.7	

8 (2) あなた(18歳未満の場合はあなたの介助者)は、悩みや困ったことをどなたに相談しますか。(あてはまるものすべてに○)

悩みや困ったことを相談する相手についてみると、全体では「家族や親せき」が50.2%と最も高く、次いで「友人・知人」および「かかりつけの医師や看護師」がそれぞれ20.2%となっています。所持手帳別でみると、[身体障害者手帳]では「家族や親せき」が44.9%となっています。[療育手帳]では「家族や親せき」が52.1%となっています。[精神障害者保健福祉手帳]では「家族や親せき」が46.0%となっています。

世帯構成別でみると、[家族と暮らしている]では「家族や親せき」が58.0%となっています。[一人暮らし]では「家族や親せき」が30.6%となっています。[施設やGHでの共同生活]では「グループホームや施設の職員など」が44.3%となっています。[入院している]では「家族や親せき」が38.5%となっています。

親亡き後のリスク該当者別でみると、[該当]では「家族や親せき」が50.7%となっています。[非該当]では「家族や親せき」が50.2%となっています。

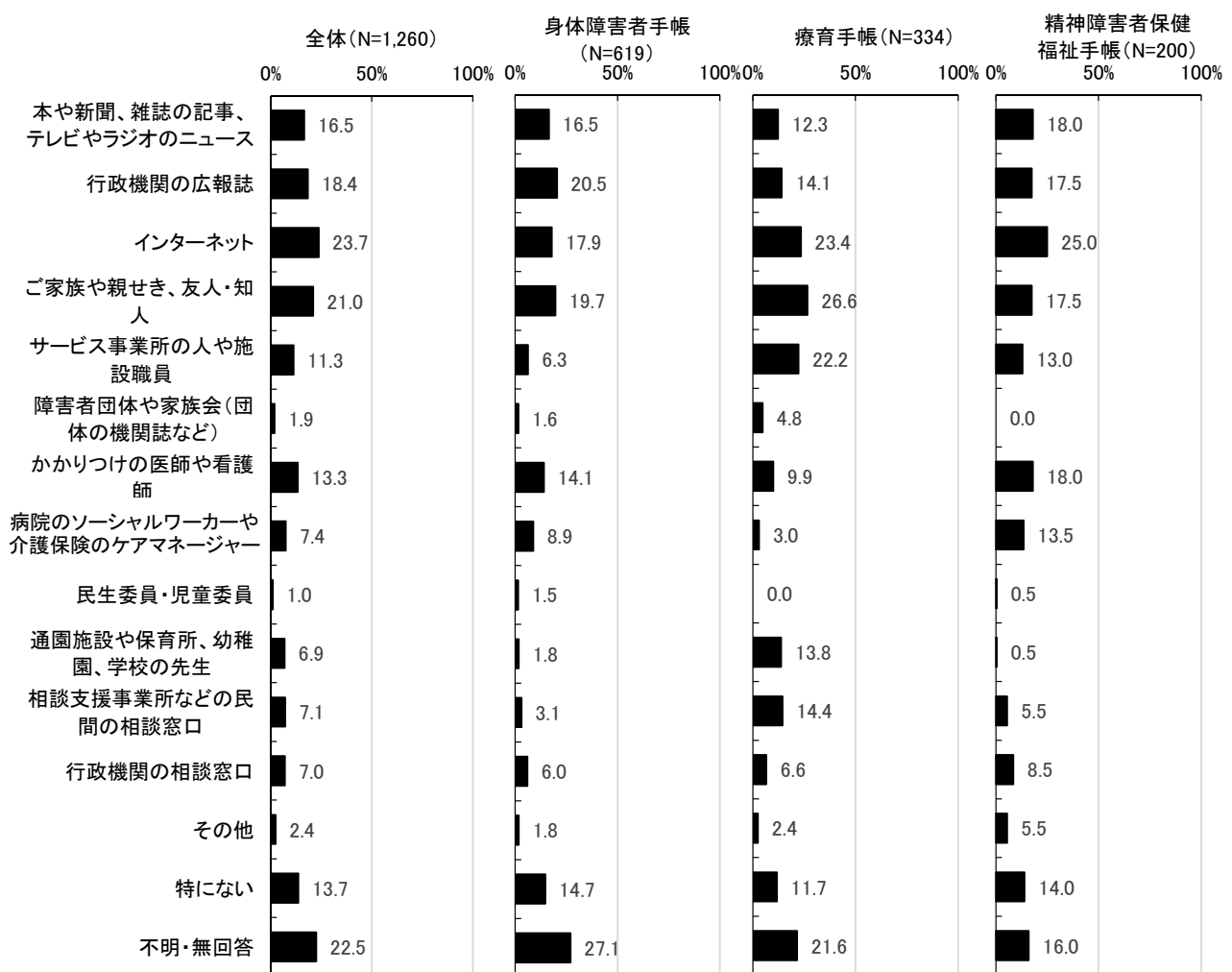


		家族や親せき	友人・知人	近所の人	職場の上司や同僚	グループホームや施設の職員など	ヘルパーなどサービス事業所の人	障害者団体や家族会	かかりつけの医師や看護師	病院のソーシャルワーカーや介護保険のケアマネージャー
全体	全体 (N=1,260)	50.2	20.2	3.6	4.7	6.4	5.8	1.1	20.2	6.2
世帯構成	家族と暮らしている (N=916)	58.0	22.7	4.0	5.0	3.2	4.9	1.2	20.9	5.3
	一人暮らし (N=170)	30.6	20.0	4.7	4.1	1.8	7.6	1.2	23.5	10.6
	施設やGHでの共同生活 (N=106)	27.4	3.8	0.0	4.7	44.3	12.3	0.9	11.3	4.7
	入院している (N=13)	38.5	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	23.1	23.1
の親亡き後	該当 (N=71)	50.7	16.9	0.0	5.6	2.8	4.2	1.4	22.5	7.0
	非該当 (N=1,189)	50.2	20.4	3.8	4.6	6.6	5.9	1.1	20.1	6.1
		民生委員・児童委員	区長など自治会の役員	通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生	相談支援事業所などの民間の相談窓口	行政機関の相談窓口	その他	特にない	不明・無回答	
全体	全体 (N=1,260)	1.5	0.6	8.3	6.3	7.0	3.3	11.7	21.0	
世帯構成	家族と暮らしている (N=916)	0.9	0.4	11.2	6.8	7.2	3.6	10.8	18.7	
	一人暮らし (N=170)	5.3	2.4	0.0	4.1	7.1	2.4	15.9	27.6	
	施設やGHでの共同生活 (N=106)	0.0	0.0	0.0	8.5	3.8	4.7	12.3	21.7	
	入院している (N=13)	0.0	0.0	0.0	7.7	7.7	0.0	15.4	30.8	
の親亡き後	該当 (N=71)	0.0	0.0	0.0	2.8	8.5	2.8	5.6	28.2	
	非該当 (N=1,189)	1.6	0.7	8.7	6.6	6.9	3.4	12.1	20.6	

8 (3) あなた(18歳未満の場合はあなたの介助者)は、障害のことや福祉サービスに関する情報を、どこから知ることが多いですか。(あてはまるものすべてに○)

障害のことや福祉サービスに関する情報の入手元についてみると、全体では「インターネット」が23.7%と最も高く、次いで「ご家族や親せき、友人・知人」が21.0%、「行政機関の広報誌」が18.4%となっています。所持手帳別でみると、[身体障害者手帳]では「行政機関の広報誌」が20.5%となっています。[療育手帳]では「ご家族や親せき、友人・知人」が26.6%となっています。[精神障害者保健福祉手帳]では「インターネット」が25.0%となっています。

世帯構成別でみると、[家族と暮らしている]では「インターネット」が28.5%となっています。[一人暮らし]では「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」が21.2%となっています。[施設やGHでの共同生活]では「サービス事業所の人や施設職員」が32.1%となっています。[入院している]では「かかりつけの医師や看護師」「病院のソーシャルワーカーや介護保険のケアマネージャー」がそれぞれ23.1%となっています。



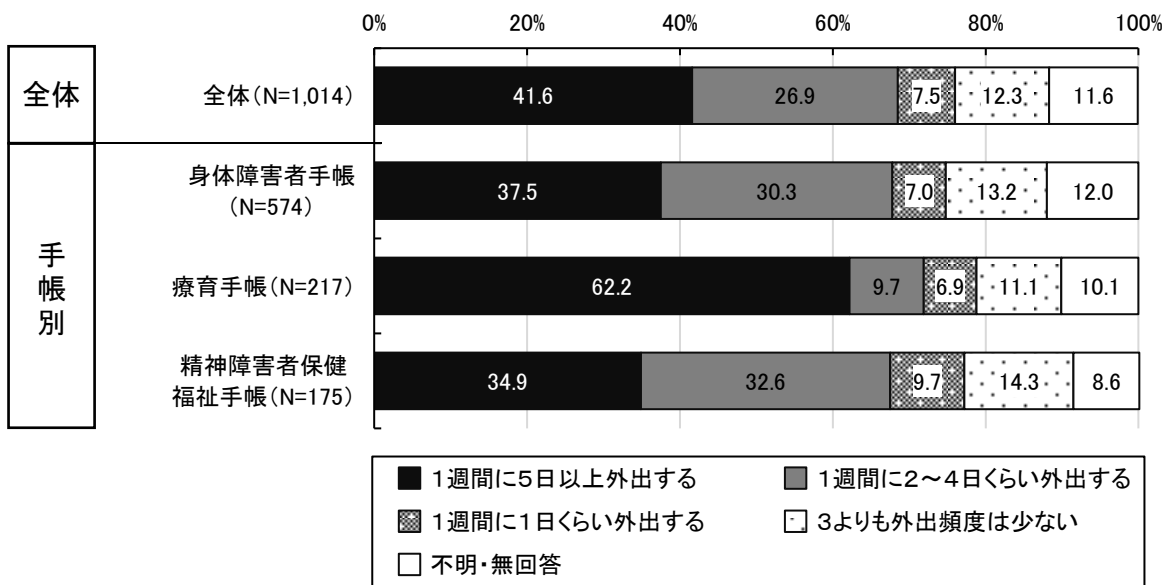
		本や新聞、 雑誌の記事、テレビ やラジオの ニュース	行政機関 の広報誌	インターネッ ト	ご家族や親 せき、友 人・知人	サービス事 業所の人 や施設職 員	障害者団 体や家族 会(団体の 機関誌な ど)	かかりつけ の医師や 看護師	病院のソー シャルワ ーカーや介護 保険のケア マネー ジャー
全体	全体(N=1,260)	16.5	18.4	23.7	21.0	11.3	1.9	13.3	7.4
世帯 構成	家族と暮らしている (N=916)	17.4	19.9	28.5	24.7	10.8	2.0	14.5	6.1
	一人暮らし (N=170)	21.2	18.2	13.5	10.0	5.3	0.0	10.6	12.4
	施設やGHでの共 同生活(N=106)	8.5	10.4	4.7	12.3	32.1	4.7	7.5	9.4
	入院している (N=13)	7.7	15.4	7.7	7.7	0.0	0.0	23.1	23.1
		民生委員・ 児童委員	通園施設 や保育所、 幼稚園、学 校の先生	相談支援 事業所など の民間の 相談窓口	行政機関 の相談窓 口	その他	特にな い	不明・無回 答	
全体	全体(N=1,260)	1.0	6.9	7.1	7.0	2.4	13.7	22.5	
世帯 構成	家族と暮らしている (N=916)	0.7	9.3	8.0	7.3	1.7	12.6	20.1	
	一人暮らし (N=170)	2.9	0.0	2.9	7.6	3.5	14.7	30.0	
	施設やGHでの共 同生活(N=106)	0.9	0.9	10.4	4.7	5.7	17.9	22.6	
	入院している (N=13)	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	23.1	38.5	

9. 日中活動や就労について

9 (1) あなたは、1週間にどの程度外出しますか。(○は1つだけ)

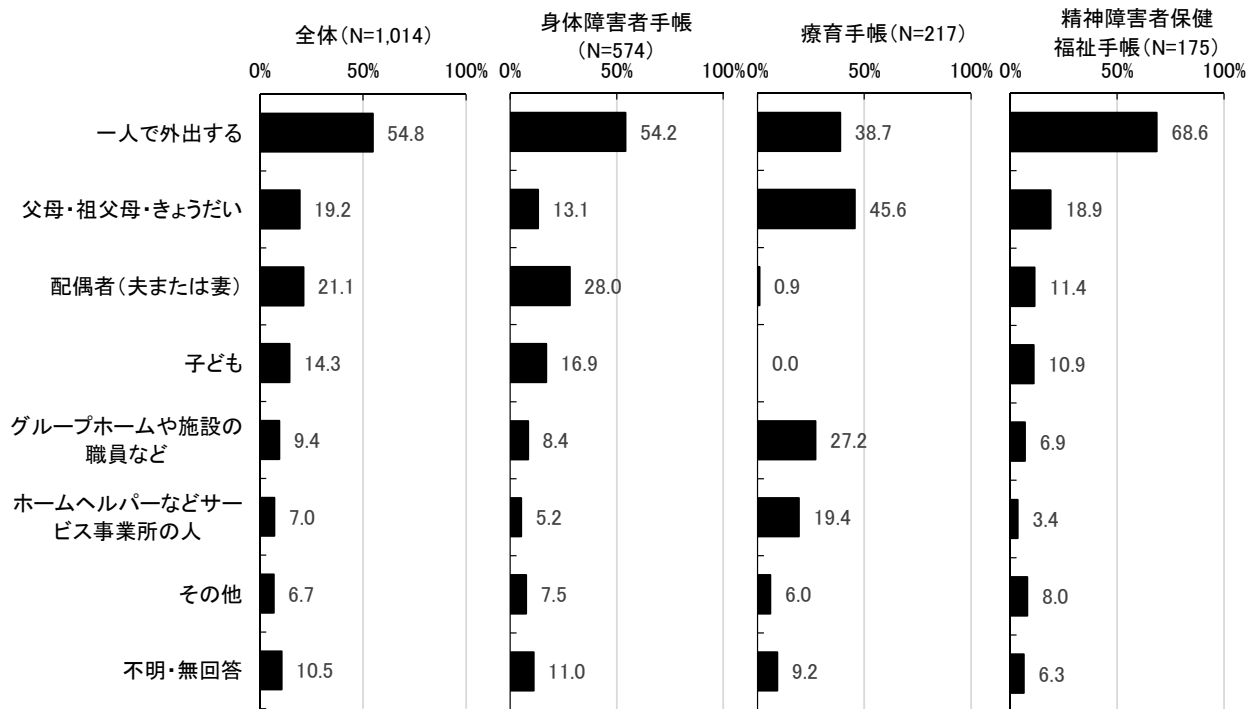
1週間の外出頻度についてみると、全体では「1週間に5日以上外出する」が41.6%と最も高く、次いで「1週間に2～4日くらい外出する」が26.9%、「3よりも外出頻度は少ない」が12.3%となっています。

所持手帳別でみると、[身体障害者手帳]では「1週間に5日以上外出する」が37.5%となっています。[療育手帳]では「1週間に5日以上外出する」が62.2%となっています。[精神障害者保健福祉手帳]では「1週間に5日以上外出する」が34.9%となっています。



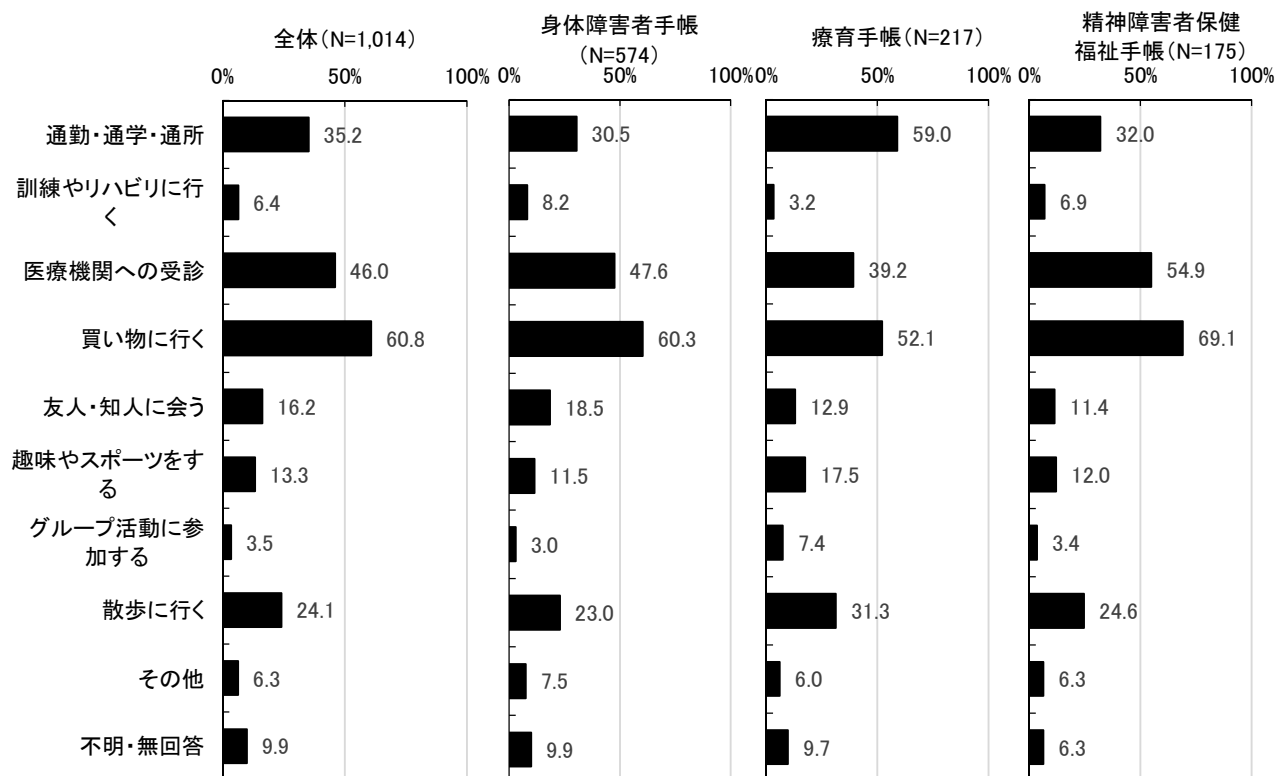
9 (2) あなたは、外出する際に、どなたと外出することが多いですか。(あてはまるものすべてに○)

外出する際に、誰と外出することが多いかについてみると、全体では「一人で外出する」が54.8%と最も高く、次いで「配偶者(夫または妻)」が21.1%、「父母・祖父母・きょうだい」が19.2%となっています。所持手帳別でみると、[身体障害者手帳]では「一人で外出する」が54.2%となっています。[療育手帳]では「父母・祖父母・きょうだい」が45.6%となっています。[精神障害者保健福祉手帳]では「一人で外出する」が68.6%となっています。



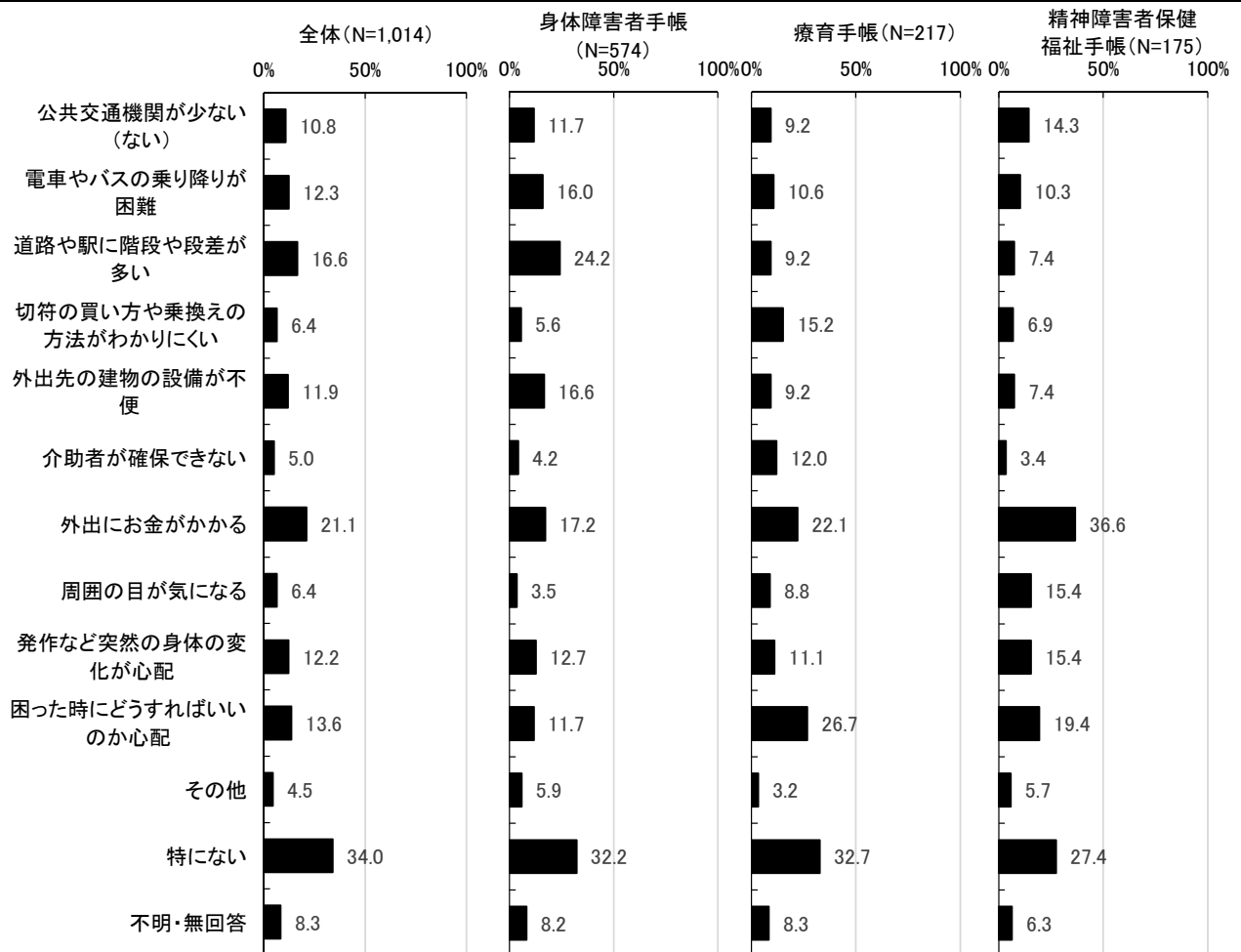
9 (3) どのような目的で外出することが多いですか。(あてはまるものすべてに○)

主な外出の目的についてみると、全体では「買い物に行く」が60.8%と最も高く、次いで「医療機関への受診」が46.0%、「通勤・通学・通所」が35.2%となっています。所持手帳別でみると、[身体障害者手帳]では「買い物に行く」が60.3%となっています。[療育手帳]では「通勤・通学・通所」が59.0%となっています。[精神障害者保健福祉手帳]では「買い物に行く」が69.1%となっています。



9 (4) 外出する時に困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

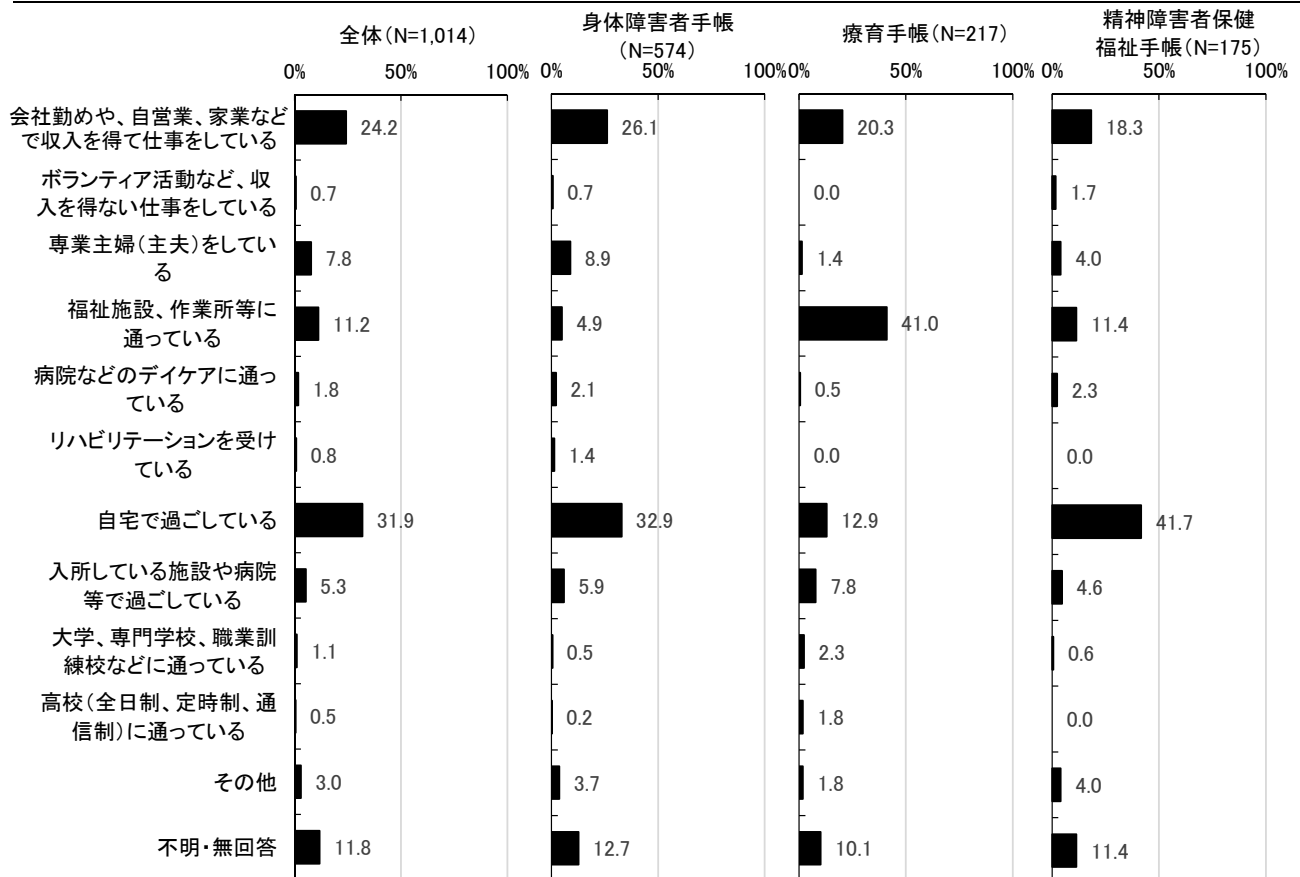
外出する時に困ることについてみると、「特にない」を除くと、全体では「外出にお金がかかる」が21.1%と最も高く、次いで「道路や駅に階段や段差が多い」が16.6%となっています。所持手帳別で見ると、[身体障害者手帳]では「道路や駅に階段や段差が多い」が24.2%となっています。[療育手帳]では「困った時にどうすればいいのか心配」が26.7%となっています。[精神障害者保健福祉手帳]では「外出にお金がかかる」が36.6%となっています。



9 (5) あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。(〇は1つだけ)

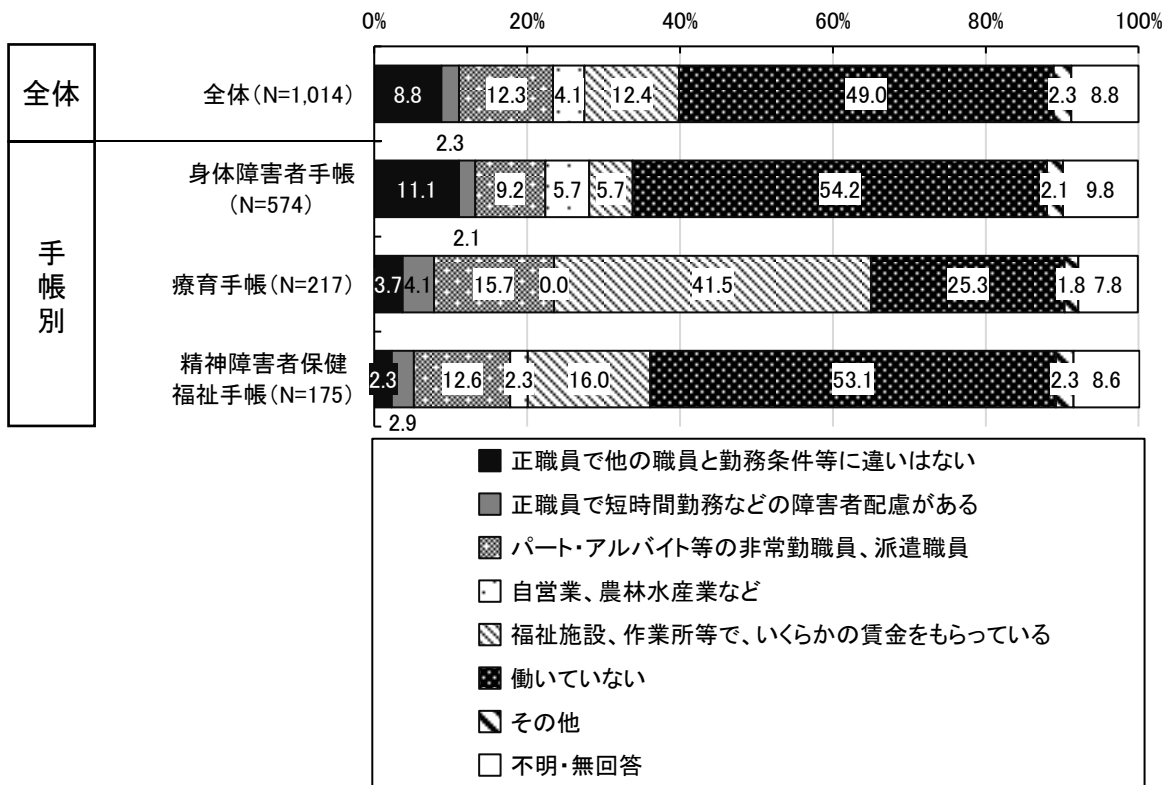
平日の日中の主な過ごし方についてみると、全体では「自宅で過ごしている」が31.9%と最も高く、次いで「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている」が24.2%、「福祉施設、作業所等に通っている（就労継続支援A型も含む）」が11.2%となっています。

所持手帳別でみると、[身体障害者手帳]では「自宅で過ごしている」が32.9%となっています。[療育手帳]では「福祉施設、作業所等に通っている（就労継続支援A型も含む）」が41.0%となっています。[精神障害者保健福祉手帳]では「自宅で過ごしている」が41.7%となっています。



9 (6) あなたは、どのような勤務形態で働いていますか。(〇は1つだけ)

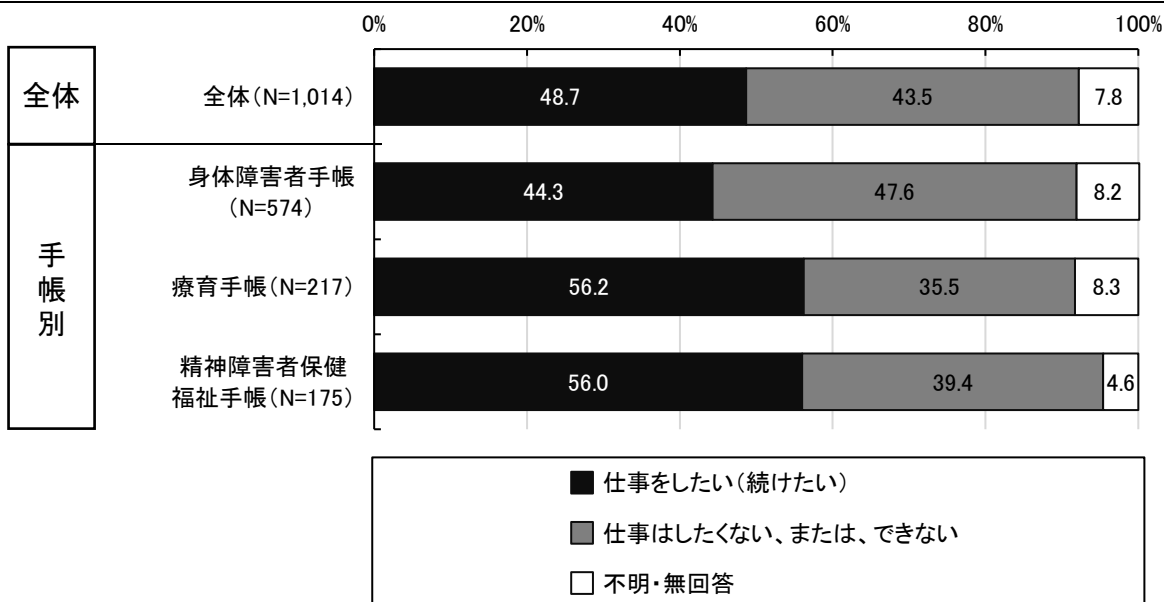
勤務形態についてみると、全体では「働いていない」が49.0%と最も高く、次いで「福祉施設、作業所等で、いくらかの賃金をもらっている」が12.4%、「パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員」が12.3%となっています。所持手帳別でみると、[身体障害者手帳]では「働いていない」が54.2%となっています。[療育手帳]では「福祉施設、作業所等で、いくらかの賃金をもらっている」が41.5%となっています。[精神障害者保健福祉手帳]では「働いていない」が53.1%となっています。



9 (7) あなたは今後、収入を得る仕事をしたいと思いますか。(〇は1つだけ)

今後、収入を得る仕事をしたいと思うかについてみると、全体では「仕事をしたい(続けたい)」が48.7%、「仕事はしたくない、または、できない」が43.5%となっています。所持手帳別でみると、[身体障害者手帳]では「仕事はしたくない、または、できない」が47.6%となっています。[療育手帳]では「仕事をしたい(続けたい)」が56.2%となっています。[精神障害者保健福祉手帳]では「仕事をしたい(続けたい)」が56.0%となっています。

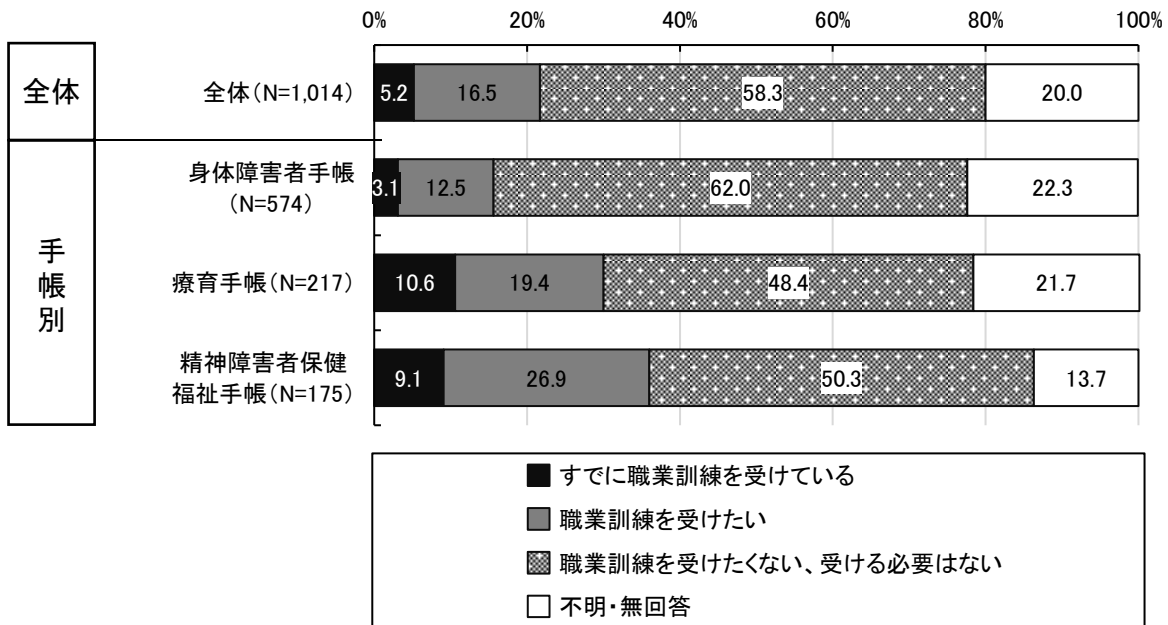
勤務形態別でみると、[正職員で他の職員と勤務条件等に違いはない]では「仕事をしたい(続けたい)」が95.5%となっています。[正職員で短時間勤務などの障害者配慮がある]では「仕事をしたい(続けたい)」が95.7%となっています。[パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員]では「仕事をしたい(続けたい)」が97.6%となっています。[自営業、農林水産業など]では「仕事をしたい(続けたい)」が85.7%となっています。[福祉施設、作業所等で、いくらかの賃金をもらっている]では「仕事をしたい(続けたい)」が65.1%となっています。[働いていない]では「仕事はしたくない、または、できない」が72.6%となっています。



		仕事をしたい(続けたい)	仕事はしたくない、または、できない	不明・無回答
全体	全体(N=1,014)	48.7	43.5	7.8
勤務形態別	正職員で他の職員と勤務条件等に違いはない(N=89)	95.5	4.5	0.0
	正職員で短時間勤務などの障害者配慮がある(N=23)	95.7	4.3	0.0
	パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員(N=125)	97.6	1.6	0.8
	自営業、農林水産業など(N=42)	85.7	11.9	2.4
	福祉施設、作業所等で、いくらかの賃金をもらっている(N=126)	65.1	30.2	4.8
	働いていない(N=497)	24.1	72.6	3.2

9 (8) 収入を得る仕事をするために、職業訓練などを受けたいと思いますか。(○は1つだけ)

収入を得る仕事をするために、職業訓練などを受けたいと思うかについてみると、全体では「職業訓練を受けたくない、受ける必要はない」が58.3%と最も高く、次いで「職業訓練を受けたい」が16.5%、「すでに職業訓練を受けている」が5.2%となっています。所持手帳別でみると、[身体障害者手帳]では「職業訓練を受けたくない、受ける必要はない」が62.0%となっています。[療育手帳]では「職業訓練を受けたくない、受ける必要はない」が48.4%となっています。[精神障害者保健福祉手帳]では「職業訓練を受けたくない、受ける必要はない」が50.3%となっています。

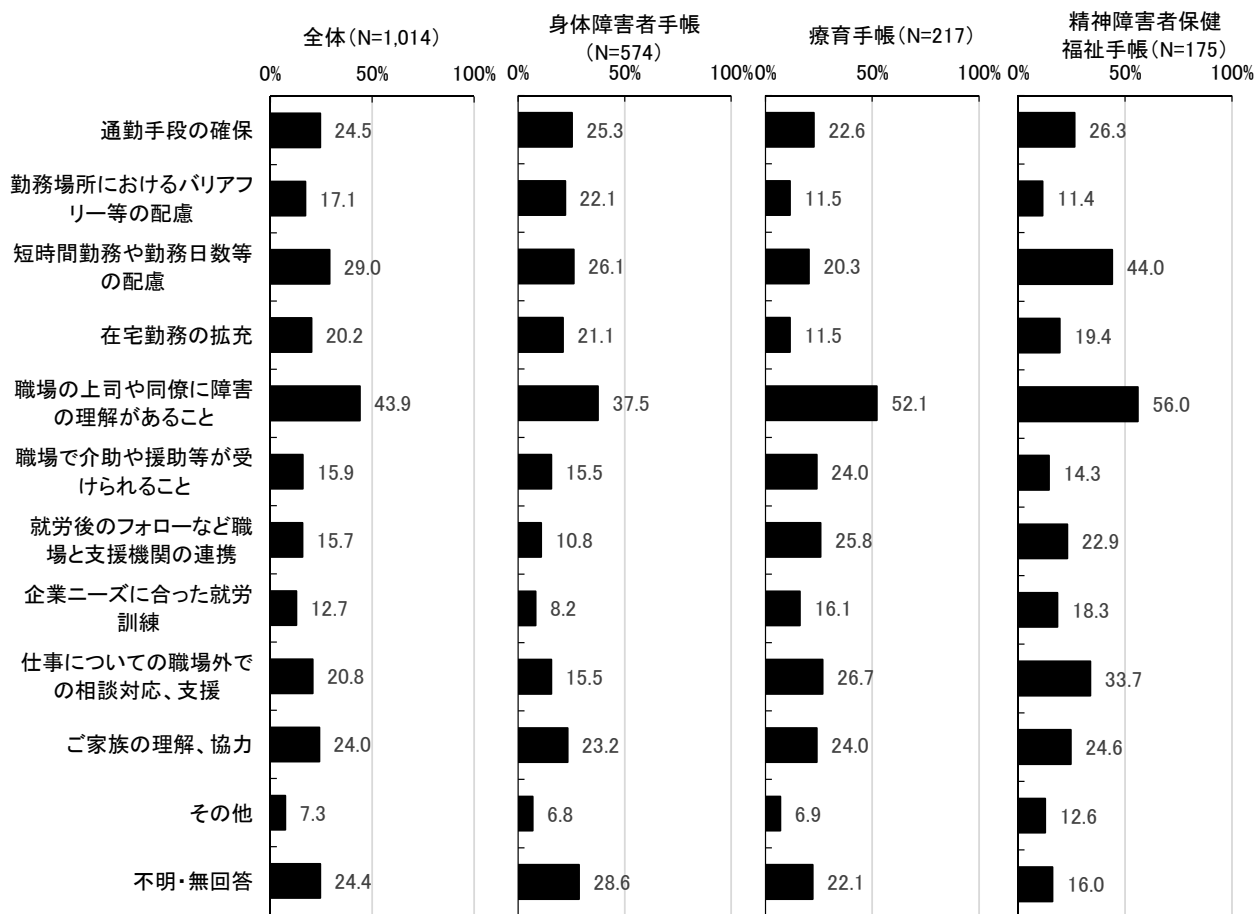


		すでに職業訓練を受けている	職業訓練を受けたい	職業訓練を受けたくない、受ける必要はない	不明・無回答
全体	全体(N=1,014)	5.2	16.5	58.3	20.0
勤務形態別	正職員で他の職員と勤務条件等に違いはない(N=89)	2.2	18.0	76.4	3.4
	正職員で短時間勤務などの障害者配慮がある(N=23)	21.7	21.7	47.8	8.7
	パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員(N=125)	12.8	24.8	56.8	5.6
	自営業、農林水産業など(N=42)	4.8	4.8	81.0	9.5
	福祉施設、作業所等で、いくらかの賃金をもらっている(N=126)	13.5	22.2	48.4	15.9
	働いていない(N=497)	1.4	15.9	64.8	17.9

9 (9) あなたは、障害者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

障害者の就労支援として、必要だと思うことについてみると、全体では「職場の上司や同僚に障害の理解があること」が43.9%と最も高く、次いで「短時間勤務や勤務日数等の配慮」が29.0%、「通勤手段の確保」が24.5%となっています。

所持手帳別でみると、[身体障害者手帳]では「職場の上司や同僚に障害の理解があること」が37.5%となっています。[療育手帳]では「職場の上司や同僚に障害の理解があること」が52.1%となっています。[精神障害者保健福祉手帳]では「職場の上司や同僚に障害の理解があること」が56.0%となっています。



		通勤手段の確保	勤務場所におけるバリアフリー等の配慮	短時間勤務や勤務日数等の配慮	在宅勤務の拡充	職場の上司や同僚に障害の理解があること	職場で介助や援助等が受けられること	就労後のフォローなど職場と支援機関の連携	企業ニーズに合った就労訓練
全体	全体(N=1,014)	24.5	17.1	29.0	20.2	43.9	15.9	15.7	12.7
就労形態	正職員で他の職員と勤務条件等に違いはない(N=89)	31.5	31.5	28.1	28.1	65.2	15.7	21.3	16.9
	正職員で短時間勤務などの障害者配慮がある(N=23)	21.7	21.7	47.8	13.0	78.3	21.7	21.7	26.1
	パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員(N=125)	28.0	17.6	32.0	15.2	60.0	8.0	21.6	16.8
	自営業、農林水産業など(N=42)	26.2	16.7	23.8	26.2	28.6	9.5	7.1	7.1
	福祉施設、作業所等で、いくらかの賃金をもらっている(N=126)	28.6	11.9	28.6	12.7	51.6	34.9	27.0	19.8
	働いていない(N=497)	24.7	18.1	32.0	24.7	39.6	15.9	12.9	11.1
		仕事についての職場外での相談対応、支援	ご家族の理解、協力	その他	不明・無回答				
全体	全体(N=1,014)	20.8	24.0	7.3	24.4				
就労形態	正職員で他の職員と勤務条件等に違いはない(N=89)	21.3	25.8	1.1	5.6				
	正職員で短時間勤務などの障害者配慮がある(N=23)	30.4	47.8	4.3	0.0				
	パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員(N=125)	39.2	25.6	4.0	8.0				
	自営業、農林水産業など(N=42)	16.7	35.7	4.8	19.0				
	福祉施設、作業所等で、いくらかの賃金をもらっている(N=126)	30.2	23.8	6.3	18.3				
	働いていない(N=497)	17.3	24.7	10.7	23.9				

10. 学校のこと、将来のことについて

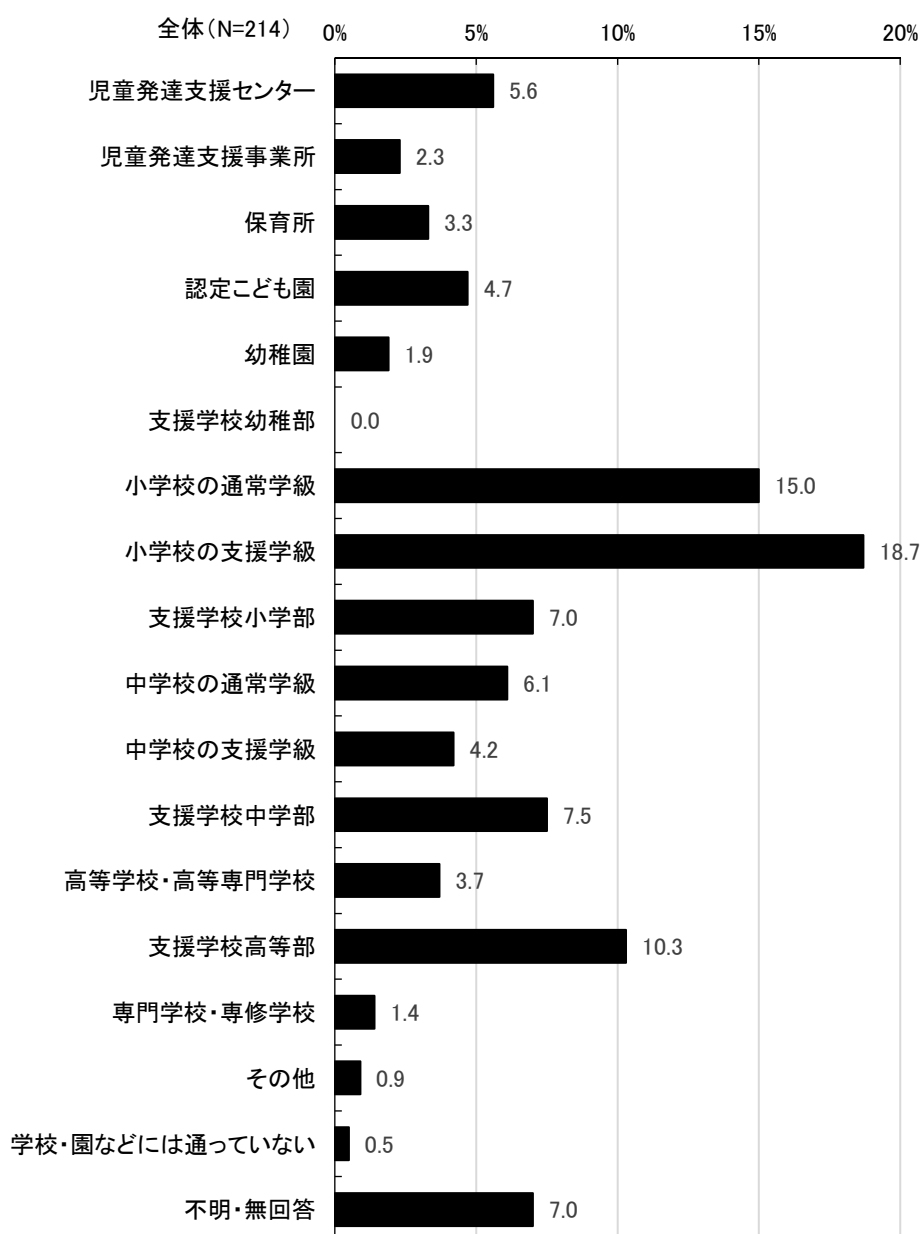
10（1）あなたが主に通っている学校・園などの種類はどれですか。（○は1つだけ）

主に通っている学校・園などの種類についてみると、全体では「小学校の支援学級」が18.7%と最も高く、次いで「小学校の通常学級」が15.0%、「支援学校高等部」が10.3%となっています。

発達障害別でみると、[診断あり（18歳未満）]では「小学校の支援学級」が23.0%となっています。

強度行動障害の診断別でみると、[対象（18歳未満）]では「支援学校中学部」が50.0%となっています。

医療的ケアが必要な方別でみると、[必要（18歳未満）]では「支援学校高等部」が30.0%となっています。

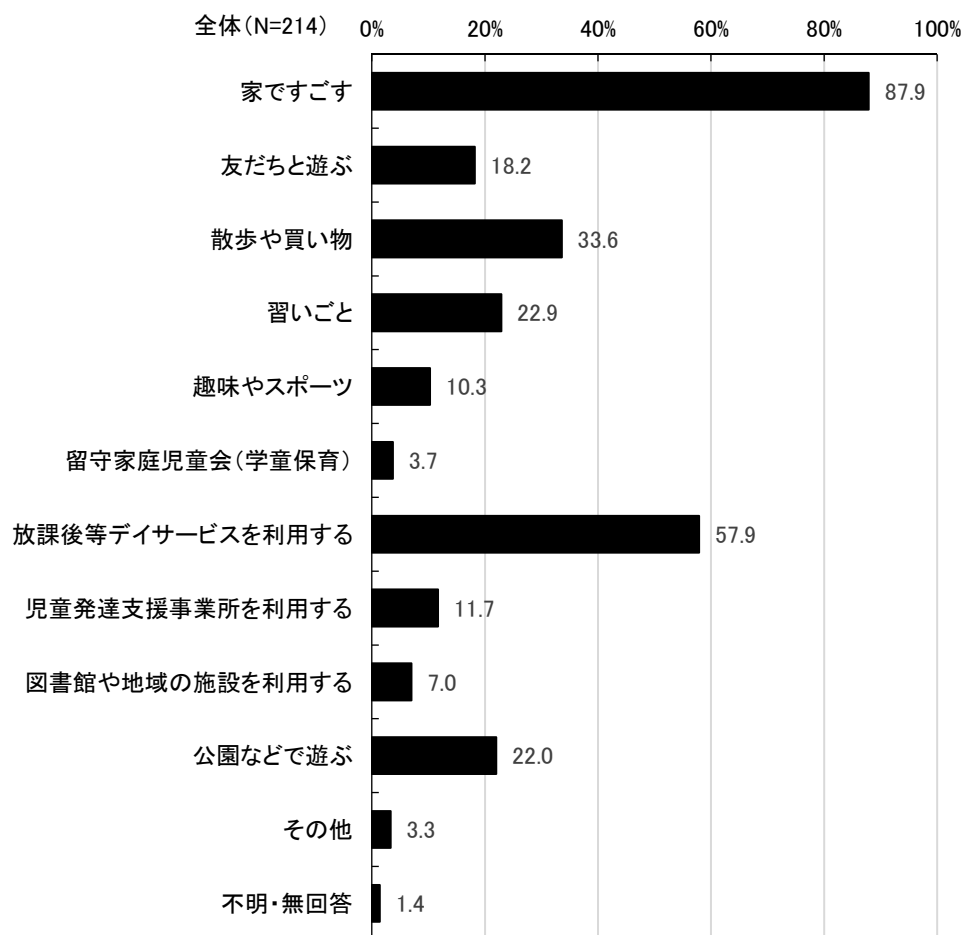


	児童発達 支援セン ター	児童発達 支援事業 所	保育所	認定こども 園	幼稚園	支援学校 幼稚部	小学校の 通常学級	小学校の 支援学級	支援学校 小学部
全体(N=214)	5.6	2.3	3.3	4.7	1.9	0.0	15.0	18.7	7.0
発達障害の診断あり (18歳未満)(N=148)	2.7	1.4	0.7	2.0	1.4	0.0	16.2	23.0	8.8
強度行動障害対象 (18歳未満)(N=4)	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
医療的ケアが必要 (18歳未満)(N=20)	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	20.0	0.0

	中学校の 通常学級	中学校の 支援学級	支援学校 中学部	高等学校・ 高等専門 学校	支援学校 高等部	専門学校・ 専修学校	その他	学校・園な どには通っ ていない	不明・無回 答
全体(N=214)	6.1	4.2	7.5	3.7	10.3	1.4	0.9	0.5	7.0
発達障害の診断あり (18歳未満)(N=148)	7.4	3.4	8.8	3.4	10.8	1.4	1.4	0.7	6.8
強度行動障害対象 (18歳未満)(N=4)	0.0	0.0	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
医療的ケアが必要 (18歳未満)(N=20)	10.0	10.0	5.0	5.0	30.0	0.0	0.0	0.0	10.0

10（2）あなたは、休みの日や放課後にどんなことをしていますか。週に1回以上していることを答えてください。（あてはまるものすべてに○）

休みの日や放課後の過ごし方についてみると、全体では「家で過ごす」が87.9%と最も高く、次いで「放課後等デイサービスを利用する」が57.9%、「散歩や買い物」が33.6%となっています。



	家で過ごす	友だちと遊ぶ	散歩や買い物	習いごと	趣味やスポーツ	留守家庭児童会(学童保育)	放課後等デイサービスを利用する	児童発達支援事業所を利用する
全体(N=214)	87.9	18.2	33.6	22.9	10.3	3.7	57.9	11.7
発達障害の診断あり(18歳未満)(N=148)	87.8	14.2	31.1	20.3	8.8	4.7	65.5	6.1
強度行動障害対象(18歳未満)(N=4)	75.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	75.0	25.0
医療的ケアが必要(18歳未満)(N=20)	85.0	25.0	30.0	35.0	25.0	0.0	60.0	5.0
	図書館や地域の施設を利用する	公園などで遊ぶ	その他	不明・無回答				
全体(N=214)	7.0	22.0	3.3	1.4				
発達障害の診断あり(18歳未満)(N=148)	4.1	16.9	3.4	0.7				
強度行動障害対象(18歳未満)(N=4)	0.0	25.0	0.0	0.0				
医療的ケアが必要(18歳未満)(N=20)	5.0	10.0	0.0	0.0				

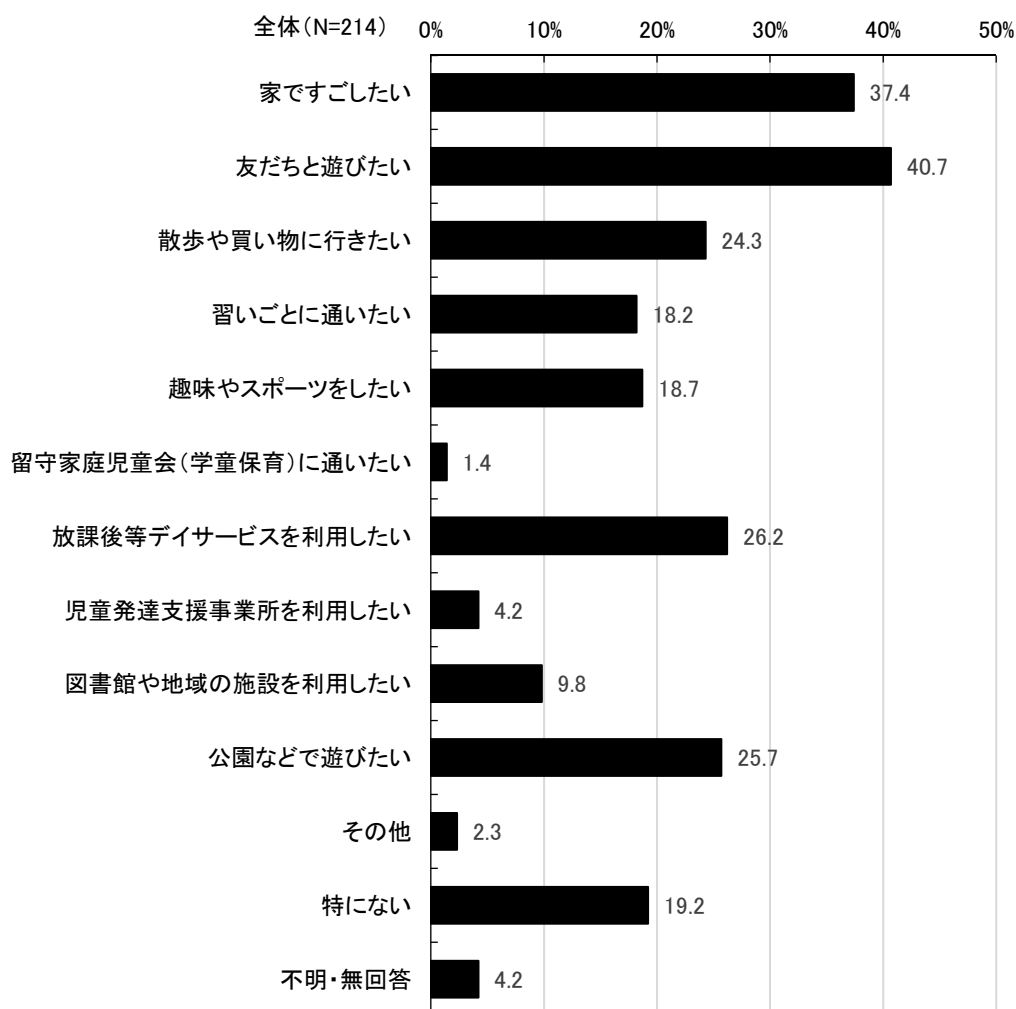
10(3) あなたは今後、休みの日や放課後にしたいことがありますか。今もしていること以外((2)で答えたこと以外)でお答えください。(あてはまるものすべてに○)

今後、休みの日や放課後にしたいこと（現在していること以外）についてみると、全体では「友だちと遊びたい」が40.7%と最も高く、次いで「家ですごしたい」が37.4%、「放課後等デイサービスを利用したい」が26.2%となっています。

発達障害別でみると、[診断あり(18歳未満)]では「友だちと遊びたい」が42.6%となっています。

強度行動障害の診断別でみると、[対象(18歳未満)]では「散歩や買い物に行きたい」「放課後等デイサービスを利用したい」「公園などで遊びたい」がそれぞれ50.0%となっています。

医療的ケアが必要な方別でみると、[必要(18歳未満)]では「家ですごしたい」が40.0%となっています。



	家ですごしたい	友だちと遊びたい	散歩や買い物に行きたい	習いごとに通いたい	趣味やスポーツをしたい	留守家庭児童会(学童保育)に通いたい	放課後等デイサービスを利用したい	児童発達支援事業所を利用したい
全体(N=214)	37.4	40.7	24.3	18.2	18.7	1.4	26.2	4.2
発達障害の診断あり(18歳未満)(N=148)	39.9	42.6	23.6	15.5	17.6	1.4	24.3	1.4
強度行動障害対象(18歳未満)(N=4)	25.0	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	50.0	25.0
医療的ケアが必要(18歳未満)(N=20)	40.0	25.0	25.0	25.0	30.0	0.0	25.0	5.0
	図書館や地域の施設を利用したい	公園などで遊びたい	その他	特にない	不明・無回答			
全体(N=214)	9.8	25.7	2.3	19.2	4.2			
発達障害の診断あり(18歳未満)(N=148)	9.5	24.3	3.4	18.9	2.0			
強度行動障害対象(18歳未満)(N=4)	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0			
医療的ケアが必要(18歳未満)(N=20)	5.0	20.0	0.0	25.0	5.0			

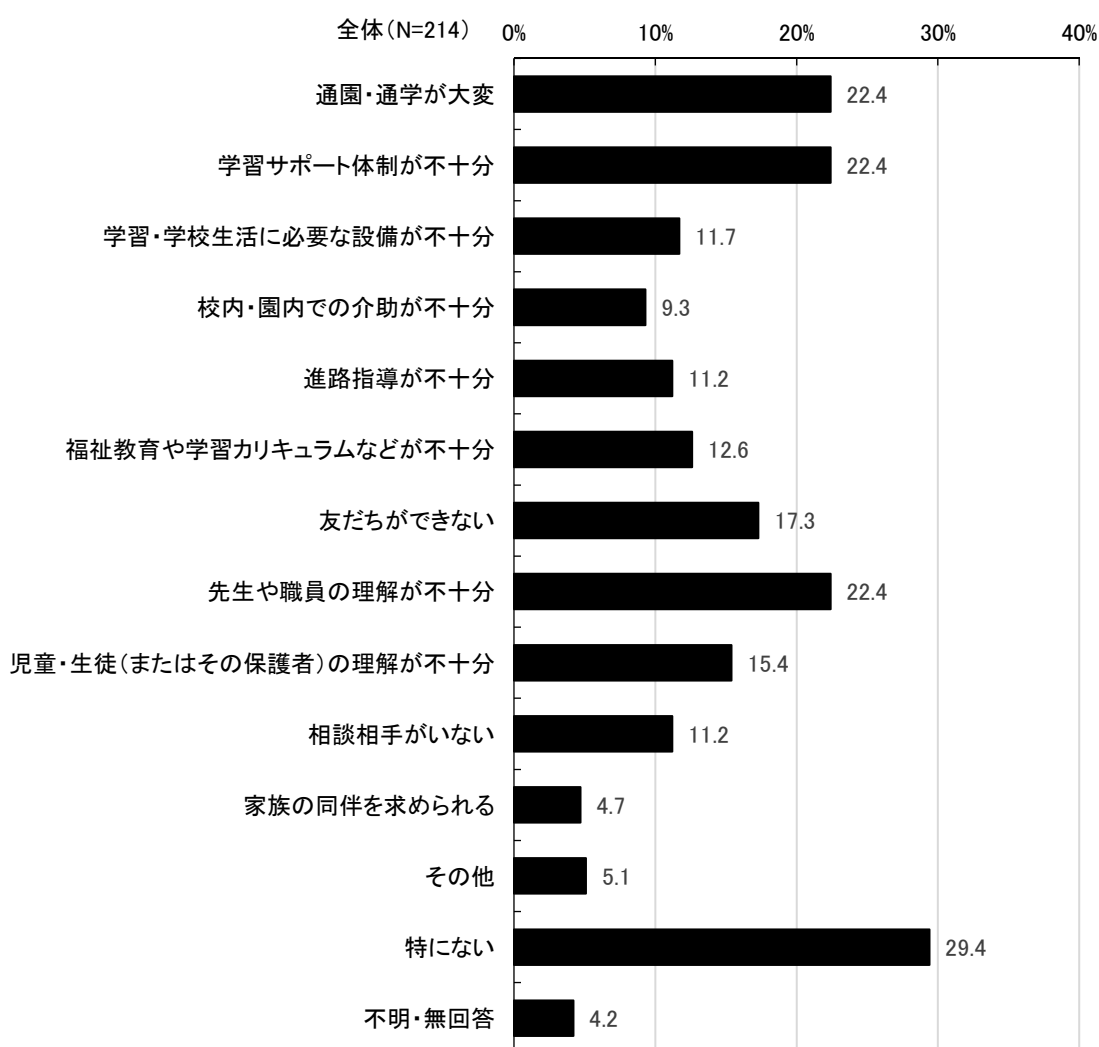
10(4) あなたが学校・園生活を送る上での問題点は、次のどれですか。(あてはまるものすべてに○)

学校・園生活を送る上での問題点についてみると、「特にない」を除くと、全体では「通園・通学が大変」「学習サポート体制が不十分」「先生や職員の理解が不十分」がそれぞれ22.4%となっています。

発達障害別でみると、[診断あり(18歳未満)]では「学習サポート体制が不十分」「先生や職員の理解が不十分」がそれぞれ26.4%となっています。[診断なし・わからない]では「通園・通学が大変」が27.7%となっています。

強度行動障害の診断別でみると、[対象(18歳未満)]では「友だちができない」「相談相手がない」「家族の同伴を求められる」がそれぞれ50.0%となっています。

医療的ケアが必要な方別でみると、[必要(18歳未満)]では「通園・通学が大変」が35.0%となっています。



		通園・通学が大変	学習サポート体制が不十分	学習・学校生活に必要な設備が不十分	校内・園内での介助が不十分	進路指導が不十分	福祉教育や学習カリキュラムなどが不十分	友だちができない	先生や職員の理解が不十分
全体	全体(N=214)	22.4	22.4	11.7	9.3	11.2	12.6	17.3	22.4
発達障害	診断あり(18歳未満)(N=148)	20.3	26.4	12.8	11.5	12.8	15.5	19.6	26.4
	診断なし・わからない(N=65)	27.7	13.8	9.2	4.6	7.7	6.2	12.3	13.8
強度障害行動	対象(18歳未満)(N=4)	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	50.0	25.0
	対象外・不明(N=209)	22.5	22.5	11.5	9.1	11.0	12.4	16.7	22.5
医療的ケア	必要(18歳未満)(N=20)	35.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	15.0
	不要(N=194)	21.1	24.2	12.4	9.8	11.9	13.4	18.6	23.2
		児童・生徒(またはその保護者)の理解が不十分	相談相手がいない	家族の同伴を求められる	その他	特になし	不明・無回答		
全体	全体(N=214)	15.4	11.2	4.7	5.1	29.4	4.2		
発達障害	診断あり(18歳未満)(N=148)	20.9	13.5	6.1	5.4	27.7	2.7		
	診断なし・わからない(N=65)	3.1	6.2	1.5	4.6	32.3	7.7		
強度障害行動	対象(18歳未満)(N=4)	25.0	50.0	50.0	25.0	25.0	0.0		
	対象外・不明(N=209)	15.3	10.5	3.8	4.8	29.2	4.3		
医療的ケア	必要(18歳未満)(N=20)	15.0	15.0	15.0	5.0	15.0	15.0		
	不要(N=194)	15.5	10.8	3.6	5.2	30.9	3.1		

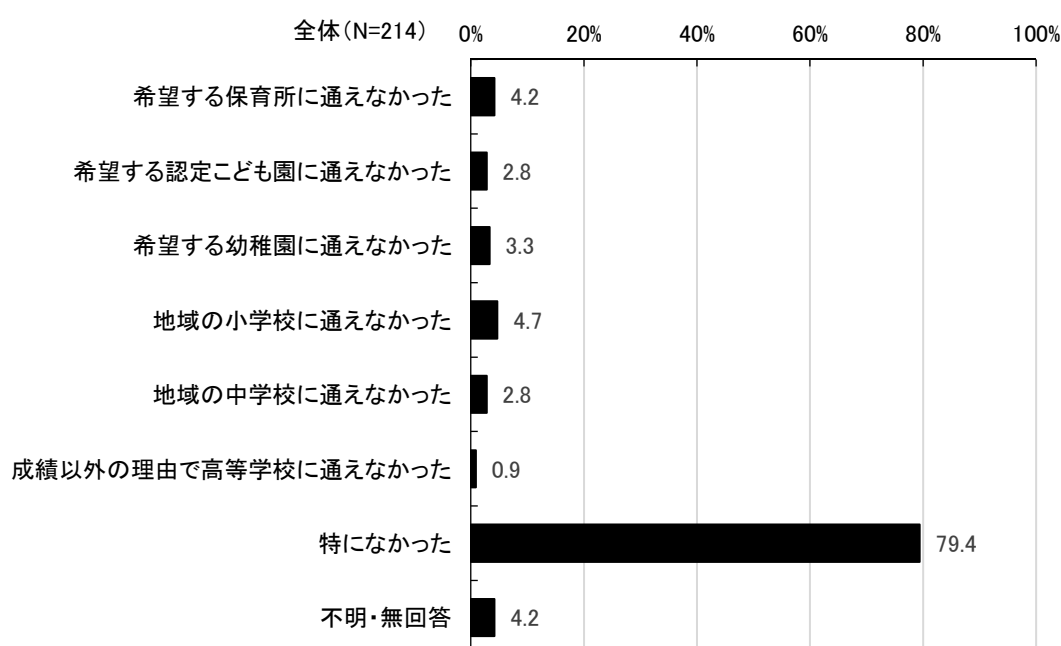
10(5) あなたはこれまで、障等があるために、自分や家族が希望する園・学校に通えなかったり、進学できなかったことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

障等があるために、自分や家族が希望する園・学校に通えなかったり、進学できなかった経験についてみると、「特になかった」を除くと、全体では「地域の小学校に通えなかった」が4.7%と最も高く、次いで「希望する保育所に通えなかった」が4.2%となっています。

発達障害別でみると、[診断あり(18歳未満)]では「地域の小学校に通えなかった」が6.1%となっています。

強度行動障害の診断別でみると、[対象(18歳未満)]では「地域の小学校に通えなかった」「特になかった」がそれぞれ50.0%となっています。

医療的ケアが必要な方別でみると、[必要(18歳未満)]では「特になかった」が70.0%となっています。



		希望する保育所に通えなかった	希望する認定こども園に通えなかった	希望する幼稚園に通えなかった	地域の小学校に通えなかった	地域の中学校に通えなかった	成績以外の理由で高等学校に通えなかった	特になかった	不明・無回答
全体	全体(N=214)	4.2	2.8	3.3	4.7	2.8	0.9	79.4	4.2
発達障害	診断あり(18歳未満)(N=148)	4.1	2.0	3.4	6.1	3.4	0.7	79.7	3.4
	診断なし・わからない(N=65)	3.1	4.6	3.1	1.5	1.5	1.5	80.0	6.2
強度行動障害	対象(18歳未満)(N=4)	25.0	0.0	0.0	50.0	25.0	0.0	50.0	0.0
	対象外・不明(N=209)	3.3	2.9	3.3	3.8	2.4	1.0	80.4	4.3
医療的ケア	必要(18歳未満)(N=20)	10.0	0.0	10.0	5.0	10.0	0.0	70.0	5.0
	不要(N=194)	3.6	3.1	2.6	4.6	2.1	1.0	80.4	4.1

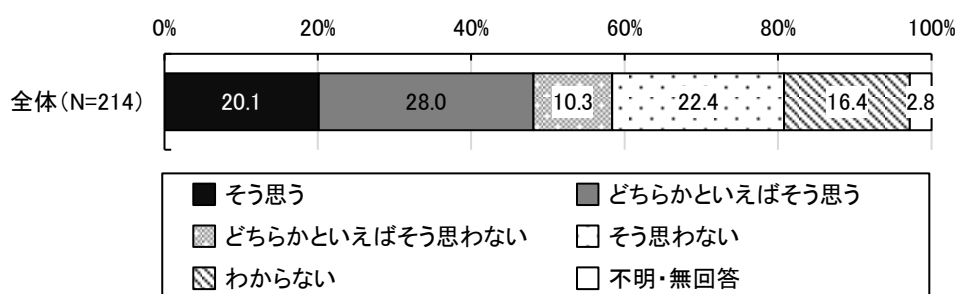
10(6) あなたは、障害等があるかないかにかかわらず、できるだけ同じ学校や教室で教育を受ける方がよいという意見について、どう思いますか。(〇は1つだけ)

インクルーシブ教育についての考え方についてみると、全体では「どちらかといえばそう思う」が28.0%と最も高く、次いで「そう思わない」が22.4%、「そう思う」が20.1%となっています。

発達障害別でみると、[診断あり(18歳未満)]では「そう思わない」が25.7%となっています。[診断なし・わからない]では「どちらかといえばそう思う」が38.5%となっています。

強度行動障害の診断別でみると、[対象(18歳未満)]では「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」「わからない」がそれぞれ25.0%となっています。[対象外・不明]では「どちらかといえばそう思う」が28.2%となっています。

医療的ケアが必要な方別でみると、[必要(18歳未満)]では「そう思う」が30.0%となっています。[不要]では「どちらかといえばそう思う」が28.9%となっています。



		そう思う	どちらかとい えばそう 思う	どちらかとい えばそう 思わない	そう思わな い	わからない	不明・無回 答
全体	全体(N=214)	20.1	28.0	10.3	22.4	16.4	2.8
発達 障害	診断あり(18歳未 満)(N=148)	23.6	23.6	10.8	25.7	13.5	2.7
	診断なし・わから ない(N=65)	10.8	38.5	9.2	15.4	23.1	3.1
強度 障害 行動	対象(18歳未 満)(N=4)	0.0	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0
	対象外・不明 (N=209)	20.1	28.2	10.0	22.5	16.3	2.9
医 療 的 ケ ア	必要(18歳未 満)(N=20)	30.0	20.0	5.0	15.0	25.0	5.0
	不要(N=194)	19.1	28.9	10.8	23.2	15.5	2.6

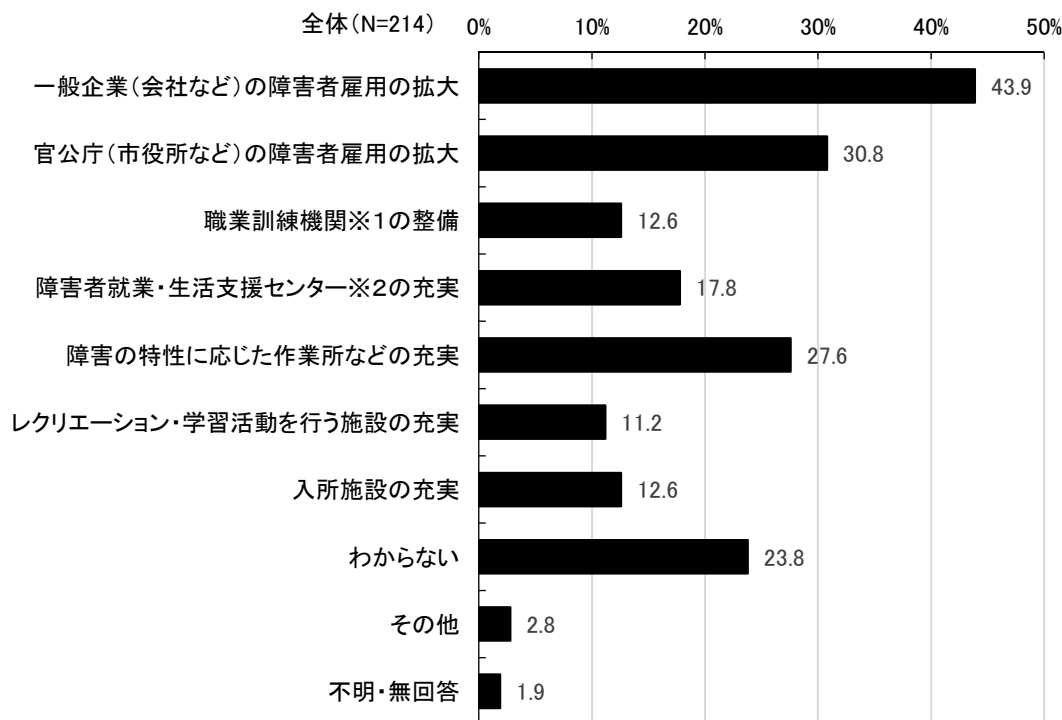
10 (7) あなたが将来、就労（または日中の活動を）するにあたって、どのようなことを望みますか。（主なもの2つまで○）

将来、就労（または日中の活動を）するにあたって望むことについてみると、全体では「一般企業（会社など）の障害者雇用の拡大」が43.9%と最も高く、次いで「官公庁（市役所など）の障害者雇用の拡大」が30.8%、「障害の特性に応じた作業所などの充実」が27.6%となっています。

発達障害別でみると、[診断あり（18歳未満）]では「一般企業（会社など）の障害者雇用の拡大」が45.3%となっています。[診断なし・わからない]では「一般企業（会社など）の障害者雇用の拡大」が40.0%となっています。

強度行動障害の診断別でみると、[対象（18歳未満）]では「障害の特性に応じた作業所などの充実」「レクリエーション・学習活動を行う施設の充実」がそれぞれ50.0%となっています。[対象外・不明]では「一般企業（会社など）の障害者雇用の拡大」が44.0%となっています。

医療的ケアが必要な方別でみると、[必要（18歳未満）]では「一般企業（会社など）の障害者雇用の拡大」「わからない」がそれぞれ25.0%となっています。[不要]では「一般企業（会社など）の障害者雇用の拡大」が45.9%となっています。



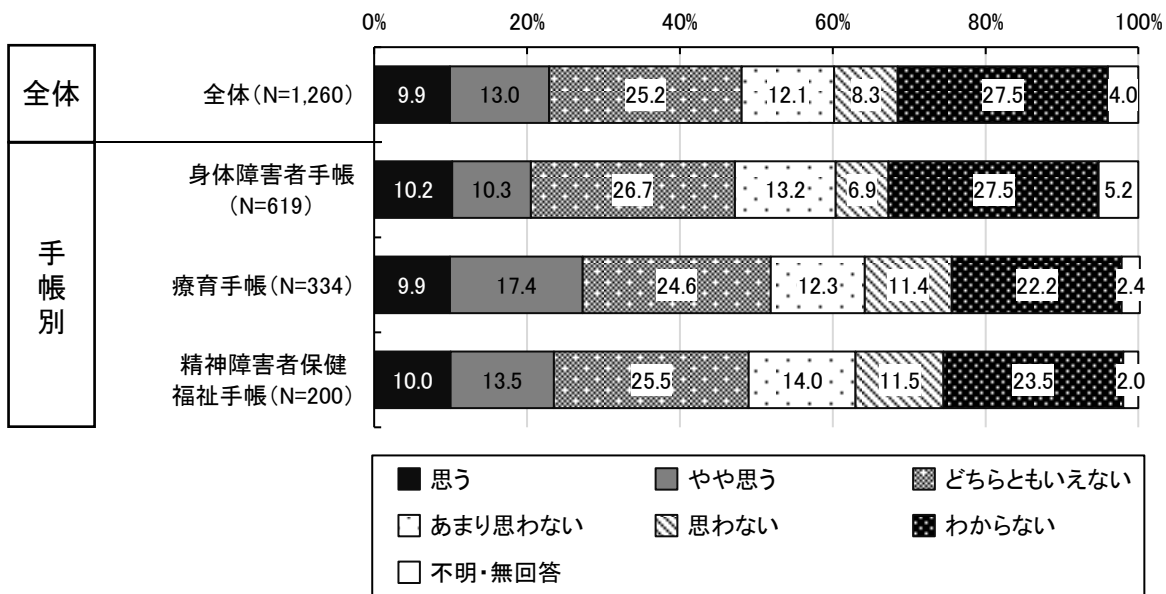
	一般企業(会社など)の障害者雇用の拡大	官公庁(市役所など)の障害者雇用の拡大	職業訓練機関※1の整備	障害者就業・生活支援センター※2の充実	障害の特性に応じた作業所などの充実	レクリエーション・学習活動を行う施設の充実	入所施設の充実	わからない	その他	不明・無回答	
全体	43.9	30.8	12.6	17.8	27.6	11.2	12.6	23.8	2.8	1.9	
発達障害	診断あり(18歳未満)(N=148)	45.3	31.1	15.5	19.6	30.4	14.9	11.5	21.6	3.4	1.4
	診断なし・わからない(N=65)	40.0	29.2	6.2	13.8	21.5	3.1	15.4	29.2	1.5	3.1
強度行動障害	対象(18歳未満)(N=4)	25.0	0.0	0.0	25.0	50.0	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0
	対象外・不明(N=209)	44.0	31.1	12.9	17.7	27.3	10.5	12.9	23.9	2.9	1.9
医療的ケア	必要(18歳未満)(N=20)	25.0	15.0	10.0	15.0	20.0	10.0	20.0	25.0	10.0	5.0
	不要(N=194)	45.9	32.5	12.9	18.0	28.4	11.3	11.9	23.7	2.1	1.5

11. 障害福祉行政について

11(1) あなたは、羽曳野市が障害のある人にとって暮らしやすいまちだと思いますか。(〇は1つだけ)

羽曳野市が障害のある人にとって暮らしやすいまちだと思うかについてみると、全体では「わからない」が27.5%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が25.2%、「やや思う」が13.0%となっています。

所持手帳別でみると、[身体障害者手帳]では「わからない」が27.5%となっています。[療育手帳]では「どちらともいえない」が24.6%となっています。[精神障害者保健福祉手帳]では「どちらともいえない」が25.5%となっています。



11 (2) 障害のある人にとって暮らしやすいまちをつくるために、どのようなことが必要だと考えますか。(主なもの5つまで○)

障害のある人にとって暮らしやすいまちをつくるために、必要だと思うことについてみると、全体では「何でも相談できる窓口をつくるなど相談支援体制の充実」が53.7%と最も高く、次いで「サービス利用の手続きの簡素化」が46.8%、「行政からの福祉に関する情報提供の充実」が35.6%となっています。

所持手帳別でみると、[身体障害者手帳]では「何でも相談できる窓口をつくるなど相談支援体制の充実」が48.8%となっています。[療育手帳]では「何でも相談できる窓口をつくるなど相談支援体制の充実」が47.6%となっています。[精神障害者保健福祉手帳]では「何でも相談できる窓口をつくるなど相談支援体制の充実」が67.0%となっています。

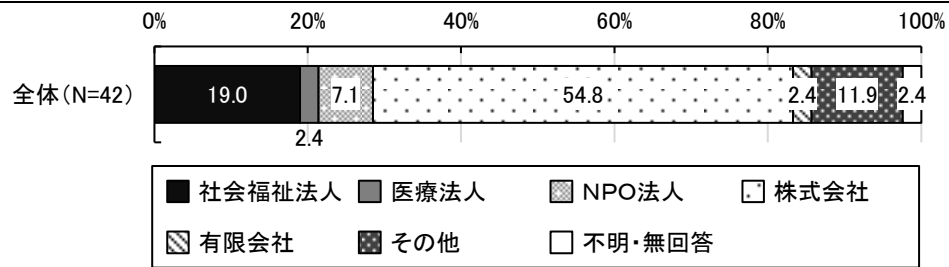
		何でも相談できる窓口をつくるなど相談支援体制の充実	サービス利用の手続きの簡素化	行政からの福祉に関する情報提供の充実	保健や福祉の専門的な人材の育成と資質の向上	参加しやすいスポーツ・サークル・文化活動の充実	いろいろなボランティア活動の育成	在宅での生活や介助がしやすいよう、保健・医療・福祉のサービスの充実	リハビリ・生活訓練・職業訓練などの通所施設の整備	地域でともに学べる保育・教育内容の充実
全体	全体(N=1,260)	53.7	46.8	35.6	21.5	9.4	4.6	26.2	13.7	6.6
手帳別	身体障害者手帳(N=619)	48.8	43.0	35.2	16.3	6.9	3.1	30.4	14.2	2.3
	療育手帳(N=334)	47.6	46.4	33.5	26.6	11.4	7.2	22.5	17.1	10.8
	精神障害者保健福祉手帳(N=200)	67.0	46.5	40.5	27.0	11.5	4.0	27.5	12.5	6.0
		職業訓練の充実や働く場所の確保	障害の有無にかかわらず、市民同士がふれあう機会や場の充実	利用しやすい道路・建物などの整備・改善	障害に配慮した公営住宅や、グループホームの整備など、生活の場の確保	災害のときの避難誘導体制(緊急通報システムなど)の整備	差別や偏見をなくすための福祉教育や広報活動の充実	本人や家族の積極性	その他	不明・無回答
全体	全体(N=1,260)	20.6	8.3	22.1	21.1	19.4	17.5	9.9	3.8	10.0
手帳別	身体障害者手帳(N=619)	12.6	7.6	27.6	18.9	20.2	11.1	8.2	4.0	12.8
	療育手帳(N=334)	26.9	8.4	17.7	35.3	21.6	22.2	8.7	4.2	7.8
	精神障害者保健福祉手帳(N=200)	32.0	11.0	13.5	19.0	21.0	22.5	10.5	5.5	7.0

Ⅲ 事業所用アンケート調査結果

Ⅰ. 事業所の概要について

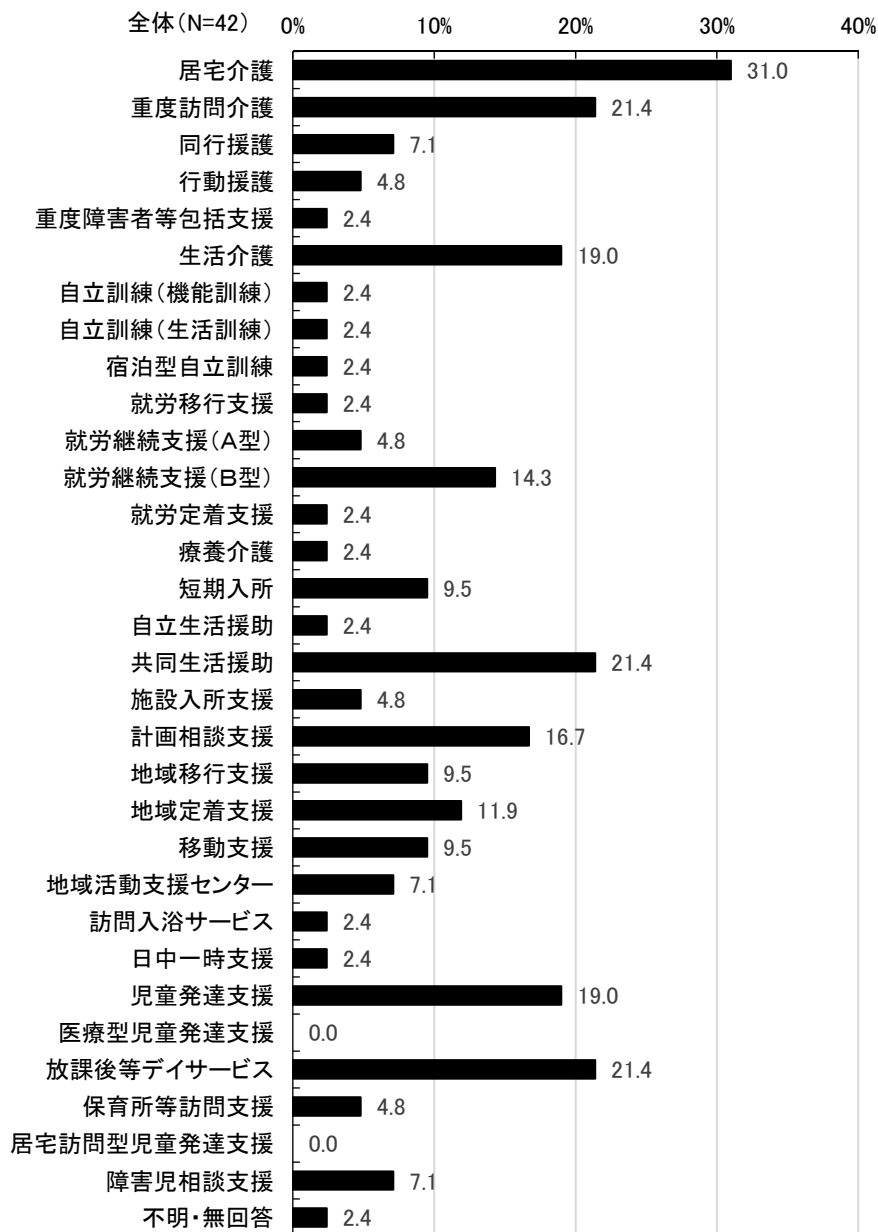
組織形態（ひとつだけ○）

組織形態についてみると、全体では「株式会社」が 54.8%と最も高く、次いで「社会福祉法人」が 19.0%、「その他」が 11.9%となっています。



1-(1) 貴事業所の障害福祉サービス等の提供状況と、今後の計画について教えてください。(複数回答)

障害福祉サービス等の提供状況と、今後の計画についてみると、全体では「居宅介護」が31.0%と最も高く、次いで「重度訪問介護」「共同生活援助」「放課後等デイサービス」がそれぞれ21.4%となっています。



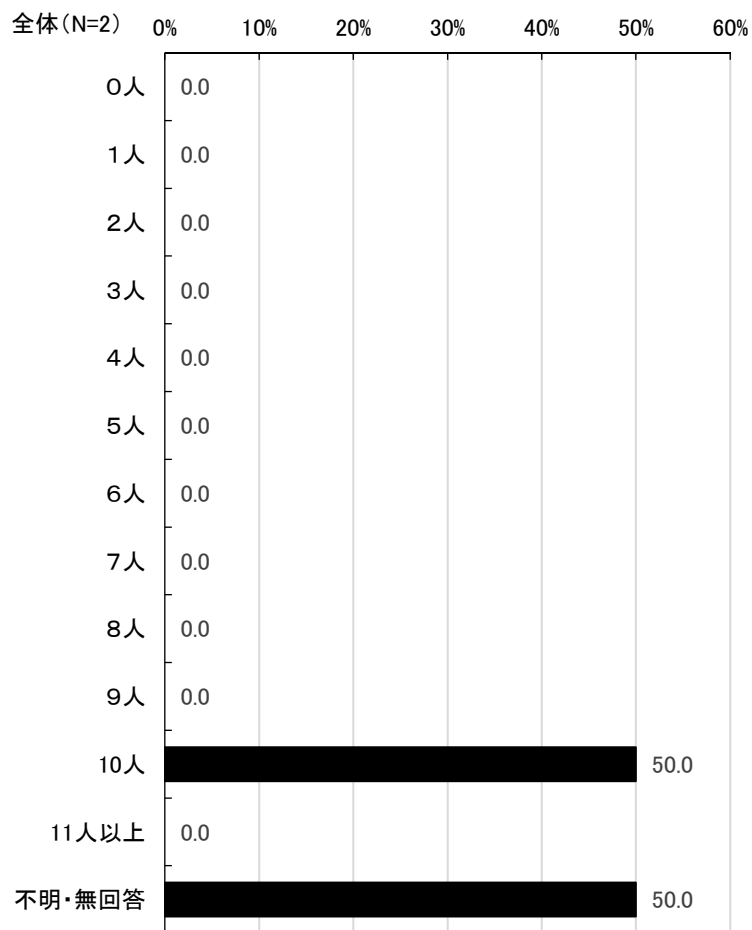
参考：提供サービス別の回答状況

サービス	回答数	現在の利用状況		今後の増員予定				
		利用者数	羽曳野市の利用者	R5	R6	R7	R8	未定
居宅介護	13	76	59		34			
重度訪問介護	18	4	1		20			
同行援護	3	6	4					
行動援護	2	2	1					
重度障害者等包括支援	1	-	0					
生活介護	8	133	89				10	
自立訓練（機能訓練）	1	-	0					
自立訓練（生活訓練）	1	-	0					
宿泊型自立訓練	1	-	0					
就労移行支援	1	-	0					
就労継続支援（A型）	2	-	0					
就労継続支援（B型）	6	29	15					20
就労定着支援	1	-	0					
療養介護	1	-	0					
短期入所	4	12	6					
自立生活援助	1	-	0					
共同生活援助	9	104	55	11	4			
施設入所支援	2	38	20					
計画相談支援	7	308	175	6				
地域移行支援	4	1	0					
地域定着支援	5	23	19					
移動支援	4	28	9					
地域活動支援センター	3	114	25					
訪問入浴サービス	1	-	0					
日中一時支援	1	-	0					
児童発達支援	8	152	75	10				
医療型児童発達支援								
放課後等デイサービス	9	307	101					
保育所等訪問支援	2	8	5	10				
居宅訪問型児童発達支援								
障害児相談支援	3	106	62					

就労継続支援（A型）、就労移行支援の事業所のみ

1－（2）今後3年間で、就労の可能性のある方の人数をお聞かせください（見込みで可）。（数量）

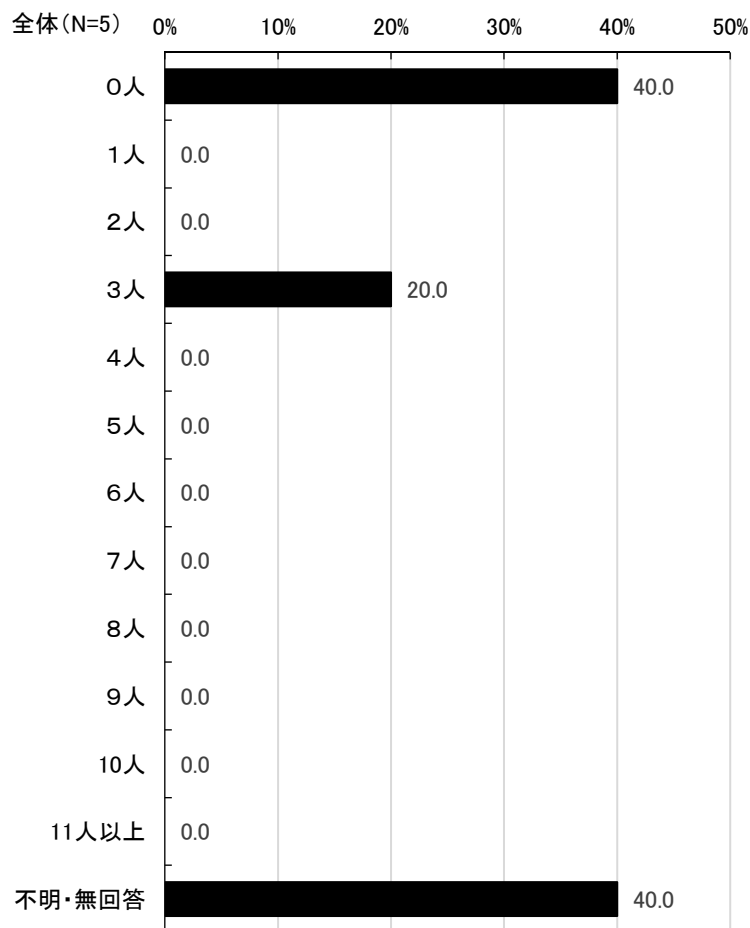
今後3年間で、就労の可能性のある方の人数についてみると、全体では「10人」が50.0%となっています。



施設入所支援、地域移行支援の事業所のみ

1－(3) 今後3年間で、地域生活に移行する可能性のある方の人数をお聞かせください（見込みで可）。（数量）

今後3年間で、地域生活に移行する可能性の人数についてみると、全体では「0人」が40.0%と最も高く、次いで「3人」が20.0%となっています。

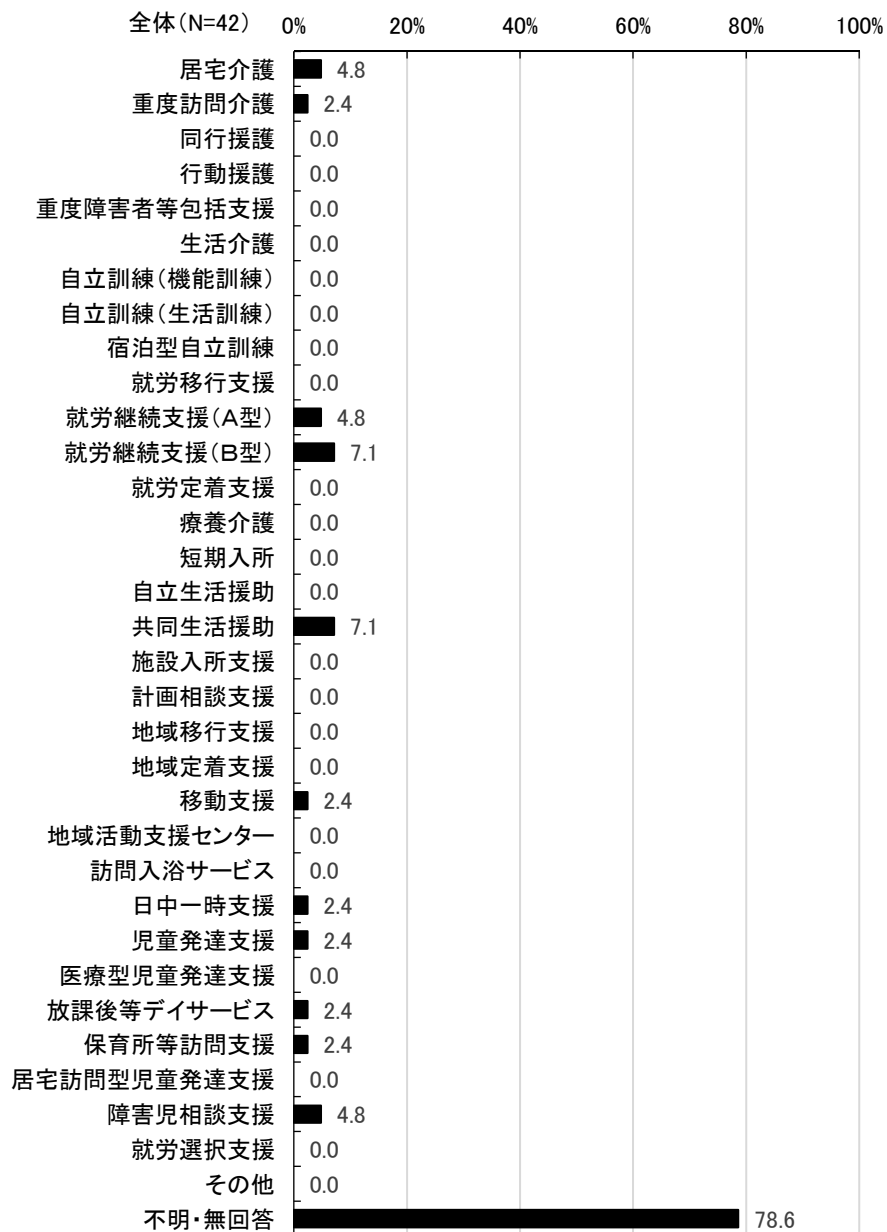


1－(4) 就労継続支援（B型）の事業所様におうかがいします。就労継続支援（B型）からの一般就労や福祉就労への移行について、実現の可能性や移行促進に向けた具体的な取組があれば教えてください。

納品の際に同行してもらい、一般企業従事者との対応を学んでもらう。
ハローワークへの誘導、知り合いの会社の紹介等を実施しておりますが、なかなか、うまく機能しておりません。
作業内容から3段階設定し、能力・体力・出勤状況により就労継続支援（A型）に移行できるように、トレーニング等を行っていくようカリキュラムを検討中。作業内容がかたまれば開所計画を実現化する予定。
定期的に相談支援員様と本人様との会議をおこない、就労に向けて話し合いをおこなっている。

1－（5）具体的な時期や規模は未定でも、令和8年度までに参入を検討していきたいと考えている障害福祉サービス等があれば教えてください。（複数回答）

具体的な時期や規模は未定でも、令和8年度までに参入を検討していきたいと考えている障害福祉サービス等についてみると、全体では「就労継続支援（B型）」「共同生活援助」がそれぞれ7.1%と最も高く、次いで「居宅介護」「就労継続支援（A型）」がそれぞれ4.8%となっています。



参考：サービス別の回答状況

サービス	回答件数
居宅介護	2
重度訪問介護	2
就労継続支援（A型）	2
就労継続支援（B型）	3
共同生活援助	3
移動支援	1
日中一時支援	1
児童発達支援	1
放課後等デイサービス	1
保育所等訪問支援	1
障害児相談支援	2

1-(6) 利用者から望む声が多いが、不足していると感じられる障害福祉サービス等がありますか。不足しているサービスを「選択肢欄」より選択のうえ、それぞれのサービスの「定員拡大や新規参入が進まない理由」を2つまで選び、「記入欄」にご記入ください。

不足しているサービス	回答件数	定員拡大や新規参入が進まない理由						
		利用需要の見込みが立てづらい	確保が困難	利用者の継続的な確保が困難	サービスの提供場所の確保が困難	職員の確保が困難	報酬単価が低く採算性に不安がある	わからない
居宅介護	11	3				11	8	
重度訪問介護	3	1				3	3	
同行援護	5					5	3	
行動援護	5					5	1	
自立訓練（生活訓練）	1		1			1		
就労移行支援	2		2			1		
就労継続支援（A型）	3					1	2	
就労継続支援（B型）	3	1	1			1	1	
療養介護	1					1		
短期入所	7	1			3	6		
自立生活援助	1	1	1					
共同生活援助	2				1	2	1	
施設入所支援	3				1	3	1	
計画相談支援	7					5	6	
移動支援	10	1	1			10	4	
地域活動支援センター	1	1	1					
訪問入浴サービス	2							1
児童発達支援	1					1		
放課後等デイサービス	1					1		
保育所等訪問支援	1					1	1	
障害児相談支援	4					1	4	

▼参入が進まない理由：その他回答

サービス	理由
居宅介護	ヘルパーさんのなり手がいない
就労移行支援	福祉以外のスキルも必要
就労継続支援（A型）	制度が実情に合っていない
短期入所	定期的な利用を見込めない

サービス	理由
	医療的ケアに対処できる事業所では看護師確保が難しい
施設入所支援	施設入所の希望は溢れかえっているが、施設サービスは拡大できないため
計画相談支援	業務負荷が著しい
	実際従事する仕事範囲が広い
	支援員になりたがらない
移動支援	ヘルパーさんがいない
訪問入浴サービス	独居に限定されているから
児童発達支援	職員の確保が困難。利用されている保護者からのお話しでは、事業所の数は多いが療育面やサービス等で良い事業所が少ないと聞いている。
放課後等デイサービス	職員の確保が困難。利用されている保護者からのお話しでは、事業所の数は多いが療育面やサービス等で良い事業所が少ないと聞いている。
障害児相談支援	実際従事する仕事範囲が広い
	管理者不足

1- (7) 円滑な事業運営を進めるうえで、改善したい（してもらいたい）経営上の課題はありますか。貴事業所が提供するサービスを「選択肢欄」より選択のうえ、それぞれのサービスの「経営上の課題」を3つまで選び、「記入欄」にご記入ください。

課題を感じるサービス	回答 件数	経営上の課題											
		特に経営上の課題を感じない	事業計画通り運営できている	利用者の確保	職員の確保	職員の資質向上	施設・設備の改善	事務作業量の軽減化、効率化	必要な情報の入手	市町村等との連携	市民、近隣住民の理解	利用者や家族の制度に対する理解	報酬単価
居宅介護	7			2	7	2	1	3				1	4
重度訪問介護	4			1	3	1		1					3
同行援護	1				1								1
行動援護	1				1			1					1
生活介護	5			2	1	3	2	2		1		1	3
就労継続支援（A型）	1				1					1			1
就労継続支援（B型）	4			3	1	1							2
短期入所	1					1	1	1					
共同生活援助	5			2	2	3	1	1			1		1
施設入所支援	1						1	1		1		1	1
計画相談支援	9				4	2		5	1	3	1	2	7
地域移行支援	2				1	2						1	1
地域定着支援	2				1	1				1	1		1
移動支援	4				3			1		1			2
地域活動支援センター	2			1	1			1		1		1	1
児童発達支援	4			2	2	1	1		1	1			2
放課後等デイサービス	10	1		1	5	4	1	2	2	2			5
保育所等訪問支援	1				1	1							1
障害児相談支援	5				3	4		2	2	2		1	4

▼改善したい（してもらいたい）経営上の課題：その他回答

サービス	理由
居宅介護	最低賃金、物価上昇が著しい中、報酬単価が上がらないことは経営上最大の課題です。
	職員の高齢化に伴い、対応できる事に限度がある。
重度訪問介護	ケアマネさんも障がいについてはよくわからないと仰る方が多い
生活介護	最低賃金、物価上昇が著しい中、報酬単価が上がらないことは経営上最大の課題です。
	欠席される利用者が多く安定した収入が見込めない（重心の利用者多数のため）
	利用者様の個々の要望に応える職員の資質
就労継続支援（B型）	最低賃金、物価上昇が著しい中、報酬単価が上がらないことは経営上最大の課題です。
	利用者の紹介をしていただける機関の拡大が困難
	利用者様の個々の要望に応える職員の資質
共同生活援助	資金調達
計画相談支援	他機関への認知度が低い。
	最低賃金、物価上昇が著しい中、報酬単価が上がらないことは経営上最大の課題です。
	委託が→（児と者で分かれてるので）両方できるようにしてほしい。
移動支援	最低賃金、物価上昇が著しい中、報酬単価が上がらないことは経営上最大の課題です。
地域活動支援センター	安心を求める場に利用人数を求められるため、人材不足、専門性が必要となってくる。
児童発達支援	左記サービス提供事業所が多いため
放課後等デイサービス	⑦法改正などで以前より事務作業量が増え現場は大変。④、⑦最低賃金は上がる一方なのに報酬は下がる一方なのはどうかと思う。
	左記サービス提供事業所が多いため
	BCP 対策、車中積み残し対策等日々の業務に加わるイレギュラーな提出物や対策、金銭のかかる設備を求められることが多い。
	人材不足
	学校との連携、理解度の低さ
	体調をくずしやすく、体調不良によるキャンセルや入院でキャンセルになりやすく、収入が激減する。そのため看護師の確保が難しく、経営を圧迫している。報酬単価が低すぎる。
保育所等訪問支援	専門性は必要だが、人件費に見合わない
障害児相談支援	委託が→（児と者で分かれてるので）両方できるようにしてほしい。
	専門性は必要だが、人件費に見合わない

2. 障害福祉の各分野について

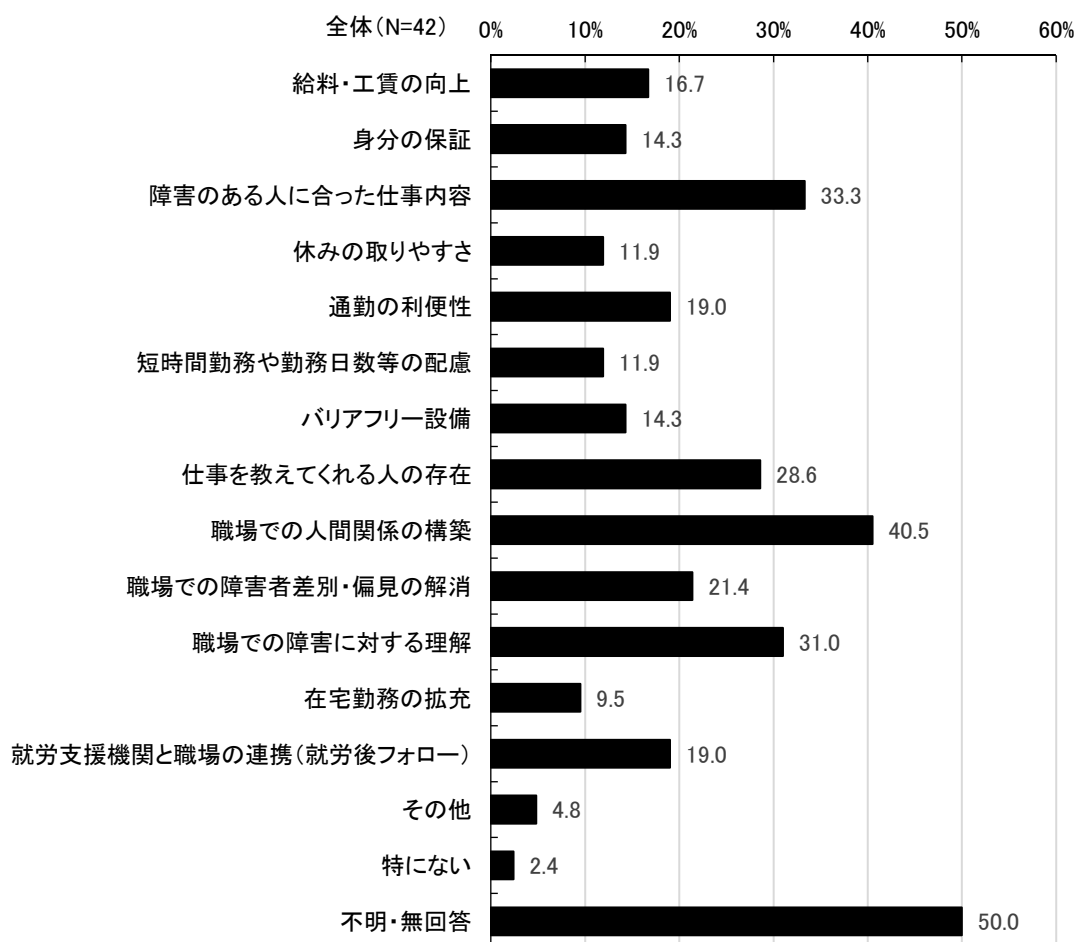
2- (1) 雇用・就労の支援：就労支援全般（就労継続支援A・B、就労定着支援、就労移行支援等）のあり方について

現状や課題	今後の取組方策や方向性
・市内に就労移行・就Aの事業所が少なく紹介する際に他市に頼らざるを得ない。利便性のいい場所への通所へのニーズがあるがニーズが満たされていない。	・公共施設の障害者雇用の拡大（郵便物の振り分け、清掃業務、新たな雇用）
市内に就労継続支援A型・就労移行支援が皆無に等しい為、他市に行く事が出来る当事者ので、選択肢がない状況。就労継続支援B型は、福祉的支援必要であると思う一方で、「就労」とサービスに名前が付いているものの、工賃の低さから敬遠される事がある。結果として支援の目から行き届かない場合も見られる。	市内に選択肢がない事から、行ける人のみという状況を改善する必要があると思われる。市内への事業所誘致や他市への通所に向けての暫定的な補助、工賃アップに向けて、事業所努力も必要であるが、市内の就労継続支援B型などへのフォローアップ体制などが必要と思われる。
現時点では障がい児を専門としているので課題などはわかりません。	左記と同じ
A型が少ない。就労移行が少ない。	
利用者本人が雇用契約しての就労に関して、自信が無い、または体力不足等を理由に億劫になっている。	雇用、就労に関しての当所に入って来る情報を提供して行く。
事業を行う予定ないです。	
方向性のアドバイスは出来ているも、具体的な就職先の紹介が出来ていない。	障がい者の就職を求めている一般企業との連携の強化。更に、そういった一般企業とのタイアップにより、障がい者施設を共同経営し、その先の就職を見据えた運営を実施したいと考えている。
現状、羽曳野市内に就労移行支援事業所が少なく、利用希望の方は大阪市内へ通所されますが、交通費の負担が大きく選択肢の幅が狭くなっています。	・就労移行事業所の新規参入・更生訓練費等の後立て。
働きたい職種がない。	難しいです。
・精神疾患患者への就労支援のむずかしさ。・出勤（出席）率と作業効率の維持。・作業を助ける機具、機会の価格高騰。・工賃の設定と事業所利益の想定あやまり（これらのことにより長期安定的に運営がむずかしい）	「働くこと」と「賃金」への考えちがいがあり、家族や知人のまちがった知識や思いから、様々な問題につながっていく。何度も本人、家族等と話し合うことや、将来のイメージをつくりやすくする工夫などもこまかなケアの一つとし

現状や課題	今後の取組方策や方向性
	て必要。
この分野に関して、よくわかっておりません。	
利用者様にお渡しする工賃	毎月、利用者様に喜んでもらえる様に売り上げを上げて工賃をお支払いし日々工賃の向上に向けて取り組んでいる。
障害がある方の就労は本当に難しいと思います。毎日休まずに行くという社会人として当たり前の事がなかなか出来ません。	毎日、作業所へ行くというそれだけをコツコツと促しています。

■障害のある人が働くにあたり、事業所や一緒に働く人に望むことは何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

障害のある人が働くにあたり、事業所や一緒に働く人に望むことについてみると、全体では「職場での人間関係の構築」が40.5%と最も高く、次いで「障害のある人に合った仕事内容」が33.3%、「職場での障害に対する理解」が31.0%となっています。



2- (2) 療育、保健・医療、教育の充実：障害のある人（子ども）の療育、保健・医療、教育について

現状や課題	今後の取組方策や方向性
医療：総合病院に精神科を作ってほしい。教育：障害のある親への先生の理解と協力	
医療や教育の分野と福祉が連携する際や他機関と協働する際に、責任転嫁になる場面や日和見的な態度が度々見られる。また行政も部署によって温度差があり、国からの通知等があれど、机上の空論や表向きの整備だけの話になり、実態に伴わない事が多く、いつまでも同じ話をしている事が多い。上記状態が続く事により、現場サイドが疲弊するという悪循環を生みだしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題の抽出を明確に行い、“消極的な姿勢”ではなく、“解決に向けての取り組み”を検討する意識改善が必要と思われる。 ・ 課題解決に向けて、短期集中的に検討・議論・協議するワーキングチームやプロジェクトチームなどを作った方が望ましいと思われる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 各分野の連携が叫ばれている中、本質的な連携は難しく、ライフステージごとに支援が途切れる現状がある。 ・ 児童発達支援センターが軸となり、18歳までの一貫したサポートが必要であるが、人口の割合に対し、センターが十分機能できないほど広範囲にわたる。 ・ また、児童から成人に移行する際に、それまで受けていたサポートが大きく変化するため、本人・家族にとって負担となっている。 ・ 医療・教育・福祉を統合し、本人家族と寄り添う支援者の存在が不可欠である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画相談が軸となり、医療・教育・福祉の連携の潤滑油となり、大人から子どもまでの一貫した支援に寄り添う。
送迎時などで学校や保育園などの連携が難しい。利用者の下校時刻に合わせてお迎えに行くが学校に園によって様々なルールがあるので学校などのルールを一本化にしてもらえると助かる。	こちらだけでは、現状や課題について改善できない。
羽曳野近辺に通院先、入院先が少ない（子どもの場合）	
社会と交流をもてる環境づくり	地域イベントの参加、ごみひろいなど町内活動の参加
不登校、学業のおくれ、コミュニケーション出来ない。	
障害のある子どもに関して放課後デイと学校との間で情報連携がスムーズではないと聞いたことがあります。	教育現場の業務簡素化。情報連携や共有できるシステム。

現状や課題	今後の取組方策や方向性
母体が精神科病院であり、何か変化があった場合すぐに対応している。	
就学中は学校が対応してくれているが、卒業すると家庭に大きく負担がかかる。放課後デイもあるが、利用半年の発生により利用しにくい状態ではないだろうか？	
医療の対応や処置が出来ない状態の中、困る部分が多い。通院の頻度が多く、対応が追いつかない。	
軽度発達の子供の教育の場が手薄。昔ながらの選択肢のまま、小学校の支援学級は比較的手厚いが中学になると、発達障害児の差も大きくなるが、支援学校、支援学級、通級となり、通級がすべて設置されているわけではなく、支援学級に個別支援対策がなかなかできないのが現状。高校への進学に対しても、支援学校から意欲的に学習しても、内申点の対応が難しい。もう少し支援学級と支援学校の間でどっちつかずになっている子へ脚光を当てて欲しい。	支援学校に入学したら支援学校高等部を卒業しなければいけないという考えは持たせない様に軽度で自力に向かって努力している子へ福祉事業御所や福祉の世界だけをうえつけず、高校資格の取れる道やもう少しいろいろな選択をできるように、学習面を支援してあげて欲しい。小学校で習った学習も支援に行くと積み上がらないどころか忘れていくので学習カリキュラムを入れて欲しい。
1人の児に関わる施設や職種が増えているが事業所や機関との横のつながりや時間経過での縦のつながりがもちにくい。情報や支援が共有されにくいいため関わる人により支援内容が異なってしまう。	地域の幼、保、小、中、高で過ごす重度障がいのある児への支援教育。システムの充実に向けて専門職による訪問事業の拡大が必要と考える。
発語のない方や行動障害を持たれている方の通院同行や移動支援を受けてもらえる事業所がない。	ひきつづき探してはいくが、特に歯科通院等複数の利用者に通院同行の必要性が生じたときにホームの職員のみで対応するには限界がある。
学校の状況：理解不足とまちがった知識、将来への導きができていない（進学へのまちがった考え）。「教育」と「療育」の違いがわからない。閉鎖的環境：誰にもたよらない、たよれない状況。	・こども園（保育所・幼稚園）、小学校、中学校との連携。・家族のレスパイトがひんぱんにできる環境。・進学先との情報交換と連携。・発達検査のスムーズ化。・軽度だからこそその小学校入学対策。
医療的ケアの内容が個人ごとに管理するべきことが多く困りごとなど主治医に相談したいも、保護者を介して助言をもらうことがあり、直接聞きたい事があるも Dr の多忙事情などで実現が難しい。看護師も安心して働けるように情報共有出来る研修や体制があれば…という	利用されている方々が安心して過ごしていただけのように主治医（病院）との連携がとれるように、また看護師も安心して働けるようにフォローアップやスキルアップの研修が多くあると良い（デイ・施設・訪看など）。看護学校でも今後増えていく重心児者（医療的ケア）のこ

現状や課題	今後の取組方策や方向性
声もある。現職 30 代以降の看護師は、学校で重心児者を習っていないのでわからないと手探り状態でのスタートになっている。	とをカリキュラムに含め学習して、一人でも多く理解して下さるようになって欲しい。
公立・小、中学校の支援級の先生が少ない。もう少し専門性のある職員を配置すべきでは？	学校・放デイがもっと連携をとって、双方の強みを活かすことのできる環境ができればと思います。
教育について、・クラスの子達と同じ様に学習をすすめ、「分からない」と中々言い出すことができずにそのまま先へと進んでしまっている。	「一人一人に合った」は小学校等では難しいと思う。「分からない」を言える環境づくりであったり、デイから学校への情報の提供などが行えれば、と考えている。
・関係機関との連携・家庭支援	・部会等で、どのように連携を取るか全体で考えていく。
放デイにおいて療育をしていく中で就労につながる支援も必要（今よりも）	学年が上がるにつれ、就労に向けた取り組み機会を増やす。
発達障害のある方は年を重ねるにつれ特性が強くなる人が多いように思われる。	幼少期のうちに発見、周囲の理解が必要と思います。

2－（3）相談支援の充実：障害のある人の家族（主たる介助者・支援者）からの相談内容（困りごとや心配ごとなど）について

現状や課題	今後の取組方策や方向性
<p>・自分は高齢となり子供の将来使えるサービスを知りたい。・いつでもサービスを利用できるように準備しておきたい。・子供を施設に入れたい。入院させたい。など。・自立して、自分に迷惑をかけず生活してほしい。（金銭面、精神面含め）家に戻ってきてほしくない。入院していてほしい。</p>	<p>・家族が子供の将来を安心して考えられるよう、サービス体制の情報提供する冊子や提供の機会が必要。</p>
<p>・他機関で対応可能な事も事業所名だけ伝えて、こちらに連絡するように話をされての対応。行政で言えない為、こちら（事業所）で代わりに伝えて欲しいとの依頼。・主たる介護者や支援者で対応出来る事も事業所に相談してくる事。①葬儀屋の手配やその他手配【本人の支援に直結しない事柄】②通院やその他手続き、主たる介護者や支援者で出来る事も相談員という理由だけでこちらに全て依頼してくる事。・相談員に対して、そもそも何をしてくれる専門職かきちんと説明しないまま、相談員利用を進めていた部分が否めず、何でもしてくれる人という認識を持たれている人も一定数おられる。・不平や不満、愚痴、どうしようもない現状ややり場のない怒りを、ただただ長い時間電話や面談で、ぶつけてこられる事もある。</p>	<p>・きちんと三層構造に整理していく事。複合課題を抱える世帯などは相談支援専門員一人の力では限界があり、多機関で協働出来る支援体制が必要。・国などが相談支援専門員に役割を求めているのならば、何を行う専門職か丁寧な説明や啓発活動をして頂きたい。これは他機関においてもいえる事である。</p>
<p>・重度の知的障害で、さらに行動障害のある人の行き場がない</p>	<p>・全国的な課題であり、対応は困難</p>
<p>保護者からの依頼で両親が仕事をしている家庭で営業時間外での送迎や預かりを求められるがそれに対応できない。</p>	<p>出来る限りの対応はしているが、あまりにも遅い時間や早い時間は対応できずにお断りしている状況。</p>
<p>・福祉サービス以外の相談内容が多い（金銭的なこと、学校のこと、一般就労先でのことなど）</p>	<p>・担当機関があれば、そこに依頼する（しかしたいいてい相談先はない）</p>
<p>特になし</p>	
<p>家族様からは利用者様本人に合った支援内容の提案や、在宅時でのトラブルに起因した相談が多く感じられます。</p>	<p>利用者様・家族様双方の意見をきちんと受け止めて、現状の把握に努め、それを支援していく。</p>
<p>仕事等で、訪問のコンタクトがとりづらい。</p>	<p>メールやFAXを使って、コンタクトをとる。</p>

現状や課題	今後の取組方策や方向性
・軽度知的障害、発達障害の方の居場所や仕事探し。	・親子共に障がいがあったり、児童期から者のサービスのみの利用の子どもへのケース（だいたい困難）に対応できる委託とか基幹があっほしいと思う。
将来への不安	
小遣いの要求など家族へ連絡する事が多くなる時がある。	小遣金の管理をし、1日〇〇円と個別に決め、お渡ししている。
・長時間の通院の付き添い	・対応したくても人員が不足困難。・障害のある方の要望が多種多様で、未経験なことが多い。
高齢化の対応。	
・不登校問題・提出物が多い中学生に対し、忘れ物が多く、すぐに記憶がとんでしまう子に対するの対策や方法などの手段を教えたり、よりわかりやすくの支援が無い。	個人の悩みごとを話しやすい環境や専任の職員の配置。
どこに相談したらよいかわからないといった声があった。	
どうしたら、お酒をやめることができますか？	現在、専門医師を招いての勉強会を、月2回、定期的実施しております。この勉強会の参加者を増やすことを、まずは目標としている。
所属施設での集団行動の難しさ、対人トラブル、子育ての難しさによる疲弊（保護者、兄弟姉妹）、次のライフステージに関する不安。	家族支援への取り組み
計画相談をつけずセルフプランの利用者様が多く、ご家族様がサービスをつけることに否定的である。	
利用者の年齢層が若い為、将来への不安を持たれているご家族様が多い。	法人内でもGHなど検討し、1つの方向性としてご家族様へ提案できる様に取り組んでいく。
・計画相談支援事業所がみつからない・医療にかかれない（本人の拒否、外出できない等）・8050問題	計画相談支援に関して、職員の質の向上を目指すとともに、他作業所の情報収集を行ない、支援につなげていく。医療に関しては、訪問看護や保健所と連携し、8050問題同様に支援者とのつながりを保っていく。
現状の打開と育児相談	適切なネットワークの構築
・レスパイトできない・相談しても軽くみられる・進学先がない・お金の心配	家族ケアの相談先がある（・レスパイト・お金（進学、就職先なども含む）
・将来的な話しでは、家族では対応出来なくなった時（親亡き後）の入所先について。（父母ど	・医療的ケア児でも気切カニューレを自己抜去する可能性があるため、入院時は必ず付添い、

現状や課題	今後の取組方策や方向性
<p>ちらか亡くなるや介護が困難な時) どうなるのか。・祖父、祖母の介護について。・福祉車両や福祉機器について。・浴室改造について。・防災について。・満床で入院を断られ、在宅での介護で限界を超えそうな時、どうしたら良いか。保護者間のトラブル・きょうだい児について。・入院について (付添い)</p>	<p>ショートステイの受け皿もなく困っている人もおり、病院での対応や医療型ショートの実が望まれる。・自身の知識の中で、お応えできることに限りがあり、色んな分野の情報など欲しい。・防災について、市役所など行政機関と医療的ケア児、者のためネットワークなど連携を取りたい。</p>
<p>子どもに対して、どのように接したらいいかわからない。子どもの将来が不安。</p>	<p>障害福祉サービスの拡充</p>
<p>学校での問題行動について、事業所ではどんな様子かという相談。</p>	<p>学校とデイ、保護者の方とで、よりコミュニケーションをとる。特に学校とデイでのコミュニケーション (情報の共有)</p>
<p>・個別療育をして欲しい・相談員がいない。</p>	<p>・職員の確保 (管理者含む)</p>
<p>一つのきっかけで引きこもりになり、外に出る機会を増やしてほしい。</p>	<p>定期的にご連絡をして、他の人と会話する機会を増やしていく。</p>
<p>ご家族 (親) が高齢になってきてからの今後の不安。</p>	<p>重度障害者が入所出来る施設を増やさないといけないのではと思います。</p>

2-(4) 福祉サービス等の充実：障害のある人とその家族の地域生活を支援する福祉サービスのあり方や、障害のある人の福祉サービス等に対するニーズの動向などについて

現状や課題	今後の取組方策や方向性
<p>・ニーズとしていつでも気軽に相談できる窓口や場所、現状の相談支援体制では限界があり、人材確保の財源が必要。その中で、地域活動支援センターで行っている地域生活を支援する体制について、一定の評価と、評価基準の見直しを行う必要がある。</p>	
<p>・以前と比べて、通所系とグループホームは増加しましたが、質の担保や体制が脆弱な所、そもそも根本を理解していない事業所が多く、逆に課題や問題を誘発している事例があるなど充実しているとは言い難い。・居宅事業所が人材確保が難しく、新規のみならず既存ケースの調整が難しくなっている。・ニーズや課題を抽出出来ても、解決策の立案や対応、地域資源の創出までには至っていない。意見を吸い上げてもフィードバックが出来ていない。・課題が棚上げになっており、何か問題が生じた時にその対応出来る支援者の個の力で、対応しており以前と変わっていない。</p>	<p>・ニーズや課題に対して、解決に向けて、短期集中的に検討・案などを立案出来るワーキングチームやプロジェクトチームなどの検討が必要と思われる。</p>
<p>・民間企業が参入し、グループホームは近年増えているが、反して触法や行動障害のある方の受け入れ先はない。・短期入所も限りがあり、利用できない場合も多い。・結果、自宅で過ごせなくなった方は精神科の病院に入院するしかないが、入院先も限られている。</p>	<p>・施設を増やすか、触法や行動障害のある方を受入れるグループホームへの補助を充実させる。</p>
<p>障がいのある人の福祉サービス等のニーズについて、(3)に記載している両親共お仕事をされている家庭での早朝対応や延長対応に困られている家庭が多いと思う。</p>	<p>特になし。</p>
<p>在宅で生活介護を利用している方の利用時間が短いので、朝夕のサービスがほしい。</p>	
<p>特になし</p>	
<p>移動手段さえあれば利用できるのに…をあきらめる事が度々ある(就 A、就 B、短入、通院 etc)</p>	<p>タクシーとか気軽に使えるようになったらいいな。</p>
<p>男性ヘルパーの少なさ。</p>	

現状や課題	今後の取組方策や方向性
母体が精神科病院であり、デイケアに参加して頂いている。	
今のところなし	
・障害者の家族が高齢で面倒をみられなくなった時の受け入れや居宅サービスの充実。・ひとり親状態になっている時の日常が維持できていない家庭への支援（母が長期入院、父が仕事で深夜帰宅で障害児が長時間子供だけの時間を過ごし、食事、睡眠、入浴などに不備が出る）。	・親が健在でも場合により居宅サービスを受けられるようにする。・障害者と高齢介護の必要のある従護者が同施設に入れる環境作り。
要配慮の保護者の増加、保護者を理解した上で障がいのある児への説明できる機関が増える事も必要	障がい理解できる研修会を多くの社会資源の方へ実施する。
余暇のサービスとして移動支援を希望される利用者様が複数名おられるも、新規で受けて頂ける事業所がなく困っている。	
さまざまなサービスができることはいいことだが、その質を求められる段階にきているように感じる。例えば…グループホームなど、新規サービスは増えているが、理解の乏しさを訴えられることもある。地域で生活を継続するために、居宅介護による自立支援は重要な役割を保っているが、さまざまな理由で受け皿がない。	サービスの質の向上と見極め。
大人（者）向けのサービスが少ない。選択肢が少ない。	政府の新しいしくみの構築
・家族のレスパイトできる環境がない・相談しても解決の方法がわからなくなる（役所・学校・園など）・「大丈夫」と言われていたのに5年先のことが見えない	・ショートステイなどの設備・民間との連携・障害を低年齢の時に理解しサービスをニーズにあわせて考えることができるシステムや公共サービス
主たる介護者（両親）の高齢化のため親なき後の利用者の生活に不安がある。・有料の老人ホームに入所した方は2ヶ月ほどで退所した（理想と現実のケアに大きな差があったそうです）。	安心して地域で生活できるようにGホーム等の整備が必要。
訪問ヘルパーや施設職員など福祉の現場で働く人が激減しており、スタッフの呈茶が難しく、在宅で過ごすには、厳しい状況である。また、18才を超えるとかかりつけ医の小児科から転院、転科せねばならないケースもあり、往診医のみ関わりで救急搬送の際に20件断られた	特にどの現場においても人手不足の問題があり、人材確保が必要である。病院によっては、転院、往診医へ変わらざるをえなく、往診医も医療的ケア児を診たことないという人も多く、専門医でなくてもお願いせざるをえない状況と救急搬送の受け入れ体制など見直して欲し

現状や課題	今後の取組方策や方向性
人もいる。地域で、在宅で生活するには改善すべきことが多いと思われる。	い。
ヘルパー不足	
正社員、常勤パートと時短アルバイトでは児童に関わる時間が異なるため、同じレベルのサービスを提供することが出来ていない。	研修を今まで以上に開催したり、職員同士の関わりを深められるような機会を設けて気軽に質問し合える関係性を築いていく。サービスの統一化を目指していきたい。
個々のニーズに応えられる様に多彩な取り組み支援が必要と思います。	しっかりとニーズを聞き取り支援内容を日々考えて取り組んでいく。
出来るだけ自宅で過ごしたい。	出来るだけ、希望にそった支援を行う。

2- (5) 地域住民組織との関係性の構築：地域住民組織による地域福祉活動に障害のある人が参加していけるように、貴事業所が取り組まれている（取り組みたいと考える）地域住民組織への協力や地域活動への参加について

現状や課題	今後の取組方策や方向性
<p>・現状：地域のイベントへ団体として参画。個人の参加応援できる形はとれていない。・課題：障害への偏見（地域+本人も含め）を取り除き理解を深めれる、交流ができる場所を地域の中に作る。</p>	<p>・啓蒙活動（地域住民、雅での体験談や障害の話）小・中学校への出前授業</p>
<p>・法人や事業所で、地域に理解してもらえるように啓発活動や地域行事の参加などを行っています。もっと理解して頂けるように、地域と関わりを持っていければと考えています。ただ怖さや不安を覚えている方もおられる事も事実。</p>	<p>・法人や事業所として、地域への関わりや地域活動の協力・参加は変わらず続け、理解促進や地域共存、関係性の構築の為に、行政・社協、様々な機関との協働がしていく事が望ましいと思われる。</p>
<p>地域の方と交流の機会が少ない。</p>	<p>・地域の事業所や住民の方、農家の方と野菜をうったりしている。大きくしていきたい。・契約できなくても相談できる、しやすいシステムを考え中。</p>
<p>コロナ前に行っていた様な、イベントへの参加。活動の一環としてた外食等、社会とのかかわりを増やして地域との交流を図りたい。</p>	
<p>今のところ対応できず、活動への参加予定が立っていないです。</p>	
<p>災害時の地域とのつながりや救済。</p>	
<p>・年に 1~2 回の地域事業清掃活動・子どもまつりへの出店・イベントへの参加</p>	
<p>地域とのコミュニケーションが、ほとんど取れていない。</p>	<p>地域活動に、是非参加したいと考えている。どのような活動が可能か、情報が欲しい。</p>
<p>機会があればどんどん参加してもらおうようにしている。</p>	
<p>施設の周りが畑なので、あまり関わる事が無い。</p>	
<p>そこまで検討できていない。</p>	
<p>・地域の自治会への参加</p>	<p>・更なる地域の行事への参画</p>
<p>日々の医療的ケアの内容が多く、室内で療育するのが精一杯である。タイミングを合わせて近隣を散策して、ご近所の方々にお声がけ、あいさつする等交流したり、他事業所のイベント</p>	

現状や課題	今後の取組方策や方向性
(マルシェ)に参加など短時間だけの活動が限界である。防災の取り組み等も高齢者が多く難しい。新型コロナの流行で、控えることが多くなった。	
特に何もできていないことが課題	地域住民組織との関係性の溝
地域清掃など地域の行事への積極的な参加を行っている。ただ、コロナウイルスの影響で、参加人数が限られていたり、行事そのものがなくなりつつあるように感じる。	地域が少しずつ今までのように戻ってきているため、行事の復活に期待。今までの分、今後はより積極的に交流ができるよう、参加を考えている。
地域住民からの理解はかなりむずかしい。	
地域の人々や利用者様の家族を招いて行うぼんぼこ祭りをコロナウイルス感染症の流行や人手不足により開催出来ていなかった。	コロナウイルスも落ち着いてきたので、今年は開催を予定している。毎日の公園遊びに行く時には、ビニール袋を持参して、児童と一緒にゴミ拾いを行い地域の人々と交流していく。
地域の方とお話しができる機会を今以上に増やしていく。	地域の方が来やすいカフェ等を作りお話しのできる機会を増やしたい。
本人が参加したがない。	訪問先のご近所さんに会ったら笑顔であいさつをするよう、スタッフには徹底している。

2 - (6) 相談支援の充実：相談支援体制全般（相談支援事業所、基幹相談支援センターなど）のあり方について

現状や課題	今後の取組方策や方向性
<p>・相談には、一定長時間かけて密に関わりが必要なケースも多々あります。その中で相談数のカウントのみで現在の相談体制の評価はしないでほしい。・相談員が心にゆとりをもって対応ができる体制づくり＝人材確保の財源とスキルアップが必要。</p>	<p>・事業所の枠を超えて、定期的にスーパーバイザーを受ける機会の確保</p>
<p>・委託相談から、そのまま計画相談で対応していた事で、委託事業所がパンク状態になっている。・一時期の行政サイドの対応のまずさも他市の事業所に知れ渡ってしまっている事など、他市の事業所がケースを引き受けず、新しい事業所もそこまで増えていない。・他機関・自分たちで対応出来ない事を解決してくれると、そのまま丸投げしてこられる事がある。その後は日和見で、こちらが協力依頼を求めても、自分らの業務範疇を理由に非協力的な態度で臨まれる事がある。・求められている事と報酬が伴わない。・何でもかんでも代わりに行う代行業みたいな扱いを受ける事がある。</p>	<p>・そもそもの制度設計や報酬算定に問題がある。求めている事と行っている実態に対して、報酬が伴わない為、根本的な見直しが必要である。行政レベルにそこを求めるのは難しいと思われるが、それならば行政レベルで出来る事を検討して頂きたい。（市町村レベルでも独自でしている事柄もある為。）・きちんと三層構造に整理していく事。ただ他機関も主体的かつ協働する姿勢がないと相談支援専門員一人の力では限界があり、行政や事業所に対しても、何を行う専門職か認識して頂く取り組みが必要と思われる。・相談支援専門員の認知度が無い為、国などが相談支援専門員に役割を求めているのならば、他分野と関わる上においても啓発活動もして頂きたい。・基幹相談を設置したとしても、設置するだけではなく、障害福祉課も一緒に作っていく・共に検討する姿勢がないと難しいと思います。うわべだけの対応だと一緒には出来ないと思います。</p>
<p>・計画相談の単価だけでは、相談員一人あたり100 ケース以上持たないと採算が合わないが、それだけのケースを受け持つと、一つひとつのケースに十分時間を使うことができず、ジレンマが生じる。・さらに、相談員一人を育成するためには膨大な時間と労力がかかるが、ただでさえ経営的に回っていないのに、人材育成に費やすお金も時間もない。結果、相談支援の質が低下する。</p>	<p>・計画相談の単価を上げることで、経営的に成り立たせる（個人的な見解だが、質を担保しようと思えば、相談員一人あたり、70～80 ケースが限界)</p>
<p>特になし。</p>	<p>今後弊社でも相談支援事業所を開所したいと思っている。</p>

現状や課題	今後の取組方策や方向性
・相談員不足	
特になし	
事業所と相談支援事業所、利用者様の間で情報共有が不足している時があるように感じます。	それぞれで連携して、情報共有の機会を増やして行きたい。
相談支援専任でするには、報酬がすくない。兼務だと時間が足りない。	
・軽度知的障害、発達障害の方の居場所や仕事探し。	
サービス管理責任者を中心とし、密接に関わりを持つ事が出来ており、入所者からの相談に乗れている。	
当事業所に相談があっても長時間や毎日だったり、対応できない。	
・人数が足りていないのか受けられないことも多い。	・事業所として開業しても一つの計画の為、相談をし社会貢献とつなぐ為に時間をかけても報酬があまりにも少ないので伸びない。
相談支援事業所等に寄せられている情報の把握が出来ていない。	それぞれのサービス提供事業者が、上記の情報の把握することにより、サービス提供が、より良いものとなるを考える。相談支援事業所等に寄せられた情報を、SNS 等を利用し、関連事業所に情報を提供するシステムの開発が必須と考える。
特に児童に関する事業所が少ない。単価も低く、保護者の受容から対応していかないといけない為、アセスメント等で時間がかかる。	単価だけでなく事業所が増える事が必要。
グループホームの利用を希望されていますとの事で契約し、入居されても入居後のご本人様の困り事やトラブル時に情報を共有しても様子もみに来てくださらない事業所もある。利用者様の事を思ってアドバイスを下さったりする事業所とレベルの差がありすぎるという印象です。	
・相談支援事業所の数が不足しており、新規の利用者さんの受入れが困難である。・基幹相談支援センター立ち上げの方向性が決まらない。	・相談支援事業所に関しては、報酬単価が低く、相談員という仕事に就く人がいない。報酬を上げる事によって人も集まってくると思われる。・基幹の役割、委託の役割の住み分けをきちんと決める。人材も不足しており、立ち上げの見通しが立たない。役所の協力は必須。
相談支援員の数自体が少ない。	厚労省のシナリオ変更・単価の増額

現状や課題	今後の取組方策や方向性
他県のように医療的ケア児専門の相談支援が必要ではないでしょうか。相談員の減少や担い手が不足しており、ある程度の知識が必要である。また、医療的ケア児コーディネーターの育成や配置など色んな分野に人数を増やしていく必要があり、一人でも多くの理解者が大切である。	人数が増えていく医療的ケア児の受け皿を作っていくためにも他県のように府も事務局を設置して欲しい。
障がいを持っている方の支援（サポート）でとどまっている。	選択肢を増やせるように助言や情報の提供を行う。
相談支援様の人員不足があると思います。	相談支援員様の勤怠関係などの見直し
充実はしていないが、何とか頼めている。	

2-(7) その他、障害者福祉施策全般について

<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある人が安心して文化的な（習い事など）活動ができる集まれる会館があるといい。 ・近年、障害は子供の施策に予算を取られ、後回しになっているように思う。障害は市民全員がいつなりえるかわからないのが障害なので子供、高齢とともに一体と考え施策を広げてください。
<p>様々な場面において、何か他人事のような対応な印象を受けたり、余計事態をややこしくなり、不信を抱かざるを得ないようになった事が、ここ数年非常にあったように思います。以前のようにともに考えて、ともに動いて当事者の地域生活がよりよくなるような支援が出来ればと思っています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・泊まりのあるローテーション勤務をするスタッフを確保することが非常に困難な時代になってきた。すでに生じているが、人材不足で施設うんういが成り立たなくなる事業所がますます増えていくことを非常に懸念している。法人・事業所としても、人材難によるリスク回避が最重要課題となっている。行政にも人材核に関する抜本的な対策を望みたい。
<p>市によって受給者証の支給日数に統一性がないのが疑問に思う。</p>
<p>特になし</p>
<p>利用者様やその家族様等の意見をくみ取れるような機会が増えると良いと思います。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・基本報酬を増やして欲しい。 ・モニタリングと計画案どちらかしか算定できない。どちらもしている場合は算定させて欲しい。 ・その他利用者から呼ばれたり等で動いているが、それに対し報酬がない。報酬の幅を広げて欲しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・困難なケースについて、もっと積極的に関わる事ができたらいいのになあと思う。 ・軽度の知的障害、発達障害、精神障害の人、他者とのトラブルが多かったり、利用が安定しないので事業所から敬遠される事が多い。 ・その方々の居場所や仕事が確保されるような報酬体制ってできないのかなー。 ・頑張ってる事業所が評価される（そうでない事業所があるからと報酬単価が下がるのはどうか）システム考えてほしい。
<p>私共は、アルコール依存症の方を中心に施設の運営を実施しています。アルコール依存症の方については、専門の医師からもアドバイスをいただいておりますが、その方の状況等にもよりますが、毎日の通所が望ましいと思われる方が、間違いなくいらっしゃいます。しかしながら、羽曳</p>

<p>野市の支給量は、当該月の日数－8日が原則となっており、例外を認めていただけません。多くの自治体で、毎日の通所を、特認していただいております。他の施設の利用の選択肢の意見もいただいておりますが、慣れた施設の方が良いと、全ての方がおっしゃいます。今後、医師の診断書等を判断材料に、支給量の特認も検討いただければ幸いです。ご検討の程、よろしく願いいたします。</p>
<p>障害福祉課、家庭支援課、子ども家庭センターの連携強化を望む。</p>
<p>全般的に人材不足であり、仕事が回らない。福祉に携わる人材育成に府や市が力を入れて欲しい。このままではサービスを受けられない利用者も出てくる。十分なサービスを受けられる様又障がいを持った方が安心して暮らせる地域作りをしていく必要がある。書類作成に追われ、実際に困っている状況にある人に手を差し伸べている時間がない。作成書類の簡素化も考えて欲しい。</p>
<p>各福祉サービス職員人材難です。とにかく。</p>
<p>よく聞くのが、もっとはやくに知りたかったと思うことの多さが多すぎるとの意見です。相談しても「冷たい」「遅い」「わからない」というものがほとんどです。コロナのために発達検査も遅れ、支援をはじめていればかわったかもという方も聞きます。障がいのある子どもと家族に優しい行政のシステムづくりを望んでいます。</p>
<p>医ケアの必要な利用者さんが多数通所されています。災害時コロセアム・リック等、福祉避難に行けば電気は使用できますか！（人工呼吸器、吸引、吸入等）バッテリーだけでは数時間しか持ちません。はっきりとした避難場所を提示して下さい。</p>
<p>たくさん子どもや家族をフォローして行きたいが、報酬単価が低く、欠席、入院と続くと、経営をしていくのが厳しい状況である。看護師が必要不可欠で退職されると、ハローワークでは求人はず、紹介会社を頼るしかない、紹介料の高さも経営をひっ迫している。受け皿をなくしたくないし、今後も子どもやご家族の笑顔が見れるように、在宅で過ごせる様にして欲しいです。</p>
<p>報酬単価の改善、職員の給料が上がらない為、定着しない。</p>
<p>・訪問介護のように福祉用具をリース出来るようにしてもらいたい。（じょくそうが出来てもエアマット 20 万→20,000 円支給では購入不可です…）。 ・訪問入浴も介護と同じように使えるようにしてもらいたい。</p>

IV 団体アンケート調査結果

1. 貴団体の概要について

1 貴団体の主な活動をご記入ください。

地域活動支援センター（I型）事業 一般相談支援事業 地域移行支援事業 地域定着支援事業 共同生活援助事業
障害者福祉事業所の日中事業所を中心とした連絡会 定例会 2か月に1回 利用者行事「スポーツ祭」フレスポ 音楽鑑賞 職員研修
障がい児通所支援

2 貴団体における会員数をご記入ください。（令和5年8月1日現在）

57人
10事業所
100名/1日定員

3 貴団体の活動で現在課題になっていることはありますか。

地域活動支援センター利用者の定員確保が難しく、定員に満たなければ委託費が減額される契約のため、職員の増員や雇用条件、福利厚生等が見通せない。（元々の委託料も低い） 地域移行を進めるためにピアサポーターの活動が不可欠ですが、その予算がない。 日中活動（地域活動支援センター）の利用者数が増えない。精神障害のある方が多く利用されており、日々状態（症状により）が変わり、通所しづらさがある。 地域で暮らされている方の近所の方の理解と見守り。
職員の確保や育成
保護者の多様化（理解状況、経済状況、保護者の特性）により、対応の必要となる内容が多岐に渡る。 次のライフステージに向けての引きつぎが、時間をシステムとして成立しにくい。 保護者の就労による利用形態の変化

4 その課題のために、今後貴団体が行いたいことや、周囲から支援してほしいことを教えてください。

ピアサポーターの活動を保証する予算。 地域の理解を進めるための啓発活動。 精神障害や発達障害の啓発活動。 子供（小中学校）への啓発活動を行っていくために、行政の力を借りたい。
近隣大学と連携し、小学校、中学校への福祉の魅力や、現場の体験、様子を伝える場を設ける。 子どもたちとの交流を通して、福祉への関心を持つ機会を作り、福祉系の大学や専門学校への進路を考えてもらい、将来の就職先として考えてもらう。 職員の確保、情報交換
保護者（家族背景）に関する事前情報の取得や公的機関と連携してのサポート体制づくり

2. 福祉サービス等について

5 障害のある人や子どもが利用するサービスや支援について、不足していることや今後充実を望むことを教えてください。（〇〇のサービスを使いたい、〇〇があればよい…など）

障害者に適した住居の確保 経済的な負担の軽減 不登校・ひきこもりの子供が通い集える場 学校への送迎 ご家族や身寄りのない方の保証人の確保
ガイドヘルパー、ホームヘルパーの担い手が不足しています。必要とする障害のある人たちに必要な時間や量など十分なヘルパーの派遣ができていません。 支給決定されていなくても緊急時に利用できるショートサービス。 余暇など安心して利用できる施設。 スポーツセンター、プールなど。
ガイドヘルパー 相談支援事業所不足

- 6 羽曳野市では、障害のある人や子どものニーズに対応した障害福祉サービス等の提供は十分だと思いますか。十分でないと思う場合の原因は何だと思いますか。(事業所の不足、利用手続き上の問題・・・など)

<p>利用の手続きが難しい 制度の仕組みがわからない 相談する相手がいない</p>
<p>ガイドヘルパー、ホームヘルパーの担い手が不足。困難ケースなど対応できる、専門性の高い事業所が少ない。 障害のある利用者や、家族への対応で丁寧に求められる時に対応できる事業所が少ない。 障害支援区分により支給決定量がガイドラインで決められているため、当事者や相談員が必要としても支給決定されない時がある。</p>
<p>市の窓口でのアセスメント不足。 窓口でもう少し保護者の気持ちをくみ取った対応。</p>

3. 発達支援、保育、教育（学校生活など）について

- 7 障害のある子どもの発達支援や、保育、幼児教育、学校教育などについて困っていることはありますか。

<p>学校等との連携が難しい。 担任の先生、教頭先生などとの連携がとりにくい。 医療的なケアが必要な子どもが、保育所等の就学前に利用できる保証がされていない。</p>
<p>軽度～重度の児、特性も様々な児が地域施設で過ごし学ぶ形が作れていない。 児も先生も周囲の児も困る場面が増えている。</p>

困っていることについて、どのような支援が必要だと思いますか。

<p>福祉と教育と話し合いができる場、就学前（保育所・幼稚園・こども園）に医療的ケアが必要な子どもも利用できるシステム</p>
<p>幼・保・小、先生方への支援システム、障害への知識、保護者の理解不足、相談し合えるシステムなど。 専門家の訪問（定期的）</p>

4. 就労や社会参加について

8 障害のある人の就労や社会参加について、困っていることはありますか。

スポーツや習い事をする場が少ない。

健常者の場はあるが、障害の理解や配慮のある場があれば、社会参加が進むと考える。

就労継続支援で働く工賃の増額。

また、燃料費等の高騰による就労支援事業の経費の増加。

困っていることについて、どのような支援が必要だと思いますか。

仕事場や日中活動の場に行くのに慣れるまで、移動支援の利用ができれば自力で通所できる力を伸ばすことができる。

就労支援事業所への優先発注

5. 地域住民組織による地域福祉活動への参加や協力関係について

9 障害のある人が、地域の一員として地域活動に参加していくための支援に関して、具体的に取 り組まれていることや困っていることはありますか。

校区福祉委員会への参加。行事への参画。

関係事業者ある地域への福祉委員会等への参加

困っていることについて、どのような支援が必要だと思いますか。

記載なし

6. 相談支援体制について

10 障害のある人や子どもに関する相談支援の体制は充実していると思いますか。

相談支援事業所は、現状電話や現場での対応に日々追われている。十分に相談がいきわたっておらず、足りない状態。

形としてはできているが、相談体制のマンパワー不足を感じる。電話をしてもつながらない時が多々ある。

不足している。

11 相談支援事業の充実のためにどういった取り組みが必要だと思いますか。

基幹相談支援センターができることで、現在の委託相談支援所のゆとりができることで、より多くの支援に関わることができる。

相談支援員を増やせる予算措置。

相談事業所の増加に、職員の食の向上への取り組みが必要。

7. 住まいや生活環境について

- 12 障害のある人や子どもが羽曳野市で暮らし続けるために、必要な場所やサービスで不足していることや、改善してほしい点、良い点がありましたら教えてください。

障害者のための住まいの確保（障害者向け住宅の整備、グループホームの整備、住宅改修の資金援助等）

スーパー・コンビニ・郵便局での見守り

ゴミ出しの支援

車いすでの移動がしやすい道路づくり

ヘルパーが不足しており、障害のある人がクラス支援体制が十分とは言えない状況がある。

ヘルパーの充実。

グループホームの質の担保。

グループホームの数は増えてきているが、障害のある人思いを聞かないまま、事業所側の都合で支援をしたり、福祉制度に関して理解されていない事業所が増えてきている。

- 13 災害や防災に関して、障害のある人や子どもへの対応や支援として、望むことを教えてください。

地震や水害のなどの際、避難の声掛けや避難時の同行

BCP 計画と安心して避難できる福祉避難所を増やしてほしい。

8. 配慮を必要とする子どもの現状と支援について

- 14 貴団体が活動する範囲で、医療的ケアを必要とする子どもを見かけることはありますか。見かける場合、対象となる方やその保護者・家族に対して、どのような支援が必要だと思いますか。

保護者の負担軽減のため、保護者の時間の確保

家族や医療的ケアを必要とする人たちの思いや願いを聴き、即対応できる体制。

特に、就学前の保育所に通いたいという医療的ケアの必要な子どもへの優先的な受け入れ態勢をつくる。

保護者の内面をくみとる相談が必要

- 15 貴団体が活動する範囲で、強度行動障害を有する子どもを見かけることはありますか。見かける場合、対象となる方やその保護者・家族に対して、どのような支援が必要だと思いますか。

保護者の負担軽減のため、保護者の時間の確保

家族や保護者任せにせず、社会的な資源、緊急ショートやレスパイト体制をつくる。

また、グループホームや入所施設の入居が決まるまでのショートの支給決定期間の上限をなくし、複数のショートうい利用できるようにする。

強度行動障害のある子どもに専門的な支援ができる施設の受け入れ。

自分達だけで対応するのではなく、社会資源へつなげる事が必要。

9. 総合的な推進について

16 障害に関しての理解の促進のためにどういった取り組みが必要だと思いますか。

障害を持つ方と触れ合う機会

体験談などを当事者から聞く機会

小中学校への出前授業

市民向けのフォーラム（障害の理解）

小学校、中学校との交流の場を増やして、早い時期からのふれあいの場をできるだけたくさん設ける。

多くの機関（社会資源）の方への研修会

17 障害のある人に対するボランティア活動や、障害のある方も参加できるボランティア活動の推進に向けて、どういった取り組みが必要だと思いますか。

・障害の理解のあるボランティア担当者の配置や企画

10. 今後について

18 貴団体では、他団体と連携した活動を行っていますか。

1. 行っている：2件、不明・無回答：1件

羽曳野市自立支援、推進会議と合同研修会

19 貴団体の今後の活動方針や運営の課題に対して、行政や市民、企業・事業所などに対して求める支援（役割分担）や、期待することがあれば、ご意見をお聞かせください。

精神障害の方は、状態が日々変わるため利用者（日中活動の場）の利用につながりにくい。その点を踏まえて、利用者が少ない=不必要な資源であると判断せず、精神障害の特性を加味した評価をしてください。

また、頻回な相談数や長時間にわたる相談が必要であることも理解していただきたい。

卒園、退園した児童へ、翌年のみ次の所属先職員と情報共有。相談受付、訪問対応など、ケース会議も実施。

20 その他ご意見やご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

毎回のようアンケートだけで障害者の意見を聞いたことにするのは、羽曳野市ではもうやめませんか。「当事者の参画」をお飾りとしなないためにも、当事者から直接、丁寧な、ゆっくりとした議論をお願いします。